国立国語研究所学術情報リポジトリ

Zenkoku Hougendanwa Database [Japanese Dialect Database] : Volume 3 Miyagi, Yamagata and Hukusima

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002243

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第３巻 宮城・山形・福島

国立国語研究所資料集 13-3

国立国語研究所
2005

国書刊行会

刊行のことば

昭和52年度から昭和60年度にかけて，「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が，文化庁によって実施されました。調査は，各都道府県教育委員会と連携のうえ，各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は，文化庁の要請により，この調査の計画段階から，指導・助言などにかかわっていました。その後，時を経て，この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は，文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は，方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに，急速に失われつつある各地の伝統的方言を，文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで，国立国語研究所では，受け継いだ資料を有効に利用するために，方言談話の大規模なデータベースを作成し，公開するという計画を開始しました。平成８～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で，平成13年度からは「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」の一環として，全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また，データベース化にあたっては，平成９年度から科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。従来にはあまりなかった，音声と文字化の電子化データを備えていますので，研究や教育に活用いただけることと思います。なお，本資料集の作成については，情報資料部門第一領域の井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては，全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として，多くのみなさまから御協力を得ました。また，各都道府県教育委員会の関係者，および，有志の御助力がありました。刊行にあたって，記して深く感謝の意を表します。

平成17年９月

独立行政法人
国立国語研究所長　杉戸　清樹

利用にあたって

1．内容

この書籍（冊子，CD-ROM，CD）には，以下のものを収録しています。

	冊子	CD-ROM	CD
刊行のことば	○	○	
利用にあたって	○	○	
目次	○	○	
宮城県仙台市1977			
地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【仙台の昔の様子，神仏にまつわる話】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf＋方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	
山形県東田川郡櫛引町1980			
地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【お盆，眠り流しと茄子焼き】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

福島県大沼郡昭和村1982

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【農作業と食生活】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	○		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	○		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	○		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	○		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	○		
各地方言収集緊急調査実施要領	○		

各地方言収集緊急調査の実施について	○		
調査実施上の留意事項について	○		
「全国方言談話データベース」について	○		

Adobe Acrobat Reader		○	

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bit，
waveファイル，ステレオ

CD-ROMは，CDプレイヤーで再生しないでください。CDプレイヤーが壊れることがあります。

本データベース編集にあたっては，個人のプライバシー等に配慮しました。

談話データの中には，現在では，その使用が好ましくないとされるような表現が含まれている場合もあり得ますが，学術的・歴史的資料の保存という観点から，そのまま収録しました。この点にご配慮のうえ，お使いください。

2．著作権

この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータの著作権は，国立国語研究所にあります。

3．利用条件

利用にあたっては，以下の利用条件をすべて守ってください。

（1）国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。

（2）この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータは，どのような目的においても，また，どのような媒体（紙，電子メディア，インターネットを含む）によっても，他人に再配布しないでください。

（3）この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータは，非営利の教育・研究目的に限り，自由に利用できます。ただし，上記（2）は守ってください。

（4）この冊子，CD-ROM，CD に収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は，

「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」などのように，明記してください。

あわせて，成果物を国立国語研究所にご寄贈いただければさいわいです。

（5）以上の利用条件に合致しない場合，あるいは，利用について不明な点がある場合は，国立国語研究所に問い合わせてください。

連絡先：〒190-8561
東京都立川市緑町3591-2
国立国語研究所 情報資料部門
「全国方言談話データベース」係
FAX：042-540-4339

4．付記

データの電子化，CD-ROM，CD の作成については，平成 9 (1997)～17(2005)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。

国立国語研究所資料集 13-3

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第３巻 宮城・山形・福島

目次

刊行のことば …… 3
利用にあたって …… 5

Ⅰ．宮城県仙台市1977 …… 11
地図 …… 12
話者・担当者 …… 13
解説 …… 14
凡例 …… 23
談話 …… 28
【仙台の昔の様子，神仏にまつわる話】 …… 29
注記 …… 92

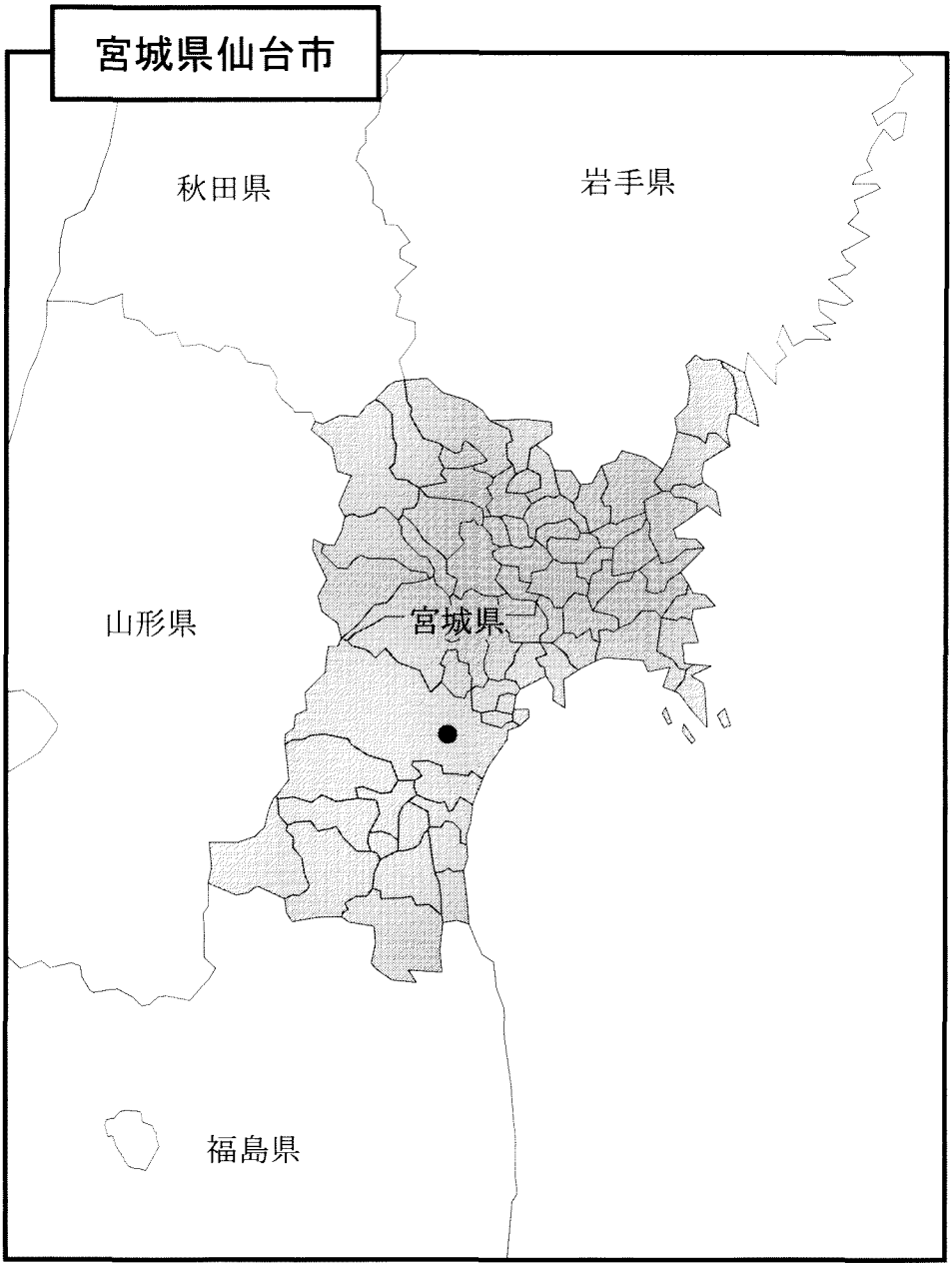
Ⅱ．山形県東田川郡櫛引町1980 …… 97
地図 …… 98
話者・担当者 …… 99
解説 …… 100
凡例 …… 106
談話 …… 111
【お盆，眠り流しと茄子焼き】 …… 112
注記 …… 182

Ⅲ．福島県大沼郡昭和村1982 …… 185
地図 …… 186
話者・担当者 …… 187

解説……188
凡例……195
談話……200
【農作業と食生活】……201
注記……250

作成・公開の経緯……255
「各地方言収集緊急調査」について……257
「各地方言収集緊急調査」地点一覧……261
「各地方言収集緊急調査」地点地図……266
各地方言収集緊急調査補助全体計画……267
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項……268
各地方言収集緊急調査実施要領……269
各地方言収集緊急調査の実施について……272
調査実施上の留意事項について……274
「全国方言談話データベース」について……280

Ⅰ．宮城県仙台市
1977


宮城県仙台市
秋田県
岩手県
山形県
宮城県
福島県

宮城県仙台市1977話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	庄司 かね代
	庄司 深治
	月田 一郎
収録担当者	渡辺 祥子
文字化担当者	渡辺 祥子
共通語訳担当者	渡辺 祥子
解説担当者	渡辺 祥子

（敬称略　項目別50音順）

「全国方言談話データベース」

解説担当者	竹田 晃子　※
編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	竹田 晃子
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

※「収録地点の概観」についての解説は，「各地方言収集緊急調査」報告資料をもとに，「全国方言談話データベース」の公開にあたって，新たに作成した。

宮城県仙台市1977解説

収録地点名　宮城県仙台市八幡（みやぎけんせんだいしはちまん）

収録地点の概観

位置

仙台市は，宮城県の中央にあり，太平洋に面する。収録地点の八幡は，市街地西部に位置し，仙台市を東西に横切る国道48号線に沿った地域である。

交通

国鉄仙台駅までは，上野駅から特急で４時間15分。収録地点の八幡は，仙台駅から西北西に約３kmの地点である。

地勢

仙台市の東部は，七北田（ななきた）川，広瀬川，名取川の堆積によって形成された仙台平野であり，西部は奥羽山脈の東に広がる丘陵地である。三つの河川の中流域に発達した河岸台地や段丘，丘陵地の一部に市街地がある。市内東南を走る長町—利府活断層の東側に広がる沖積平野は，主に農耕地となっている。東北地方としては温暖で降雪もほとんどない。夏は真夏日・熱帯夜が少なく，６～９月の曇天・霧雨時には東北北部・北海道よりも低温となる。

行政区画

1871(明治４)年の廃藩置県により仙台藩が仙台県となり，1889(明治22)年に仙台市となった。その後，周辺の各市町村などを編入し，1977(昭和52)年現在の面積は237.11㎢である。収録地点の八幡は，大崎八幡神社を中心に旧街道筋として栄えた地区で，年越しや松焚祭，例大祭などでにぎわう。

戸数・人口

1975(昭和50)年現在，仙台市の世帯数は200,455戸，人口は615,473人，人口密度は2,596人／㎢である。年代別人口比率では20～30代前半が高い。

産業

仙台市は，東北地方の中心都市として栄え，宮城県外に本社を持つ会社の支店も多い。第１次産業は，総生産額・従業者は少ないものの，旧来の米どころでもあることから行政による保護を受けてきた。第２次産業には，石油化学，

印刷・出版，電気機械・器具，食品加工業などがある。第３次産業は，東北他県への卸売業，仙台市内の小売業，サービス業が中核をなし，とりわけ卸売・小売業の年間販売額は東北６県の３割を超える。1975年の就業傾向では，第３次産業が全体の約６割と高い。収録地点の八幡地区には，酒造所，醤油・味噌製造所，米穀店などがあり，庶民の生活に密着した小売店舗や住宅，賃貸住宅も多い。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

仙台の方言は，無型アクセントを最大の特徴とする南奥方言に属する。都市化に伴う人々の移動や他地域の方言との接触が頻繁になるにつれて，その特色は急激に失われつつある。場面によって共通語と方言を使い分けることも多くなっており，「二重言語」生活者は多い。

音韻

（１）無型アクセントの地域に属し，アクセントで単語を区別することはない。

（２）「イ」は共通語の「イ」よりもやや広い母音で発音され，当地点の「エ」と似通った発音に聞こえる。しかし，相対的には区別があり，例えば「息」の「イ」は「駅」の「エ」よりもやや狭い場合が多い。

（３）「シ」と「ス」，「チ」と「ツ」，「ジ」と「ズ」の混同がそれぞれはなはだしい。「ニ」が「ヌ」に近く聞こえることもある。「ノ」と「ヌ」の区別もはっきりしないことがある。

ナス（梨，茄子）
クズ（口，靴）
ノル，ヌル（乗る）

（４）「シュ」「チュ」「ジュ」が「ス」「ツ」「ズ」になることがある。

テース（亭主）
ツーザエショ（駐在所）
シ゛ズズ，ス゛ズズ（手術）

（５）「キ」「ギ」が破擦音化し，「キ」「キャ」「キュ」「キョ」「ギ」「ギャ」「ギュ」「ギョ」が「チ」「チャ」「チュ」「チョ」「ジ」「ジャ」「ジュ」「ジョ」に近く

発音されることがある。ただし，市中心部ではあまり聞かれなくなっている。

チル（切る）
カジ（柿）
チャダズ（脚立）
ヤチュー（野球）
チョー（今日）
ジューニュー（牛乳）
ジョ゛ジョー（漁業）

（6）「ヒ」「ヒャ」「ヒュ」「ヒョ」が「シ」「シャ」「シュ」「ショ」に近く発音されることがある。ただし，市中心部ではあまり聞かれなくなっている。

シト（人）
シャッコエ（冷やっこい，冷たい）

（7）「セ」「ゼ」が「シェ」「ジェ」と発音されることがある。「チェ」という音声も観察される。

シェンダエ（仙台）
ジェンジェン（全然）
チェデ（連れて）

（8）ラ行子音がイ段音の直後にくる場合は，[ʃ] あるいは [ɕ] になることが多い。ラ行子音がウ段音の直後にきた場合も，類似の現象が見られる。

シシャネ（知らない）
シショエ（白い）
キシェル（切れる）
ワシェル（忘れる）

語頭以外のラ行子音が脱落することもある。

ゴザイス（←ゴザリス）（ございます）
ソダデラエッドギワ（←ソダテラレルトキワ）（育てられる時は）

（9）ラ行子音がヤ行音に近く聞こえることがある。特に，「これ」や「ほら」などが間投助詞的に用いられた場合に見られる。

コエ（これ）

ホヤ（ほら）

(10)「ホ」が「フォ」のように発音されることがある。

(11) カ行・タ行の子音が，語頭以外では有声化する。

サガ（坂）
エギ（駅）
ワフグ（和服）
ガゲ（崖）
ノゴキ゜リ（鋸）
カダメ（片目）
フズ（縁）
カズラ（桂）
ハデ（果て）
ニワドリ（鶏）
オギャクサン（お客さん）
オギョー（お経）
オジャ（お茶）
ドジュー（途中）

前後の子音の有声無声，母音の広狭などの他の条件によっては，有声化しないこともある。その場合の母音は無声音が多い。

ハクサイ（白菜）（「ハグサイ」とは言わない）

語によっては，語頭でも有声化するものがある。

ガガサン（かかさん，女房，母，おかみさん）
ガンバゴ（棺箱）
ビル（蛭）

(12) カ行・タ行の子音が語頭以外で有声化するのと並行して，ガ行・ダ行の子音が語頭以外で入りわたり鼻音を伴う。このため，語頭以外でのカ行とガ行，タ行とダ行の音韻的な区別ははっきりしている。

クギ（茎），クキ゜（釘）
アゲル（開ける），アケ゜ル（上げる）
マダ（また），マンダ（まだ）

マズ（松），マ゛ズ（まず）

ハデ（果て），ハ゛デ（派手）

鼻音化については，強く現れる場合とほとんど聞きとれない場合とがあるが，音韻的区別が必要な場合にははっきりつけられている。

(13) 語頭以外のバ行子音は，ほとんどの場合鼻音を伴う。ザ行子音も，語頭以外で同様の現象が見られる。

(14) 鼻音を伴った有声子音が無声化することがある。さらに，鼻音が独立して発音されることもある。

フ゛チサン（富士山）

ワンツカ（わずか）

(15) 長音，撥音，促音を十分に発音しない傾向が見られる。

ザエコ゜（在郷）

～ナテ（～なんて）

ワラタ（笑った）

(16) 1音節語は，長く伸ばして発音されることがある。

キー（木）

メー（目）

ハー（歯）

テー（手）

文法

（1）格助詞「が」「を」が省略されることが多い。

オレ　エッテ（私［が］行って）

オジャ　ノム（お茶［を］飲む）

（2）共通語の「に」「へ」にあたる助詞として「サ」が用いられることがある。

ヤマサ　ノボル（山に登る）

ニシサ　エク゜（西へ行く）

アソビサ　エク゜（遊びに行く）

（3）推量・意志の助動詞は「べ」である。前にくる音声によっては「ぺ」になることもある。

ワラウベ（笑うだろう）

カクベ（書こう）

エキ゜スペ（行くでしょう）

（4）過去の助動詞は「タ」である。「ダ」の形で現れることが多い。「ッタ」「タッタ」「ダッタ」の形で「ていた」「たのであった」の意味に用いることがある。

キーッダ（聞いていた）

キタッタ（来たのであった）

キッタッタ（来ていた）

（5）当為・義務の表現は「ナクテネァ」（ねばならない）である。

リョコー　シナクテネァ（旅行をしなければならない）

（6）可能の表現に「スルニイー」あるいは「スンヌイー」があるが，あまり用いられなくなっており，「レル」「ラレル」のほうが多く用いられる。

（7）「～してほしい」「～してもらう」の意を表す場合，「～サレタイ」「～サレル」「～シテケラレル」のような受身の言い方を転用することが多い。

（8）強調の文末詞「サ」「チャ」が多用される。「チャ」は「ッチャ」となることが多い。「ベ」が変化したと考えられる「エ」がついて「エッチャ」となることも多い。「～だろう」と確認する気持ち，「～よね」と相手の同意を求める気持ちを表すこともある。「ワ」「ネ」と併用されて「サワ」「チャワ」「サネ」「チャネ」の形になることもある。古くから仙台弁の特徴として意識されていたらしく，「仙台ベッチャ云々」のはやしことばもあった。

オレ　ハジマンマジダッツッタノサ（私［は］八幡町だと言ったのさ）

ゴッツォ　シタッチャワ（ごちそう［を］したんだよ）

ヨーカ゜スペッチャ（よろしいでしょうよ）

エッタエッチャ（行ったんだよね）

（9）文末詞「ワ」は，共通語の「よ」に近い軽い意味を表すこともあれば，「もはや～してしまったなあ」という完了の気持ちや強めの気持ちを表すこともある。「サワ」「チャワ」のほか，「ノワ」「ヨワ」「ワネ」など，他の助詞と併用されることも少なくない。

コワエクテワ（疲れてしまって）

ネァノワ（もうないの）

エッタヨワ（行ってしまったよ）

ナグナッタヨーダワネー（なくなってしまったようだね）

(10) 聞き手の注意を促す終助詞に「ネ」「ナ」がある。「ネ」はやや丁寧で，客人や目上に対して用いられ，「ナ」は目下の者に対して用いるという意識が強い。

そのほか，「ネレ」「ナレ」「ネヤ」「ナヤ」は，商人の会話にはあまり見られず，職人の会話に頻出することから，ややぞんざいな，あるいは古い形と思われる。

(11) 文末に「ト」「ド」がついた文は，イントネーションにより文意が変わる。

ドーソーカエ　シタンデ　ゴザリスト↑

（同窓会［を］したのでございますよ）〈強調〉

ジカン　ネンダト↑（時間［が］ないんだよ）〈念押し〉

ヘビ　オヨエデンデスト〈非上昇〉

（蛇［が］泳いでいるんだって）〈伝聞〉

ヘンジ　ナエンダド〈非上昇〉（返事［が］ないんだって）〈伝聞〉

語彙

(1)「オレ，オラ」「アンダ」「アエズ，コエズ，ホエズ」が，共通語の「おれ，おいら」「あんた」「あいつ，こいつ，そいつ」よりも幅広く用いられ，「わたし」「あなた」「あれ，これ，それ」の意味で用いられる。

(2)「コノ，ソノ，アノ」「コレ，ホレ，アレ」などが間投助詞的に用いられることが多い。あいづちをうつ場合の「ヤッパリ」「ホント」なども，本来の意味を失って用いられていることが多い。話を始める場合に用いられる「ンダガラ」も，理由の意味をほとんど失っている。

(3) 敬語は，表現が非常に豊富で，段階的にも複雑である。

①尊敬表現として「ゴザル」「サル」がある。「サル」は若い世代は耳にしたことがないという人が多い。

ミデゴザンダ（見ていらっしゃるのだ）

ミナ　カワラサッタ（みんなお変わりになった）

②丁寧表現として「ス」「ガス」「ゴザリス」がある。「ス」の過去形は「シタ」になる。

ソーダネッス（そうですね）

ヨカ゜ス（いいです）

カダルンデガス（語るのでございます）

ソーデゴザリスネー（そうでございますね）

ミデキシタガ（見てきましたか）

「ガス」は，「ス」が促音化することがある。「ガス」と「ゴザリス」が重ねて用いられることもある。

アルンデガッペ（あるのでございましょう）

ヨカ゜ステゴザリスッチャー（よろしゅうございますよね）

③丁寧な疑問を表す表現に「スカ」「ス」がある。「ス」は「スカ」の「カ」が脱落したものとされ，軽い敬意を表す。体言に直接つくこともある。

スク゜　エク゜ノスカ（すぐに行くのですか）

エズ　エッタノス（いつ行ったのですか）

コノ　ウジスカ（この家ですか）

ナニス（なんですか）

④丁寧な伝聞を表す表現に「スケ」がある。

チャワンナ゛ド　アラサルスケ

（茶碗など［が］おありになるとのことです）

⑤丁寧な気持ちを表す文末詞に「シャ」がある。平叙文だけでなく，疑問文の文末につく。体言にもつく。

アルグワゲッシャ（歩くわけですよ）

ナ゛ジョニ　ナンノッシャ（どんなふうになるのですか）

ンメボスッシャ（梅干しですよ）

ナニッシャ（なにですか）

アノッシャ（あのね）

アレッシャ（あれですよ）

⑥「ケロ」（くれ）の敬語表現「ください」にあたる表現に，「ケサエ」「クナエ」「クンツァエ」がある。「クンツァエ」は商家では用いず，一段下に意識されているが，「ケロ」よりは丁寧とされる。「ケサエ」と「クナエ」のどちらがより丁寧かは意見が分かれる。

（以上の「収録地点の方言の特色」についての解説は，基本的に，「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿による。「収録地点の概観」についての解説は，「各地方言収集緊急調査」報告資料をもとに，「全国方言談話データベース」の公開にあたって，新たに作成した。）

宮城県仙台市1977凡例

談話資料は，方言談話音声，方言談話音声の文字化，方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには，ページ単位で切った方言談話音声を，CDには，方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し，方言談話の共通語訳は，漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは，対照ができるように，上下２段を１組として示した。上段が文字化，下段がその共通語訳である。

文字化については，表音的カタカナ表記を用いている。つまり，長音は「ー」で示し，助詞「は」は「ワ」，助詞「を」は「オ」，助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ゜」「キ゜」「ク゜」「ケ゜」「コ゜」はガ行鼻濁音を表す。

また，分かち書き，句読点などは，便宜的なもので，厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における，方言談話音声の文字化の方法は，後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし，今回，「全国方言談話データベース」として公開するにあたり，文字化・共通語訳を整備する際には，当時のマニュアルにはとらわれず，読みやすさ，意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また，この文字化は，時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって，発話の重なりや，複線的な会話の進行の構造が，文字化からは読み取れない。データを使用する際には，文字化・共通語訳を見るだけではなく，実際に，音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している，話者が交替するまでの連続した発言を１発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号　　〈半角〉

発話の通し番号を，各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

話者記号　　〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。（句点）　　〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス　　ソーデス

そうです。　そうです。

、（読点）　　〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？　　〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

↓　　〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ　ヤッタンダナー↓

よく　やったんだな。

（　）　　〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり，口をはさんだりした個所。

（A　……）のように，開き括弧の次にあるアルファベットは，発言している話者を示す。（　）の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお，（　）内のあいづちと，独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：（A　アー　ソーデスカ）

｛　｝　　〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：｛笑｝

｛咳｝

｛手を叩く音｝

×××　　〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム　ム　ムツカシー

×　×　難しい

＊＊＊　　〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

お茶漬けの＊

／／／　　〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ　モジナンデスナ、

／／／／／「文字」なんですね。

［　］　　〈全角〉

方言音声には出てこないが，共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン　　ノセテ

みかん［を］　乗せて

＝　　〈全角〉

［　］内の＝は，意味の説明や，意訳であることを示す。

例：イマ　ユー

今　　いう［＝今話題にあがった］

｜　｜　　〈全角〉

注意書きなど。

例：｜Aに対して｜

〔　〕　　〈全角〉

注記。方言形の意味・用法，特徴的音声などについて説明し，文字化・共通語訳の後にまとめてある。〔　〕内の半角数字は，注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ〔1〕

音声

CD-ROMには，冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに，方言音声をリンクさせていて，各ページにある 再生 の部分をクリックすると，そのページの音声を聞くことができる。

CDには，談話全体の音声を収録している。以下にあげるように，適当な個所で，トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは，方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「宮城01-1」はCDトラック番号が01で，その1ページ目ということである。「宮城01-1」「宮城01-2」……「宮城01-7/02-1」……「宮城11-6」

のように表示される。

また，文字化・共通語訳部分には，CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し，その両側の数字はトラック番号である。
[↑01]，[01↑02]，……[10↑11]，[11↑]のように表示される。

第3巻のCD（72分15秒）には，宮城県仙台市の談話，【仙台の昔の様子，神仏にまつわる話】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
01	p.29・ℓ.1	p.35・ℓ.5	0:02:00
02	p.35・ℓ.7	p.41・ℓ.9	0:02:04
03	p.41・ℓ.11	p.46・ℓ.5	0:01:51
04	p.46・ℓ.7	p.51・ℓ.13	0:02:04
05	p.51・ℓ.15	p.57・ℓ.9	0:02:07
06	p.57・ℓ.9	p.63・ℓ.7	0:02:04
07	p.63・ℓ.9	p.69・ℓ.19	0:02:05
08	p.70・ℓ.1	p.75・ℓ.17	0:02:01
09	p.75・ℓ.19	p.80・ℓ.15	0:01:54
10	p.80・ℓ.17	p.86・ℓ.7	0:01:59
11	p.86・ℓ.9	p.91・ℓ.15	0:01:55
計			0:22:04

宮城県仙台市1977談話

収録地点　　宮城県仙台市八幡（みやぎけんせんだいしはちまん）

収録日時　　1977(昭和52)年11月８日

収録場所　　宮城県仙台市八幡　話者Ｂ氏・Ｃ氏自宅

話題　　仙台の昔の様子，神仏にまつわる話

話者

A	男	1902(明治35)年	(収録時75歳)	石材業
B	男	1906(明治39)年	(収録時71歳)	経営者［Cの夫］
C	女	1910(明治43)年	(収録時67歳)	主婦　［Bの妻］

収録時間（CD）　22分04秒

【仙台の昔の様子，神仏にまつわる話】

話し手

A	男	明治35年生	(収録時75歳)
B	男	明治39年生	(収録時71歳)
C	女	明治43年生	(収録時67歳)

1A：サンザン[1]サナンッテ　イッタ　ゴド　　アル
　　三山になんて　　行った　こと[は]　ある？
　　↑01
2C：ン　　ゴザイス。
　　ええ　ございます。

3A：ハー　オレ　　イッタ　ゴド　　ネァンダナー
　　はあ。私[は]　行った　こと[が]　ないんだな。

　　アレナー。イツガ　アノ
　　あれな。　いつか　あの

4C：アノー　ガッサンマ゛デワ　　イカ゜ナガッタノ。
　　あのう　[私たちは]月山までは　行かなかったの。

5A：ハー　ソスカ。
　　はあ　そうですか。

6B：シテ　　ハク゜ロノ　シタマデ　イッテネ　ウーン　シテ
　　そして　羽黒[山]の　下まで　　行ってね　うん。　そして

7 A：ハー　ハク°ロマデ。（B　エー）ンデ　オレミデァナモンダ。
はあ　羽黒[山]まで。（B　ええ）では　私みたいなものだ。

8 C：ソーナノ。（A　フーン）ヤッパリー　コンデ
そうなの。（A　ふうん）やっぱり　これで

ウゲミオーサンネー　ドゴドネ
受け申されない[＝神仏に受け入れてもらえない]ところとね

（A　ハー　ハー）ウゲモーサッ　ドゴ　アルモンダオネ。
（A　はあ　はあ）受け申される　ところ[が]あるもんだもんね。

9 A：アノネ（B　ン）　オレモー　イツドー　ノボッテァー　ド
あのね（B　うん）私も　1度　登りたい　と

モッタノサ。　ホジタラ　ハク°ロマデ　ッタラネー
思ったんだよ。そうしたら　羽黒[山]まで　行ったらね

ナンダガ　アオッカラ　ノボンノ
なんだか　あそこから　登るの[が]

ヤンダグ　ナッツアッタンダナー。
いやに　なってしまったんだな。

10B：エー。ハー。
ええ。はあ。

11C：ヤッパリネー。
やっぱりね。

12A：ホテ　アスグニ　ゴジューノトー　アルッテネー
そして　あそこに　五重塔[が]　あるってね、

アー　フルエノネー
ああ　古いのね。

13B：エ　ソーネ　エー。
え　そうね　ええ。

14C：ハー。
はあ。

15A：アノッ　トー　ミダェ　ド　モッテ　イッタノサ。　（B　ハー）
あの　塔[を]　見たい　と　思って　行ったんだよ。（B　はあ）

ホスタラ　ク゛ダンナクテナェ
そうしたら　[坂を]下らなければいけない。

アスッカラ　コーネ　サガ　ズーット　クダッテッテ
あそこから　こうね　坂[を]　ずっと　下っていって

16C：エー　ズーット　ヒダリノ　ホーニネ。
ええ。ずっと　左の　ほうにね。

17A：アノ　スキ゜バヤシン　ナガサネー。（C　エー）　アー
あの　杉林の　中にね。　（C　ええ）　ああ

クダッテッテ　マダ　ノボッテクンデ　コレァ　タエヘンダ　ド
下っていって　また　登ってくるのでは　これは　たいへんだ　と

モッテサー　{笑}　クダリモ　スナガッタケット。
思ってね、　{笑}　下りも　　しなかったけれど。

18B：アレネ　アノネ　バスニ　イッテ　ホレ　ヤママデ
あれね　あのね　バスで　行って　ほら　[羽黒]山まで

ノボンダエッチャ　(A　フン　ン　　ン)
登るんだよ。　　(A　うん　うん　うん)

ホンドノ　カケ゜マデネ。(A　ハ　　ハ)
本堂の　　陰までね。　(A　はあ　はあ)

アエズ　テマエノネー　ハク゜ロノ　メー　トッ　ハ　マ
あれ[は]　手前のね　　羽黒[山]の　前　　××　×　×

マチサ　　ハイッタ　ドギネ　(A　ン)
[羽黒の]町に　入った　時ね、　(A　うん)

コッカラ　ノボルンダッテー　　ナニカ゜　　アンノヨ
ここから　登るんだって[いう]　なに[＝目印]が　あるのよ、

サンモンカ゜　アンノ。(A　ハー)　ソゴ　　オリデネー
山門が　　あるの　(A　はあ)　そこ[を]　下りてね、

シテ　カイダン　ホレ　シェンダドガ　　ハッピャグ　アットガ
そして　階段[が]　ほら　1,000[段]だとか　800[段]　　あるとか、

(A　ン　　ン)　アルッテ　　ユッテルネ。
(A　うん　うん)　[それくらい]あるって　言ってるね。

（A　ハー　ハーハ）　アノ　カイダン　ノボレバ　イー。
（A　はあ　はあ）　あの　階段[を]　登れば　いい。

（A　ノボレバ。　ハー　ハー　ハー）
（A　登れば。　はあ　はあ　はあ）

ン　ン。　タイシター　ホレ　ノボッテモシャ　（A　ン）
うん　うん。　たいして　ほら　登ってもですね、（A　うん）

イ゛ズツカンモ　ユックリ　（C　ン）
1時間も　ゆっくり　（C　うん）

アルグツモリダドワ　ノボリアケ゜ンダゲントモ。
歩くつもりだとね、　登り終えるんだけれども。

19A：マダ　ハク゜ロサンモネー　（B　エー）
また　羽黒山もね、　（B　ええ）

アソッカラ　コー　ノボッテッテサ　（C　ハー　ハー）
あそこから　こう　登っていってね、（C　はあ　はあ）

ホンデン　アンベッツァ　ホンデン。
本殿[が]　あるだろうね、本殿[が]。

20C：ソーデゴザイス。
そうでございます。

21A：ネ。　アノ　ホンデンマデ　エッテ
ね。　あの　本殿まで　行って

22C：ッテ。　（A　ネ）　ワダシモ　アスッカラ　モンドッテキタノ。
　　行って。（A　ね）　私も　　あそこから　戻ってきたの。

23A：アー　ホスカ。　　ナンダガ　アスコンドゴニモネー
　　ああ　そうですか。　なんだか　あそこのところにもね、

　　イー　イロンナ　アレ　アノ　イゲガラ　スグエアゲダ　カカ゜ミダノ
　　××　いろんな　ほら　あの　池から　　すくい上げた　鏡だの

　　ナンダノテ　　ズイブン　アルンダモノネ　アレア。
　　なんだのって　ずいぶん　あるんだものね、あれは。

24B：ン。　イマ　　アレ　ホーモツカンネー　（A　ハー）
　　うん。今[は]　ほら　宝物館[を]ね、　　（A　はあ）

　　ベズニ　チャント　タデダガラ。（C　ハー）
　　別に　　ちゃんと　建てたから。（C　はあ）

25A：ハー　タデダ。　　ハー。（B　エー）
　　はあ　建てたの。　はあ。（B　ええ）

26B：アノ　ナンダオン
　　あの　なんだもの

27C：アスコンドゴ　　ウンット　タイラニ　ナッタオンネ。
　　あそこのところ[は]　うんと　　平らに　　なったものね。

28A：アー。ハー　コッツガラ　ノボッテ　（C　エー）　クッ　ドゴネー。
　　ああ。はあ　こっちから　登って　　（C　ええ）　くる　ところね。

アノ　バエテンナンカー　デデサ。
あの　売店なんか　　出てね。

29B：エー　＊＊＊　ソー。チューシャジョー　ホレ　ダンダン
ええ　＊＊＊　そう。駐車場[が]　　ほら　だんだん

（A　ン　ン　ン）　シログー　ナッテネー。
（A　うん　うん　うん）広く　　なってね。

01↑02

30A：アスクマデ　アスッカラ　ウエカ°
あそこまで　あそこから　上[に登るの]が

タイヘンナンデアッペ　ガッサンサ　ノ
たいへんなのだろう。　月山×、　の

31B：マ　アレガラ　アレガラ　ウエネ
ま　××××　あれから　上ね。

32A：アノ　アノ　ミズ　ミズスゞズ　ノボンノ。
××　あの　××　道筋[を]　登るの。

33B：エー　アノ　ミズスゞズ　ミズ　ノボンノ。（A　ホー）
ええ　あの　道筋、　道[を]　登るの。　（A　ほう）

バス　ホレ　ハズコ°ーメマデ　イク°ンダガラ　イマ。
バス[が]　ほら　[月山の]８合目まで　行くんだから、今[は]。

34A：アー　ハジコ°ーメマデ。（B　エー）　ハー　ハー。
ああ　８合目まで。　（B　ええ）　はあ　はあ。

35B：ンデ　ハジコ°ーメガラ　ホレ　アドーワ　アルグ　ワゲッシャ。
それで　８合目から　ほら　あとは　歩く　わけですよ。

ハジコ°ーメン　ドゴノ　（A　ン）　チョット　サギノ　ホレ
８合目の　ところの　（A　うん）　ちょっと　先に　ほら

ジ゛ゾーサン　アッテネ。（A　ハー　ハー）（C　ハー）
地蔵さん[が]　あってね。（A　はあ　はあ）（C　はあ）

ソゴマデワ　ミンナ　ホレ　イク°ノ。
そこまでは　みんな[＝だれでも]　ほら　行くの。

36A：ンダガラ
だから

37B：コドシーワ　Ｘ１サン　ホレ
今年は　Ｘ１さん[が]　ほら

38A：ハー　Ｘ１サン　ンー。
はあ　Ｘ１さん、ええ。

39B：ン　Ｘ１サンー　ノボッテキタンダオ。
うん　Ｘ１さん[が]　登ってきたんだもん。

40A：ホー。ア　ヨグ　エッ
ほう。あ　よく　××

41B：Ｘ２ツァンワ　Ｘ２ツァンワ　マエーネン　ノボルネ。
Ｘ２さんは　Ｘ２さんは　毎年　登るね。

42A：ハー　ハ　　X２ツァンワネ。（B　ン　　ンー）
　　はあ　はあ　X２さんはね。　（B　うん　うん）

　　ヨグー　ノボルナー。
　　よく　　登るな。

43B：ウー。　アトネ　キグズヤノ　X３ツァン　ンデネ
　　ええ。　あとね　菊地屋の　　X３さん、　そうではない、

　　アノ　アレ　X４サン
　　あの　あれ　X４さん

44A：ン　　X４サン　（B　ン）　ア　オドードノ　ホー。　ン。
　　うん　X４さん　（B　うん）　あ　弟の　　ほう。　うん。

45B：ンー。　アノ　ヒトモー　ノボンノネ。
　　うん。　あの　人も　　登るのね。

46A：アー　ノボッタ
　　ああ　登った。

47B：ンー。　ンデモ　　コドシワ　ホレ　キョネンドガ　（A　ン）
　　うん。　それでも　今年は、　ほら　去年とか　　（A　うん）

　　カラダ　ワルグ　シタ　ッテ　ユッテネ　　コドシワ　ノボンネ
　　体[を]　悪く　　した　って　言ってね。　今年は　　登らない

48A：ホラ　ウジノ　ガガ〔2〕モネ　ン　　ヨグ　ノボルノサネー。
　　ほら　うちの　妻もね　　うん　よく　登るんだよね。

49B：ア　ンダネ　　アンダエンナワ。
あ　そうだね、あなたの家の[人]は。

50A：コドシワ　ノボンナガッタゲットモ。（B　ン　　ン）
今年は　登らなかったけれども。　（B　うん　うん）

マエネン　ノボッテルンダ。
毎年　　登ってるんだ。

51C：シバラグ　ノボラサッタオネ。
しばらく　登られたものね。

52A：ウー　ズ　ズイブン　ツ゛ツケダヨワ。オレワ　ハク゜ロサンノ
ああ　×　ずいぶん　続けたのよ。　私は　羽黒山の

アノ　ホンデンマデ　エッテネ　（B　エ　　エ）
あの　本殿まで　　行ってね、（B　ええ　ええ）

アト　　ズーット　トーマワリシテ　ユ゛ドノサンマデ
あと[は]　ずっと　遠回りして　　湯殿山まで

イッタ　ゴド　　アルンダ。（B　アー）
行った　こと[が]　あるんだ。（B　ああ）

ホスット　　ユ゛ドノサンドサ　コー　ンー
そうすると　湯殿山に　　こう　うん、

ガッサンカラ　クダッテクル　ミツネー
月山から　　下ってくる　　道[が]ね、

ズイブン　チューナンダッテナー　アノ　サガワ。
ずいぶん　急なんだってな、　あの　坂は。

53B：ソーネ。
そうね。

54C：ソゴー　アルガサエバ　ツケァノスカ。
そこを　歩かれれば　近いのですか。

55A：ナンダガ　ガッサンカラ　ユ゛ドノサンサ　クンノワネ　（C　アー）
なんだか　月山から　湯殿山に　来るのはね、（C　ああ）

ナンデモ　カンデモ　ソノ　チューナ　ミズ
なんでも　かんでも　その　急な　道[を]

トーッテクルンダッ。（C　ハー）
通ってくるんだって。（C　はあ）

ホシテ　アノー　ンー　ユドノサンノネ　（B　エ）
そして　あの　うん　湯殿山のね　（B　ええ）

アノ　オユ　ワグ　イス　ッツーノカ゜　マダ
あの　お湯[の]　涌く　石　というのが　また

（C　エー　エー）　フルッテルンダ　アレネー。
（C　ええ　ええ）　ふるってるんだ、　あれね。

56B：ソーネ　アガエ
そうね　赤い

57C：ツォーツォ　ツォーツォッドネ。
　　とうとう　　とうとうとね。

58A：イヤ　トートー　　ナカ゜レデルンデネーノ。　（C　アー）
　　いや　とうとう[と]　流れているので[は]ないの。（C　ああ）

　　コーユーネ　（C　アー）　イボスカ゜ギ[3]ミダェナ　（B　ン）
　　こういうね　（C　ああ）　烏帽子柿みたいな　　（B　うん）

　　イスナンダネ　アレネ。
　　石なんだね　　あれ[は]ね。

59B：ソーナノネ。
　　そうなのね。

60A：ソッテ　ミズ　　コー　トートード　ナカ゜レデンノサネー。
　　そして　水[が]　こう　とうとうと　流れてるんだよね。

　　（C　ン）　アノ　イス　イズメンニ　コー　ナカ゜レデル　ワゲダ。
　　（C　うん）あの　石　　一面に　　こう　流れている　わけだ。

61C：ソー　ソ　　ソー　ソ。
　　そう　そう　そう　そう。

62A：ソエツ　　ノボッテイク゜ドネー
　　そいつ[を]　登っていくとね

　　チョード　カギノ　イボスカ゜ギノ　テッペンカラ
　　ちょうど　柿の　　烏帽子柿の　　てっぺんから

オユ　　ワグヨー　　ナッテルンダナー　アレ。
お湯[が]　涌くよう[に]　なっているんだな、　あれ[は]。

63C：ハー　ナルホドネー。
はあ　なるほどね。

64A：コゴンドッカラネ　　ホノ　オユカ°　ズーット　コーネー
ここのところからね、　その　お湯が　ずっと　こうね。

（B　ホー）（C　ハー）
（B　ほう）（C　はあ）

イス　イズメンニ　ツラバッテー　　ナカ°レデル　ワゲー。
石　一面に　散らばって[＝広がって]　流れてる　わけ。

02↑03

65C：ンダガラ　ミンナサ　コー　マンベンナグネ。
それだから　全体に　こう　まんべんなくね。

66A：ンダヨ。　オレ　ユ゛ドノサンサ　イッテ
そうだよ。　私[は]　湯殿山に　行って

ソ　ソレ　ソレダゲ　ミデキタナ。（B　エー）
×　それ　それだけ[を]　見てきたな。（B　ええ）

67C：アズグ　イズモネ　ヘビ　オヨイデンデスト。
あそこ[は]　いつもね　蛇[が]　泳いでるんですって。

68A：ア　ヘビ　イルモン。（C　エ）
あ　蛇[は]　いるもの。（C　ね）

オレ　イッタ　ドギモ　イダヨ。
私[が]　行った　時も　いたよ。

69C：アー。　ナマヌルイガラネ。
ああ。　[お湯が]生ぬるいからね。

70A：コーネ　アノ　ヨゴ　ナカ゜レデクッ　ドゴノ
こうね　あの　横[を]　[お湯が]流れてくる　ところの

スマニネー　(C　エ)　コー　イルンダナー。(C　ハー)
隅にね　(C　ええ)　こう　いるんだな。　(C　はあ)

ハ゛ズメ　ウナキ゜デモ　アッカ　ド　モッタノサ。　{笑}
初め[は]　ウナギでも　いるか　と　思ったんだよね。{笑}

コノ　アッタケァノニ　ウナキ゜モ　ヘンダナ　ド
この　温かいのに　ウナギ[がいるというの]も　変だな　と

モッタラ　シェビナンダオ。(C　ハー)　ハルサギナンカネー。
思ったら　蛇なんだもの。　(C　はあ)　春先なんかね。

71C：タマケ゜ダネー。
驚いたね。

72B：ホラ　ハ　イッペンスカ　イッペンダゲダガラ{4}　ホレ。
ほら　もう　1度しか　1度だけだから、　ほら。

ミンナド　ネーチャンダノド　イッタンデナエガナ
みんなと　おねえさんだのと　行ったので[は]ないかな

アンドギナ。
あの時ね。

73C：ソーダネス。（A　ハー）
そうですね。（A　はあ）

74B：ホシタラ　ホレ　ホノ　イマ　イッター（A　ユ）
そうしたら　ほら　その　今　言った　（A　×）

ユドノサンマデ　ノボッテ（A　ン）　タラ　アシー　ホレー
湯殿山まで　登って、（A　うん）そしたら　足に　ほら

コー（C　ソーナノ）デギモノ　（A　アー）
こう（C　そうなの）できもの[が]（A　ああ）

シッタッタノ　ソレ　ムリシテ　イッタガラ。
できていたの[に]それ[を]無理して　行ったから。

75C：アシネ　デゲモノ　シッタノ　ムリシテ
足に　できもの[が]できているの[に]無理して

イッタガラ　ホラ
行ったから　ほら

76A：アー　アー　アルゲナグ　ナッタ。
ああ　ああ　歩けなく　なった。

77C：ン　アルゲナグ　ナッタガラー（A　ンー）
うん　歩けなく　なったから　（A　うん）

カエッテキテワネ。
帰ってきてしまってね。

78A：Bツァンワ　タガエ　ヤマサ　ノボッタ　ゴド　　アンノスカ。
Bさんは　高い　山に　登った　こと[は]　あるんですか。

79B：タガイ　ヤマッテ　ンダガラ　オレネ　ワゲァ　ドギワ　ホレ
高い　山って、　だから　私[は]ね　若い　時は　ほら

ハク゜　ガッサンサ　ニ゛ド　ノボッタンダゲント
××　月山に　2度　登ったんだけれど

80A：ホー　ノボッタノ　ンデモ。
ほう　登ったの　それでも。

81B：ン　ジェンジェンー　ソンドギノ　ゴドー　ワシェデルモネ。
うん。　全然　その時の　こと[を]　忘れてるもんね。

82A：アー　ネ　イマ　ツカ゜ウガラネー　（B　ネー）
ああ　ね　今[は]　違うからね、　（B　ねえ）

イマワネ。（B　エッ）　ワダシモー　ヤマ　スギダゲットモ
今はね。　（B　ええ）　私も　山[は]　好きだけれども、

ドーモ　ヤマー　スギナンダガ　ノボル　キ
どうも　山が　好きなのか[どうか]、　登る　気[に]

ナンネンダナー。｛笑｝（B　ハー）（C　アシ　×）
ならないんだな。｛笑｝（B　はあ）（C　足　×）

ヤムオエズ　ザオー〔5〕サ　ニサンカイ
止むを得ず　蔵王に　　2、3回

ノボッタ　ゴド　　アンノネー。
登った　こと〔が〕　あるのね。

83B：ハー。
はあ。

84C：コンデ　カミサンモ　ホドゲサンモー　ゴエンノ　アルー　ドゴド
これで　神様も　仏様も　ご縁の　ある　ところと

ゴエンノ　ナイ　ドゴー　（A　アー）　アラサルモンネ。
ご縁の　ない　ところ〔が〕　（A　ああ）　ありなさるものね。

85A：ホントダネー。　ホントダヨ。
本当だね。　本当だよ。

86C：エ。　コエッダゲ　ホントニ　フシギ゜デ　ゴザイスット。
ええ。　これだけ〔は〕　本当に　不思議で　ございますよ。

87A：ン。　ノボル　キデ　ナクトモネー　（C　エー）　アーン
うん。　登る　気で　なくともね、　（C　ええ）　ああ

ノボッテスマウ　ドゴモ　アルスサ。　ノボル　キデ　イッテモ
登ってしまう　ところも　あるしさ。　登る　気で　行っても

（C　ソーナノ）　ノボレネェ　ドゴ　　アルンダガラ。
（C　そうなの）　登れない　ところ〔も〕　あるんだから。

88C：エキ°ダクトモネー　ハンブンマデ　イッテー　（A　ハハ　ハ）
行きたくともね、　半分まで　行って、（A　はは　は）

ソステ　カエッテコナクテ　ンネー　ゴド
そうして　帰ってこなくて[は]　ならない　こと[が]

（A　カエッテキタオネー）　アッカラネスー。
（A　帰ってきたもんね）　ありますからね。

03↑04

89A：ダガラ　アノ　ザオーサネー　アー　アノ　イスズゾー
だから　あの　蔵王にね、　ああ　あの　石地蔵、

ズゾー　タデダエッチャ　（B　エ）　サエノカワラサネ。
地蔵[を]　建てたじゃない、（B　ええ）　賽の河原にね。

（B　エー）（C　アー）　アンドギモ　ベズニ
（B　ええ）（C　ああ）　あの時も　別に

ノボル　キデモ　ナガッタカ°ー　アンマー　（C　ハー）
登る　気でも　なかったが、　あんまり。（C　はあ）

ズゾサン　タデナクテネ　ド　モッテ
地蔵さん[を]　建てなくて[は]ならない　と　思って

ノボッタゲットモネー。（C　ハー）
登ったけれどもね。　（C　はあ）

マー　リヤカサ　ツケデネー　（B　ッホー）
まあ　リヤカーに　[石地蔵を]積んでね。（B　ほう）

リヤカサ　ツケデ　ガカ°オンセン[6]マデ　クダッテサ
リヤカーに　積んで　猿々温泉まで　下ってね、

コッツガラー。（B　ン）　（C　ハー）
こっちから。　（B　うん）（C　はあ）

イ　アノ　ガカ°オンセンノ　テマエナ　ア　アオネオンセン。
×　あの　猿々温泉の　手前の　×　青根温泉。

90B：ン　アオネ。エー。
うん　青根。　ええ。

91A：アレガラ　コー　イッタガラ。（B　ホー）
あれから　こう　行ったから。（B　ほう）

ガカ°オンセン　ズーット　クンダリデネ。（B　ン　エ　エ）
猿々温泉[へは]　ずっと　下りでね。　（B　うん　ええ　ええ）

ガカ°オンセンマデ　イク°　トジュー　リヤカ
猿々温泉まで　行く　途中、　リヤカー[を]

ニンデァ　ツブスツマッタモノ。　（B　ホー）（C　ハー）
２台[も]　つぶしてしまったもの。（B　ほう）（C　はあ）

ジョブナ　リヤガサ　ツケダンダカ°ネ　（B　エ　エ）
丈夫な　リヤカーに　積んだんだがね。（B　ええ　ええ）

モ　イッサ　ツキ°アダッタリナンカ　ステサ
もう　石に　突きあたったりなんか　してさ。

92C：ン。　ンデ　ヨッポド　メァノ　ゴッテ　ゴザイスペ。
　　うん。　では　よっぽど　前の　ことで　ございましょう。

93A：シューセンコ゜ダッチャ　アレネ。　マモナグダー。
　　終戦後だよ、　あれ[は]ね。[戦後]間もなくだ。

94B：ン　シューセンコ゜。ン。　ソーナンダベネー。（A　ン）
　　うん　終戦後。　うん。そうなんだろうね。（A　うん）

95C：アー　ンデ　リヤカーノ　ジダエダオネス。
　　ああ　それで。リヤカーの　時代ですものね。

96A：リヤカーダオ。　アノ　ドーロナンッカワ　（B　マー）
　　リヤカーだもの。あの　道路なんかは　（B　まあ）

　　ナ゛ニモ　（C　エー）　ナエンダモ　マ゛ダ。
　　なんにも　（C　ええ）　ないんだもの、　まだ。

97B：エー　シェマクテネ。
　　ええ　狭くてね。

98A：エマミダエナネ。
　　今みたいなね。

99B：エマミダエナ　ドーロワネ。
　　今みたいな　道路はね。

100A：アンナ　ドーロワ。
　　あんな　[いい]道路は。

アスハルトノ　　ドーロー　　ガエンベ。
[当時は]アスファルトの　道路[では]　ないだろう。

ガカ°オンセンカラサー　コノ　タニカ°ワミダェナ　ドーロ
戞々温泉からさ、　　この　谷川みたいな　　道路[を]

ズーット　コー　ノボッテネー。（C　ハー）
ずっと　　こう　登ってね。　　（C　はあ）

アノ　ノボッ　ドギ　　ヒドカッタノサ。　　コー
あの　登る　　時[が]　たいへんだったのさ。　こう

ジューニンク°ライッデ　カズイダガラネ。　　（B　ハー）
10人ぐらいで　　[石地蔵を]担いだからね。（B　はあ）

ホノ　フタリー　コー　ナランデ　ズゾーサン
その　二人[で]　こう　並んで　　地蔵さん[を]

マンナガニ　ステ　カズク°ド　ミズハバ　ント　　コー
真ん中に　　して　担ぐと、　　道幅[が]　うんと　こう

シショグ　ナリスペ。　　（B　エー）（C　アー）
広く　　[必要に]なるでしょう。（B　ええ）（C　ああ）

リョーホデ　　コー　スットネー。
[地蔵の]両方で　こう　[担ぐと]するとね。

ホエ　　ンメンメダ　　ホエズ。
それ[＝道][を]　埋めながらだ。　そいつ。

アルグ　ドゴ　　ツグリツグリ〔7〕。（B　ハー）　ア
歩く　ところ[を]　造りながら。　（B　はあ）　×

101B：ホエッツァ　カズク°ノツド　カダー　ソロワネド
それに　担ぐのというと、肩が　そろわないと

ンマグ　ネンダガラネー　コエズ。
上手に　できないんだからね、これは。

102A：カダダ　カダ。ンデモ　アノコロヌ　マ゛ダ
[大事なのは]肩だ、肩。　それでも　あの頃には　まだ

（C　アー）　ナンダ　ゴーリギ　ツーノスカー？
（C　ああ）　なんだ、強力　というのですか？

（B　エ　エ）　イロンナ　ニモズ　ショッテ　（B　エ）
（B　ええ　ええ）　いろんな　荷物[を]　背負って　（B　ええ）

ホラ　ノボル　ニンブダズ　ッツァアナー　エ　（C　エー）
ほら　[山を]登る　人夫たち　というな、　ええ　（C　ええ）

ヤマーンナイニン　ツガネー。
山案内人　というかね。

103C：ソユ　シタズー　イダガラネ。
そういう　人たち[が]　いたからね。

104A：ン　ソーユー　シトカ°ネ　イダッタガラー。ヤッパリ
うん　そういう　人がね、　いたから。　やっぱり

ジューニンク°レェネ。　ホシテ　ヤマモ　　クワスエスネー。
10人ぐらいね。　　そして　山[に]も　詳しいしね。

マー　タスカッタッタゲットモネー。
まあ　助かったけれどもね。

105C：ソーユー　ミジアンナエーノ　カダー　ゴザンナクテ
そういう　道案内の　　方が　いらっしゃらなくて[は]

トッテモー
とても

106A：アー　ノボランネネ　ヤマサワ。
ああ　登れないね、　山には。

107C：ノボランネオネ。（A　ンデガス）
登れないものね。（A　そうでございます）

ワレワレ　シロードワ。
我々　　素人[に]は。

04↑05

108A：ンダガラ　ザオー　コシッテー　クマノ〔8〕　コシッテ
だから　蔵王を　越して　　熊野[を]　越して

ヤマカ°ダサ　オリダ　ッツーノ　　イッカイ。（B　ハー）
山形に　　降りた　というの[は]　1回。　　（B　はあ）

イズトダゲ　アルネー。（C　ハー）　ホラー　ホンドギワ
1度だけ　あるね。　（C　はあ）　ほら　その時は、

アレ　　ニコー〔9〕ノネ　（B　ン）　　ンー　　ザオーデ
あれ[は]　二高のね　　（B　うん）　ええと　蔵王で

ソーナンシテ　サンジューサ　サンネンメサ。（B　ハー）
遭難して　　30×、　　33年目ね。　　（B　はあ）

（C　ハーア）　ウー。　ホエズ　サンジューサンネンメンナー
（C　はあ）　　うん。　そいつ　33年目[の記念]にな

ンー　サンカ°グブノ　シタズ　　キテネ　（B　エ）
うん　山岳部の　　人たち[が]　来てね、（B　ええ）

ウー　（C　トッテ）　　クヨーシ　（B　エ）
ええ　（C　｜孫にむかって｜取って）　供養碑[を]　（B　ええ）

（C　アー）　クヨーヒ　　タデデガラ　　ッツンデネ
（C　ああ）　供養碑[を]　建てたいから　というんでね

オレ　　チフ　　シタノサ。（B　ハー）
私[は]　寄付[を]　したのさ。（B　はあ）

ホーシテ　マー　ニコーノ　レンチュー
そうして　まあ　二高の　　連中[で]

ハゴブ　ヤクソグン　ナッタゲットモ　ハゴベネシャ
運ぶ　　約束に　　なったけれども、運べないでしょう、

ガクシェーデ　サンガグブデネー。（B　ソーネー）
学生で、　　山岳部で[は]ね。　（B　そうね）

ホレガラ　コンドー　エスヤノ　ワガエノ　　チエデッテ
それから　今度[は]　石屋の　　若いの[を]　連れていって、

カ゛ズエデ　ノボッタ　ワゲサー。
担いで　　登った　　わけさ。

ズゾサン　　タデル　マエダガラ　モドノ。（B　ハー）
地蔵さん[を]　建てる　前だから、　元の。　（B　はあ）

ハ　ソンドギネー　アノ　クマノ　　ズーット　コシテ
×　その時ね、　　あの　熊野[岳を]　ずっと　　越して、

カッタ〔10〕ガラ　クマノサ　　デデネ。
刈田[岳]から　　熊野[岳]に　出てね。

ホラー　ニコーノー　サンカ゜グブノ　サンカ゜グブデネ
ほら　　二高の　　山岳部の　　山岳部で[は]ない、

アンドギ　　セッチュー　ナンテーノガナ。
あの時[のは]　雪中、　　なんて[いう]のかな。

トザンタェガ？　サンネンイジョーノ　セートダズ　ゼンブ
登山隊か？　　３年[生]以上の　　生徒たち　　全部[で]

ノボッタンダ　ニチュー〔11〕ノネ。（B　ソーネ　アンドギネ）
登ったんだ、　二中のね。　　（B　そうね　あの時ね）

ホシテ　スンダネー
そして　死んだね。

クマノダゲノ　ホラ　イスムロ〔12〕ダノ。（C　ハー）
熊野岳の　　ほら　石室だの。　　（C　はあ）

イスムロノ　ソバサ　タデデ。　　ヤマ＊＊＊
石室の　　そばに　[供養碑を]建てて。　＊＊＊＊＊

109B：X５サンノ　アレ　コノコ゜ロマデー　オフダウリバニ　イダ
X５さんの　あれ　この頃まで　　お札売り場に　いた

X６チャンーカ゜　アノドギ　イッタンダオ゛ネ。
X６ちゃんが　　あの時　　行ったんだもんね。

110A：X６チャンデ　　ネエノ。
X６ちゃんで[は]　ないの。

111B：X６チャンデ　　ネァンスタガ。
X６ちゃんで[は]　ないのでしたか？

112A：X６チャンデ　　ナクテネ。
X６ちゃんで[は]　なくてね。

113C：ハズマンサンノスカ？　　（B　ン）
[X６ちゃんというのは]八幡神社のですか？　（B　うん）

114A：シク゜　X７ノネー　（C　ハー）（B　ン）
××　　X７のね　　（C　ああ）（B　うん）

ホラ　X８チャンカ゜　（B　ン）
ほら　X８ちゃんが、（B　うん）

アノシトカ゜　サンネンセデ　（B　ン）　エズバン　（C　アー）
あの人が　　３年生で　　（B　うん）　いちばん　（C　ああ）

カチューセーデ　ノボッタノ。（C　アー）
下級生で　　登ったの。　（C　ああ）

115B：アー　ソスカ。
ああ　そうですか。

116A：ンダガラー　Ｘ６チャンモ　イレバ
だから　　Ｘ６ちゃんも　いれば、

ノボッタガモ　シェネンダナ。
登ったかも　　しれないんだな。

117B：ン　　Ｘ６チャンモ　ノボッタ　ド　オラ　　キーッダンダヨ。
うん　Ｘ６ちゃんも　登った　　と　私[は]　聞いてたんだよ。

（C　ハー）
（C　はあ）

118A：ン　　ノ　Ｘ６チャン　　ノボッテモネー　（B　ンー）
うん　×　Ｘ６ちゃん[は]　登ってもね。　（B　うん）

マー　アノシトモ　アンマリ　ガラ　　エグネァガラネ。
まあ　あの人も　　あんまり　体格[が]　よくないからね。

119B：ン　　ソレワネ。
うん　それはね。

120A：Ｘ８チャンホンドワネ。
Ｘ８ちゃんほどはね。

121B：エー。 マー Ｘ８チャンサ クラベレャ
ええ。 まあ Ｘ８ちゃんに 比べれば、

ハンブンスカ ネァガラ ワルグ ユードネー。{笑}
半分しか ないから。 悪く いうとね。 {笑}

122A：{笑} ホンダオ。
{笑} そうだよ。

123B：ホー。 ッテー シバラグ アレ ハシェグラ{13}ヌ
ほう。 そして しばらく あれ、 支倉に

Ｘ９テ アノヨ アンドギノ インソズシテェッタ ヒェンシェ
Ｘ９って、 あのね あの時の 引率していった 先生[が]

スバラグ （A ハー） イダッター アズグニネ。
しばらく （A はあ） いた、 あそこにね。

124A：アー ソスカ。 （C アー）
ああ そうですか。（C ああ）

125B：エー。 イマデモ ソノシトノ アド （A ア）
ええ。 今でも その人の [家の]跡[が] （A あ）

アルンデ ネァガナー アッコンドゴニ。 （A アー）
あるので[は] ないかな、 あそこのところに。（A ああ）

エー。
ええ。

126A：アー　X９サンテネ。
ああ　X９さんてね。

127B：X９サン。
X９さん。

128A：ハー。
はあ。

129C：ハー。　ダイニコートーガッコ〔14〕　ナンツッタラ
はあ。　第二高等学校　　なんて言ったら、
05↑06
ムガスー　ホントヌー　タイシタ　モンダッタガラネッス。
昔[は]　本当に　　たいした　もんだったですからね。

130A：イヤー　ホントニネ。　アノー　（C　ネー）
いや　本当にね。　あの　（C　ねえ）

アー　ヤッパリ　シェズカ゜　イガッタンダヤネ。（B　エー）
ああ　やっぱり　時節が　　よかったんだよね。（B　ええ）

ノンビリ　シテネ。（C　ンー）　ソダッタ　　ドギネ。
のんびり　してね。（C　ええ）　[我々が]育った　時ね。

131B：アレ　アノネ。　ワギアカ゜リノ　ソバニッシャ。（A　ン）
あれ　あのね。　涌き上がりの　そばにですね。（A　うん）

132C：タガアスンダ　ハエ　ハガサッテ　　ホントヌ。
高足駄[を]　××　お履きになって　本当に。

133B：アノー　ニッコーノ　モンチューノ　カサエスデ　ネガンベガ
あの　二高の　門柱の　笠石で[は]　ないだろうか

ド　モッテー　ミッ　ドギ　アンダゲントモー。
と　思って　見る　時[が]　あるんだけれども。

134A：アー　ソースカ。
ああ　そうですか。

135B：ワギアカ°リノ　アレ。
涌き上がりの　ほら。

136A：モドノ　ダイニコートーガッコーノ
元の　第二高等学校の

137B：ンー。（A　ハー）コ　マルイ　タマ　ツエデ
うん。（A　はあ）こう　丸い　玉[が]　ついて、

コーユフン　ナッテダ（A　ハー　ハー）アエツ
こういうふうに　なってた（A　はあ　はあ）あいつ[が]

ンデ　ネーガナー　ド　モッテ（A　フーン）
そうで[は]　ないかな　と　思って（A　ふうん）

ミデンダゲントモシャ　ワギアカ°リノ　アレ（A　ン　ン）
見てるんだけれどもね。涌き上がりの　あれ。（A　うん　うん）

イマノ　カニハズ〔15〕ノ　トナリノ　（A　ン）　カラツネー？
今の　「かに八」の　隣の　（A　うん）　空地ね？

（A　ハ　ハ）　アツグンドゴニ　アンノ、
（A　はあ　はあ）　あそこのところに　あるの[が]

ンデネガナー　ド
そうで[は]ないかな　と。

138A：ハー　ソーラシーノ　アリシタガ。　（B　ンー）　フーン。
はあ　そうらしいの[が]　ありましたか。（B　うん）　ふうん。

139B：マ　コエ゛ズァ〔16〕　ツ゛ズギソ゛バダガラ
ま　こいつ[＝C][の実家]は　[二高の]そばだから

ホレ　ニコーダノ　アノヘンノ　ダイカ゜グノ　アダリ
ほら　二高だの　あのへんの　大学の　あたり[を]

コー　ミナ　（A　アー　ホントダネ）
こう　みんな　（A　ああ　本当だね）

アラシテ　アルッタンダベオ。（A　ンダ）　{笑}
荒らして　歩いたんだろうね。（A　そうだ）　{笑}

140C：ダイカ゜グダガラネー。　{笑}
[近所に]大学だからね。{笑}

141B：コーロキ゜　トッタリー。{笑}
こおろぎ[を]　とったり。　{笑}

142C：コーロキ°ナンガ　サンジューク°レァ〔17〕
こおろぎなんか　3升ぐらい

トッテキタモンダオネ。　〔笑〕　ツ゛グダニ〔18〕ニ　スンノガ
とってきたものだもんね。〔笑〕　佃煮に　するのか

ナンテー　イワレデッシャ。イヤイヤ。
なんて　言われてね。　いやはや。

143B：ソエッツァ　ホレ　ウチノ　ソバーッテ
そいつは　ほら　[妻の]家の　そばって[いうと]

アノ　シ゛ミズゴーズノ　トーリニ
あの　清水小路の　通りに、

アノー　モド　オーウジヤデ　モッテダー　アズグ
あのう　元[は]　大内屋で　持っていた　あそこ[の土地は]

ダイカ°グソーチョデ　ネァス
大学総長で[は]　ないし

テーシンキョクチョー　カンシャーニ　ナッテアノガ　アノネ
逓信局長[の]　官舎に　なってたのか。あのね

144C：ンー　イマノー　(A　ン)
うん、今の　(A　うん)

ニッセギビョーイン　(A　ハ。　ハ　ハ)　(B　デ)
日赤病院[が]　(A　はあ　はあ　はあ)　(B　で)

タッタ　タズ　マエネ。（A　ハー　ハー）
建った　建つ　前ね。　（A　はあ　はあ）

145B：アツグニ　リッパナ　オヤスギ
あそこに　立派な　お屋敷

146C：ウーウズヤノ　リッパナ　オヤシギダッタオネスー。（A　ハー）
大内屋の　立派な　お屋敷でしたものね。　（A　はあ）

147B：ウエゴミ　アッテネ。
植え込み[が]　あってね。

148C：メァノ　ホーニ　ジンリキシャノ
前の　ほうに　人力車の

149A：ア　アノヘンワ　ミナネー　（C　エ）　リッパナ　（B　ン）
あ　あのへんは　みんなね、（C　ええ）　立派な　（B　うん）

オニワバリ　アルンダ　ズットネー　（C　ソーデゴザイス）
お庭ばかり　あるんだ、　ずっとね、　（C　そうでございます）

ナランデネー。（C　エ）
並んでね。　（C　ええ）

150C：ブ　ブゲヤシギミダェ　ダッタガラネ。
×　武家屋敷みたい　だったからね。

151A：ホンダネ。　ホンダー。
そうだね。　そうだ。

アノヘンワ　リッパナ　ニワバリ　　ソロッテダオンダ。
あのへんは　立派な　庭ばかり[が]　そろっていたものだ。

152C：ンー。ホイテ　アノ　モンー　ドゴニ　チャント
ええ。そして　あの　門の　ところに　ちゃんと

ジンリキシャノネー（A　ン）　アノー（A　ホンダーネー）
人力車のね、　（A　うん）あの　（A　そうだよね）

タマリカ゜　アッテネー。ダンナサン　ゴザッ　トギ
溜まりが　あってね。　旦那さん[が]　いらっしゃる　時

ソノ　ジンリキシャーデ　ゴザンダッチャ。
その　人力車で　いらっしゃるのね。

153A：ハ　ハスナンカ　テデコガッデネ。（C　エー）
×　橋なんか[に]　連れてこられてね。（C　ええ）

ハスナンテ　ウガッテサ。
橋なんて　うがってさ。

154C：エー　シタ　カワッコ　ナカ゜レデネー。
ええ、[橋の]下[を]　川[が]　流れてね。

（A　ンー）
（A　うん）

155B：イスノ　ヤッパリ　コー　ソッタ　イスバスダオンネー。
石の　やっぱり　こう　反った　石橋だものね。

（A　ンダネ）　（C　ンー）
（A　そうだね）（C　ええ）

アノヘン　　ミナネー。ンー。
あのへん[は]　みんなね。ええ。

156C：ソーシテー　コー　ナッタ　ナンテ　ユー　キダベ
そうして　こう　なった、なんて　いう　木だろう。

ネー　アノ　アレ　クリスマスン　ドキ°　ツカウ　キ。
ねえ　あの、あれ　クリスマスの　時[に]　使う　木。
06↑07

157A：ヒ、アー　ヒ　ヒバスカ。
×　ああ　×　ヒバですか。

158C：シバ。
ヒバ。

159A：モミ。
モミ。

160C：モミダネ。
モミだね。

161A：ンー　モミネ。
うん　モミね。

162C：ソノ　ツキ°ワ　イギ　　アラサッタンダオンネ。
その　奥は　　池[で]　ありなさったんだものね。

163A：アー　イギモ。
　　ああ　池も。

164C：シー　イマモー　ソノ　イギ
　　ええ　今も　　その　池[は]

　　ニッセギデ　　ツカワサッテンノ。　エー。
　　日赤[病院]で　使いなさっているの。　ええ。

165A：アノネ　ニッセギノ　　カケ゜ニ　アルヨ。
　　あのね　日赤[病院]の　陰に　　あるよ。

　　ビョ　ビョーシズノ　カケ゜ニ。
　　××　病室の　　陰に。

166C：ソーナノ。（A　ネー）　エ。
　　そうなの。（A　ねえ）　ええ。

167A：ア　イー　イゲダネ。　アスコンドゴン　　ニワネー。
　　あ　いい　池だね。　あそこのところの　庭ね。

168C：アド　ソノー　カケ゜ノ　ホーヌー　　エズズバス〔19〕ノ
　　あと　その　陰の　ほうに[あった]　五橋の

　　コートーショーカ゜ッコー〔20〕ノー、　ヌモ
　　高等小学校の　　[庭]にも

　　イゲ　　アッタノ。
　　池[が]　あったの。

169A：アー　ソー。　ソスカラ　　アスコンドゴ。
　　ああ　そう。　そうですかね　あそこのところ[は]。

170C：エ　　チーサエノネ。　（A　ハー）
　　ええ　小さいの[が]ね。（A　はあ）

　　モドー　　ツナカ゜ッテダノ。　　（A　ホー）
　　元々[は]　[二つの池が]つながってたの。（A　ほう）

　　ツナカ゜ッテダノネ　　アノー
　　つながってたの[を]ね、　あの

　　ヤシギ〔21〕　ベズニ　シタタメネー　（A　ハー　ハ　　ハ）
　　屋敷[を]　　別に　　したためね、　（A　はあ　はあ　はあ）

　　ガッコーサ　ウッタタメニ　　（A　ハー）
　　学校に　　[土地を]売ったために、（A　はあ）

　　アノ　サグー　コシラエデネス。
　　あの　柵[を]　こしらえてですね。

171A：ハー　ハー。　ンットヌ　アノ
　　はあ　はあ。　本当に　　あの

172C：ンダガラ　ソゴンドゴヌ　　アノー　ワライ゛キ゜ナダー
　　だから　　そこのところに　あの　　笑い木などが

　　コー　ズーット　エ゛ダ　ハッテネー。
　　こう　ずっと　　枝[を]　張ってね。

173A：イマデモ
今でも

174B：ワライキ°ッテ　サグツコーッツンダオネ。
笑い木って、　「サグツコ」というんだもんね。

（A　ハー　ハー）　アレ　サワッド　ワラウ　ナンテ
（A　はあ　はあ）　ほら　さわると　笑う　なんて。

（A　ン　ン　アハハー）（C　ン）
（A　うん　うん　ははは）　（C　うん）

ゴバンチョカ°ッコノ　ニワニ　アッタ　ツルツルダエ
五番丁学校の　庭に　あった　つるつるっていう

キノ　カワ　ネァ　ヤズダオンネ。　ンー。
木の　皮[が]　ない　やつだもんね。　ええ。

175C：アノ　サルスベリドガ　ッテ　ユーンデ　ゴザリエンカ？
あの　サルスベリとか　って　いうんで　ございませんか？

176A：サグズッコネ。　ンー。　ン。
「サグズッコ」ね。　うん　うん。

177C：サルスベリドガ　ナントガ　ッテ　（A　ン　ン　ン）
サルスベリとか　なんとか　って　（A　うん　うん　うん）

（B　ソー）　ユ　ユワサンダッチャネー。（A　ン）
（B　そう）　×　いいなさるんだよね。　（A　うん）

アスグサ　ノボッテッテー　イゲサ　オズダリネー。{笑}
あそこに　登っていって　　池に　　落ちたりね。　{笑}

オデンバノ　ホレ　エットショダッタガラ。（A　ンー）
おてんばの　ほら　１等賞だったから。　　（A　うん）

ソーステ　アスグノー　イギサ　ヘッタッケ
そうして　あそこの　　池に　　入ったら

ビルニ　ミナ　　スカ°ラッデ〔22〕　アシネー
蛭に　　みんな　食いつかれて。　足ね。

178A：アー　ナルホドネ。　ンダッチャ。
ああ　なるほどね。　そうだよ。

179C：ナンダモネァ〔23〕。
なんとも言いようがなく［たいへんなありさまで］

180A：モドモド　アノヘン　　ミズー　ヤッパリ
もともと　あのへん［は］　水が　　やっぱり

オーガッタンデショーネ。
多かったんでしょうね。

181C：オーガッタンデ　ゴザイスト？　コー
多かったんで　　ございますよ。　こう

182A：エゲダノ　　ツグッテモネー。
池だの［を］　作ってもね。

ンナー　ミ゛ズ　イッパエナンダガラー。
みんな　水[が]　いっぱいなんだから。

183C：アノヘン　　コー　クボツナンダネッス。
あのへん[は]　こう　窪地なんですね。

184A：ハー　ソスカラ。
はあ　そうですか。

185C：ダガラ　イゲー　ソッチニモ　コッチニモ　アッテ
だから　池が　　そっちにも　こっちにも　あって、

（A　ン　　ン　　ソ）　イジバン　オッキーノカ゜
（A　うん　うん　そう）　いちばん　大きいのが

イマノ　ニッセギビョーインノネ。
今の　　日赤病院のね。

186A：アー　ナルホドネー。
ああ　なるほどね。

187C：アスグニ　タイシタ　サガナ　イルンデ　ゴザイストシャ
あそこに　たくさん　魚[が]　いるんで　ございますってね、

イマデモ。
今でも。

188A：エマデモ。　ハー。
今でも。　　はあ。

189C：ミンナー　アノ　ビョーインノ　カンジャサン
みんな　あの　病院の　患者さん[が]

ツリコ　シテゴザンダド。
釣り[を]　していらっしゃるんだって。

190A：アー　ナルホド。（C　エ）　アー　ソスカ。
ああ　なるほど。（C　ええ）　ああ　そうですか。

191C：ヨグ　ナッド。
[病状が]よく　なると。

192A：ン　ヨグ　ナッドワネー。（C　エー）　ンー。
ああ　[病状が]よく　なるとね。　（C　ええ）　うん。

193C：ナンボ　トッテモ　イルッテー　ユワサッタネ。
いくら　とっても　[池に魚が]いるって　おっしゃったね。

194A：{笑}　アー　ソスカー？
{笑}　ああ　そうですか。

195C：フカイノ　ソステ。（A　ホー）
[池が]深いの、そして。（A　ほう）

ネンスー　ヘデッカラワネ。（A　ハー　ナルホドネー）
年数[を]　経てるからね。　（A　はあ　なるほどね）

モー　ナンビャグネンテ。
もう　何百年って。

07↑

196B：ソッダガラー　アツクーノー　ムゲァニー　アレ
それだから　あそこの　向かいに、　あれ[は]
↑08
ミシマー[24]ダナ？　アゞズグニ　アッタノ。
三島[学園]だな？　あそこに　あったの。

ジョゞカ゜ッコーナ。　エー。
女学校な。　ええ。

197C：ジョカ゜ッコー。
女学校。

ムガ　ムガスノ　ショグキ゜ョージョカ゜ッコーネ。
××　昔の　職業女学校ね。

198A：ンー　ミシマガグエンネ。　ン　ショグキ゜ョー
うん　三島学園ね。　うん　職業、

ショグキ゜ョージョカ゜ッコーネ。
職業女学校ね。

199B：エー。　ソレカ゜
ええ。　それ[＝職業女学校]が

ミシマン　ナッタ　ワゲダヨネ。（A　ンー）　フーン。
三島[学園]に　なった　わけだよね。（A　うん）　ふうん。

200C：ソーシテ　イマ
そうして　今[は]

シッコサッタンデ　　ゴザイスッカワ　（A　エヤ）
[三島学園は]引っ越しなさったので　ございますかね。（A　いや）

201B：エ　　コンド　アツグワ
ええ　今度　　あそこは

202A：アー　ガッコーワ　シッコシタガ　　シンネァ。ミナ　　ンー
ああ　学校は　　引っ越したか[も]　しれない。みんな　うん

203C：シッコシタノネ。（B　エー）
引っ越したのね。（B　ええ）

204A：ミナ　　タデモノ　トッパラッテネー　（C　トッパラッテネ）
みんな　建物[を]　取り払ってね　　（C　取り払ってね）

ズ　ズナラス　　シテッカラネ。＊＊＊＊
×　地ならし[を]　してるからね。＊＊＊＊

205B：アツク゜ンドゴカ゜　シリズビョーイン　ナルー　ツタン
あそこのところが　市立病院[に]　　なる　　といったの[では]

ネガッタエガ。
なかったろうか。

206A：ンダ　　ソーダド。
そうだ。そうだという[話だ]。

207B：ネ　エー。（A　ン）　ホシテ　ニッセギカ゜
ね。ええ。（A　うん）　そして　日赤[病院]が

コンドー　ナンデモー　ドーブズエン〔25〕ノ　ホーサダガ
今度[は]　なんでも　動物園の　ほうにだか

ナンダガ　　ナンダヨ。
なんだか[に]　[移転]なんだよ。

トミザワ〔26〕ノ　（C　アー）　ホーサ。
富沢の　（C　ああ）　ほうに。

208A：アー　ソスカ　（B　ンー　ンー）　アラ。
ああ　そうですか　（B　うん　うん）　あら。

209C：ソシテ　ニッセギノ　アドモー　シリズビョーイン　ナ
そして　日赤[病院]の　跡も　市立病院　×

210B：マー　ソゴワ　ドーナルガナ。ン。　（C　アー）
まあ　そこは　どうなるかな。うん。（C　はあ）

カス　イマ　アノ　ヤシギナンカ　イダマスガッタンダナ
しかし　今[では]　あの　屋敷なんか　惜しかったんだな

ホントニ　アノ　タズギナンカ　アノ　ミドリニ　ソマテネ
本当に　あの　立木なんか　あの　緑に　染まってね。

アノ　＊＊ネ
あの　＊＊＊

211C：ホーントニネー。
本当にね。

212A：ンダ。　アンナニナ。 エダマスイネー。 ホントダ。 ＊＊＊
そうだ。 あんなにな。 惜しいね。 本当だ。 ＊＊＊

213B：ッガラー　アノ　キタトゾナリニ　アレーナー
それから　あの　北隣に　あれな

ドヘーノ　ンット　フルイ　（C　ンー　ドベーノネ）
土塀の　うんと　古い　（C　うん　土塀のね）

X10サンダガ　ナントガッテ　（A　アー）
X10さんとか　なんとかって　（A　ああ）

シトノ　ヤスギ　アッタエンド　オラ　アツグモ
人の　屋敷[が]　あったけれど、 ほら　あそこも

ズイブン　ムガス　ホラ　サムライサンデモ　アッタンダ
ずいぶん　昔　ほら　お侍さんでも　あったんだ。

214C：サムライヤスギ　ミナ。　（B　ンー）
侍屋敷　みんな。（B　うん）

215A：アー　ホノ　サムライノ
ああ　その　侍の

216C：ズーット　アノ　イギノ　ホーサ　イクドド　ホラ　ヒダリニ
ずっと　あの　駅の　ほうに　行くと　ほら　左に

ユノメーヤ　（A　アー　ユノメサンノ　ハ　ハ　ハ）
湯の目屋　（A　ああ　湯の目さんの　はあ　はあ　はあ）

ユノメナカ゜ヤッテー　アラサッタオネー。　ソゴー　ホレー
湯の目長屋って　ありなさったものね。そこ　ほら

217B：ンバカ゜ミサンテ　カ゛ドニ　ンバカ゜ミサン　アッタ
姥神様って　角に　姥神様[が]　あった。

イマデモ　(C　ン)　アルンデ　ネァガ。(A　アー)
今でも　(C　うん)　あるので[は]　ないか。(A　ああ)

218C：ユノメサンノー　オヤシキ゜カ゜ー　(A　ン)
湯の目さんの　お屋敷が　(A　うん)

シミズ゛ゴーズノ　ホーサ　ムガサッテ　(A　ハー　ハー　ハー)
清水小路の　ほうに　向きなさって　(A　はあ　はあ　はあ)

デ　ナカ゜ヤノ　ホーカ゜　ミナミノ　ホーサ
そして　長屋の　ほうが　南の　ほうに

コー　イツズバスノ　ホーサー　ズーット　ナカ゜グ。ネ。
こう　五橋の　ほうに　ずっと　長く。　ね。

219A：ホー　ナルホドネ。フーン　ユノメサンノ　ハガ
ほう　なるほどね。ふうん　湯の目さんの　××

220C：ソノ　カ゛ドッパナニー　オ゛バカ゜ミサンッテー
その　角先に　姥神様って

(A　アッタエガ)　ホラ　ユノメサンノネ。
(A　あったろうか)　ほら　湯の目さんのね。

221B：エ　　エ。　　ウズ゛カ゜ミサンダガ　（A　ン　　ン）
　　ええ　ええ。氏神様なのか。　　（A　うん　うん）

222C：アノ　アノ　カワ　カワップズヌ　（A　アッタノ）　エ。
　　あの　あの　川　　川っぷちに　　（A　あったの）　ええ。

　　（A　ハー）　アラサッタノ。
　　（A　はあ）　ありなさったの。

　　トッテモ　アラダナ　　ンバカ゜ミサンデネー　（A　ハー）
　　とっても　あらたかな　姥神様でね。　　（A　はあ）

　　アスグノ　シカ゜スサンバンチョーヌー　ウントー
　　あそこの　東三番丁に　　ええと

　　オニ　ナントガ　ッテ　ユー　サガヤー　アラサンノッシャ。
　　鬼　　なんとか　って　いう　酒屋が　　ありなさるのですよ。

　　イマデモー　ゴザッケントモネー。　（A　ホー）
　　今でも　　ございますけれどもね。（A　ほう）

223B：ンダ。　オメワ　　ショッチュード　（C　ン）
　　そうだ。おまえ[＝C]は　しょっちゅう　（C　うん）

　　ジンツァン　　オヤンツァン　ホレ
　　おじいさん[と]　親父さん[が]　ほら

08↑09

224A：アー　ノムガラ。
　　ああ　[酒を]飲むから。

225B：エー　ノムノデ　　ホレ　（A　アー　ナルホド）
ええ　[酒を]飲むので　ほら　（A　ああ　なるほど）

ビンコ　タンガエデッテ　ホレ　ショッチュ
瓶[を]　抱えていって　　ほら　しょっちゅう

カッタンダズガラ。　　{笑}
[酒を]買ったんだというから。{笑}

226C：ン。　ンダゲントモ　イヤ　アノー　ホレ　ソゴーサ
うん。けれども　　いや　あの　　ほら　そこに

シカ゜スサンバンチョーノ　アノ
東三番丁の　　あの

メソジストノ　　ムガエネ　（A　ハエ）
メソジスト[教会]の　向かいに　（A　はい）

キョーカエノ　ムゲァニ　サゲヤ　　アラサッテ　　（A　アー）
教会の　　向かいに　酒屋[が]　ありなさって、（A　ああ）

イマデモー　（A　アル）　アルンデスト。　（A　アー）
今でも　　（A　ある）　あるんですって。（A　ああ）

デ　　ソゴサネー　ヨルヌネ　アノー　コー　シロイヨーナ
それで　そこにね　　夜にね、　あの　　こう　白いような

イショ〔27〕　キテネ　　マイーバン　アノー　サゲ　　カイサ
和服[を]　着てね、　毎晩　　あの　　酒[を]　買いに

ゴザル　　シト　インダ　ドッシャ。　（A　ホー）
いらっしゃる　人[が]　いるんだ　というんです。（A　ほう）

ッダッケネー　アルシ　ホノー
そうしたらね、　ある日、　その

サゲー　イッショー　ウ゛ド　ウッテクナエ
「酒[を]　1升、　ええと　売ってください」

ツワエッデ　ハイー　ッテ
と言われて、「はい」　って[言ったら]

イレモノー、ワ　ザル　　ダサッタンダド。　（A　ホー）
入れ物[に]は　ザル[を]　出されたんだって。（A　ほう）

ナンダエ　ダンナサン　ザルサスカ　　ッテ
「なんだい、　旦那さん、　ザルに[酒を入れるの]ですか」　って

ユッタンダド。
[酒屋が]言ったんだって。

イーガラ　ソエッツァ　イレロ　　ッテ
「いいから　そいつに　[酒を]入れろ」　って

コー　ユーンダド。　（A　ハー　ハー　ハー）
こう　[客が]言うんだって。（A　はあ　はあ　はあ）

ホンデネー　ソノ　ザルサー　イッショー　ザサーット
それでね　その　ザルに　[酒を]1升　ざざあっと

イレダッケネー　{笑}　コボレネンダド。　　(A　オヤオヤ)
入れたらね、　　{笑}　こぼれないんだって。(A　おやおや)

ソシテネー　ホッテー　ナンダガ　オガネ　　ハラタガ
そしてね、　そして　　なんだか、お金[を]　払ったか

ナンダガシテ　ス　シシャネゲントモ
なんだかして、×　知らないけれども、

サッサッサッサド　カエラサンダ　　ドッシャ。　　(A　ハー)
さっさっさっさと　帰りなさるんだ　というんです。(A　はあ)

デ　　マエーバン　ソーナンダド。　(A　ホー)
それで　毎晩　　そうなんだって。(A　ほう)

ンデ　イツガ　イッペン　シシャネヨーニ　　ステ
それで　いつか　一度　　[客に]わからないように　して

ホノァ　アド　　ツケデー　(A　エー)　イッテミダンダド。
その　あと[を]　つけて　(A　ええ)　いってみたんだって。

227A：ア　ミサ　エ、　　ン　ン　ン。
あ　見に　[客の]家[を]。うん　うん　うん。

228C：ソッタッケ　イズズバスノ　ハスン　ドゴサ　キテネー。ハス
そうしたら　五橋の　　橋の　ところに　来てね。　橋[が]

イツズ　アッタガラ。(A　ハ　ハー　ソーダ)
五つ　あったから。(A　はあ　はあ　そうだ)

アッツ　　シミズゴン　　ハスズド
あっち[の]　清水小路[の]　端というと

レンボー[28]ノ　ホードネー　(A　ホー)
連坊[小路]の　　ほうとね、　(A　ほう)

コッツノー　イツズバスノ　ホーニド　アノー　シミズゴーズノ
こっちの　　五橋の　　ほうにと、　あの　　清水小路の

ニスカ°ワニド。(A　ハ　　ハ　　ハ)
西側にと。　　(A　はあ　はあ　はあ)

ンダガラ　イツズバステ　ツケダンダド。
だから　　五橋って　　[地名を]つけたんだって。

229A：アー　ナルホドネー。(C　ン)　ハー。
ああ　なるほどね。　(C　うん)　はあ。

230C：ソノ　ハスノ　タモドサ　イッタッケネー　　アノ
その　橋の　　たもとに　[客と酒屋が]行ったらね、　あの

シ゛ダリノ　ホーサネー　トントン　トントン　トントント
左の　　ほうにね、　とんとん　とんとん　とんとんと

オリデゴザッタンダド。　　(A　ン　　ン)
[客が]降りていらっしゃったんだって。(A　うん　うん)

ホーテネ　　ハット　　モッテ　ビックリ　シテネー
そうしてね　[酒屋は]はっと　思って　びっくり　してね、

ンー　アド　　ニケ゜デ　カエッタンダド。
うん、 あと[は]　逃げて　帰ったんだって。

ソッタッケー　ツキ゜ノシ　アガルグ　ナッテカ゜ラ　ミダッケ
そうしたら　次の日　明るく　なってから　見たら、

シ　シタノ　　アノ　カワップズニネ　ツーサナ　カワラデ
×　[橋の]下の　あの　川っぷちにね、　小さな　瓦で

ヤエダネ　　ホゴラ　　アッテネー　(A　ホー)
焼いた[＝作った]ね、 ほこら[が]　あってね、　(A　ほう)

ソノ　　ンバカ゜ミサンー　(A　ホー)
[それは]その　姥神様[で]　　(A　ほう)

ユノメサンノネ　マモリカ゜ミサンダッタンダド
湯の目さんのね、 守り神様だったんだって。

ウ゛ジカ゜ミサン　ダッタガ　ナンダガネー？
氏神様　　だったか　なんだかね？

ソノー　ンバカ゜ミサーンテ　カガッテダンダド。
その　姥神様って　　書かれていたんだって。

09↑10

231A：アノー　アレー　イツズバスノー　コーバンショ　アッタエッチャ。
あの　あれ　五橋の　交番所[が]　あっただろう？

(C　エ　エ)　アノー　ワギニ　アッタ　カミサンワ
(C　ええ　ええ) あの　脇に　あった　神様は

ナニ　　カミサン　アレ。
なに[という]　神様なの、　あれ[は]。

232C：アノ　シトガ　アソゴカ゜ネー　（B　アノ　カミサン）
あの　人が　あそこがね、　（B　あの　神様）

オ゛バカ゜ミサンネー　（A　アー　ソースカ）　アノー　アマイー
姥神様ね。　（A　ああ　そうですか）　あの　あまり

ハシノー　ソゴニ　　アッタガラネー　（A　ン　ン）
橋の　下[のほう]に　あったからね、　（A　うん　うん）

カワップズヌ　アッタガラ　アレオー　タデデー　（A　ハエ）
川っぷちに　あったから、　あれを　建てて、　（A　はい）

オ゛ドーオ　タデデー　イズズバスデー　マイツキー
お堂を　建てて、　五橋で　毎月

クカ゜ズジューゴニズダッタエガネー　オマズチタノ。
９月15日だったろうかね、　お祀りしたの。

ホッテ　イヨイヨ　コンド　ホラー　コイユ　ヨノナガ〔29〕ニ
そして　いよいよ　今度　ほら　こういう　世の中に

ナッタンデー　（A　ン）　キノシタドーリノ
なったんで、　（A　うん）　木の下通りの

オヤグッサンノ　ソバサ　オヒッコチ　ナスッタノワ。
お薬師さんの　そばに　お引っ越し　なさったのよ。

233A：ホー　アッチャ　ヒッコシタノワ。（C　ハー）
　　ほう　あっちへ　引っ越したのね。（C　はあ）

　　イマ　　アズグニ　　ホンデ
　　今[は]　あそこに[あるのか]、　それで。

　　ナグナッタノワ。
　　[五橋から]なくなったのね。

234B：イッタノ。　　ホー。　ンー。
　　[お薬師さんのそばに]行ったの。　ほう　ふうん。

235C：ソーデ　ゴザイス、　ゴザリエンワ。
　　そうで　ございます、[そうで]ございましょうね。

236A：ハー。　カ
　　はあ。　×

237B：アニキー　オヤガダ〔30〕　ジョーブナ　ドギ　アズグデ
　　兄貴　兄[が]　丈夫な　時[に]　あそこで

　　オマズリー　ンート　サガンニ　ヤッタ　ゴド
　　お祭り[を]　うんと　盛んに　やった　こと[が]

　　アンベッチャ。
　　あるだろうよ。

238C：ン　ンット　サガンダッタノ。
　　うん　うんと　盛んだったの。

239A：アー　サガンダッターネー　アノ　（B　エー）　カミサンネ。
　　ああ　盛んだったものね、　あの　（B　ええ）　神様ね。

　　ワリアイニ　（C　ソーデ　ゴザイスト）
　　割合に　　（C　そうで　ございますよ）

　　サガンナ　カミサンダ。
　　盛んな　　神様だった。

240B：ンー。
　　うん。

241C：ンバカ゜ミサンワネ　（A　ン。　ンダネ）　ソーユー
　　姥神様はね、　　（A　うん。そうだね）　そういう

　　カミサンダオネ。
　　神様だものね。

242B：オラエンナノ　ホレ　Cノ　　アニキ
　　私の家など　　ほら　C[＝Bの妻]の　兄貴[は]

　　フタリー　キョーダエシテ　　シェワジギダッタガラー
　　二人、　　兄弟して[＝そろって]　世話好きだったから。

　　ホンデ　（A　ンー）　オッチー　アニチワ　ヤッパリ
　　それで、（A　うん）　大きい　　兄貴は　　やっぱり

　　チョーナイノー　チョキンダガ　ナンダガ　（A　ンダネ）
　　町内の　　貯金だか　　なんだか、（A　そうだね）

ソーイーナ　　シェワ　（C　ンダノ）　シッタシ
そういう[もの]の　世話[を]　（C　そうなの）　してたし、

（A　ハ　　ハ）　ンダガラ　カダイッポノ　ホーワ
（A　はあ　はあ）　それから　もう一方の　　ほうは

（C　セワンズギダガラ）　ショーボーカンケーデ
（C　世話好きだから）　消防関係で、

（A　アー　ショーボーカンケーデ）　エー　（C　エー）
（A　ああ　消防関係で）　　ええ　（C　ええ）

イダッタガラワ。
[世話をして]いたからね。

ンー　ンダー　ンット　シェワズギダッタンダオネー。
うん　だから　うんと　世話好きだったんだもんね。

243C：ソーシテ　ヤグスドーサー　　イマー　アスグノー
そうして　[姥神様は]薬師堂に　今は　　あそこの

オヤグッスサンノ　ドゴニ　　ゴザリスケ。
お薬師さんの　　ところに　ございますよ。

244A：ア　ムゴーサ　ウズッタノスカ　イマ。（C　ハー）　アー。
あ　向こうに　移ったのですか　今。　（C　はあ）　ああ。

245C：ンダガラ　イズガー　アスグ　ッツノ　ホーサ　イッテ
だから　いつか　あそこ　××の　ほうに　行って

オメァリ　スッカ　ド　モッテモ
お参り　　するか　と　思っても

ナーガーナーガー　コノネ、ナ　デハラナクテネー。
なかなか　　このね、×　出かけられなくてね。

246A：イカ°ンネモンダオネー。
行かれないものだもんね。

247C：マコ°　マコ°デモ　チェデイキ°デァナー　ド
孫、　孫でも　連れていきたいな　と

オモーンダゲンットモネ　オモーダゲデワー　（A　マ）
思うんだけれどもね、　思うだけでは　（A　ま）

ナガナガ　デデカ°ンネンダネー。
なかなか　出かけていけないんだね。

248A：セ　コノ　ナンカ°ツカナ　スズスグ　ナッテガラガナ
×　この　何月かな　涼しく　なってからかな。

オレ　トモダズーノ　ウツ　サカ°シニネ
私[は]　友だちの　家[を]　捜しにね、

ホラー　ヤグシドーマデ　イッタノ。
ほら　薬師堂まで　行ったの。

249C：ハー。
はあ。

250A：ン　ソスタラネー　イマ　ヨホドー　アノ　セービサッテネー
うん　そしたらね　今[は]　よほど　あの　整備されてね。

ホラー　アノー　ナナジューノトー　アッタ　アド　（C　ハー　ハ）
ほら　あの　七重塔[が]　あった　跡　（C　はあ　はあ）

アダリネー　アノヘン　キレーニ　ナッテイダッタネー。
あたりね、　あのへん[は]　きれいに　なっていたね。

コレガラ　ヨグ　ナルンダベネー　ヤグスドーモ。
これから　よく　なるんだろうね、　薬師堂も。

10↑11

251C：オヤグッサンワー　コグブンズーノー、　アスグ
お薬師さんは　国分寺の　あそこ[を]

オガリシテデ　デ　コグブンズデ　アノー
お借りしていて　そして　国分寺で　あの

モー　オヤグッサン　オダズナイワー　ッテ　ユード
「もう　お薬師さん、　お立ち退きくださいな」　って　言うと

モー　サンネン　マッテケサエーン　テ　ユワッテ　（A　ハ）
「もう　３年　待ってください」　って　言われて。（A　はあ）

デ　サンネン　タッタガラネー　ント　コグブンズーデー
それで　３年　経ったからね、　ええと　国分寺で

オヤグッサン　ドーゾ　オダズナスッテ　ヤガイゲスー
「お薬師さん　どうぞ　お立ち退きなさっては　いかがです？」

テ　ユードネ　イマ　サンネン　マッテデケサエン　テ
って　言うとね、「もう　3年　　待っててください」　って。

(A　ハー　ハー)　サンネン　　サンネン　ッテネー　{笑}
(A　はあ　はあ)　「[あと]3年、　3年」　ってね、　{笑}

ナンジューネンモ　クラシタンダズ。　　{笑}
何十年も　　暮らしたんだという[話だ]。{笑}

252A：ハ。　シ　アレ　ドッツ　ドッツカ゜　サギナノー。
はあ　×　あれ　×××　どっちが　先なの？

253C：コグブンズカ゜ー　サギデ　ゴザリエンカー。
国分寺が　　先で　ございませんか。

254A：コグ　コグブンズカ゜　サギナノ。　コグブンズネー。
××　国分寺が　　先なの。　国分寺ね。

255C：ン　オヤグッサン　　オダズナイン　　テ
うん　[だって]「お薬師さん、　お立ち退きください」　って

ユワレンダ　ッズモノ。
言われるんだ　というもの。

256A：ソ　ソノナガノ　ヤグスドーナンダベガラネー　モド。
×　その中の　薬師堂なんだろうからね、　元[は]。

257C：エー。　ホンットネー　アノ　ジャマン　ナットネー
ええ　そうするとね　あの　邪魔に　なるとね、

オヤグッサン　オダズナイン　　テ　　ユワレンダド。
「お薬師さん　お立ち退きください」　って　言われるんだって。

（A　ハ　　ハ）　ンダガラ　イマカラ　サンネン　マッテケサエン
（A　はあ　はあ）　だから　「今から　3年　　待ってください。

サンネンノ　アガツギワ　（A　ハー）　ホノー
3年の　　暁[に]は　（A　はあ）　その

オダズススカラ　　ッテ　ユーンダド。　（A　ンー）
お立ち退きいたしますから」　って　言うんだって。（A　うん）

ツト　　サンネン　タツドネー　{笑}
そうすると　3年　　経つとね。　{笑}

258A：マダ　ケソット　シテワ　　ダッタナ　　{笑}
また　けろっと　してしまって。[そう]だったな　{笑}

259C：ン　　マダ　オヤグッサン　オダズナイン　　テ　　ツード
うん　また　「お薬師さん　お立ち退きください」　って　言うと

イマ　コレガラ　（A　サンネン）　モー　サンネンダゲ　{笑}
「今　これから　（A　3年）　　もう　3年だけ」　{笑}

テ　　ユワサッタ　　ナンテ　ユー　ハナス
って　おっしゃった　なんて　いう　話[を]

チカシェラッダモンダネ　チーサエ　ドギ。
聞かせられたもんだね、　小さい　　時。

260A：シカシ　アソゴノー　ンー　ホエ　　ヤグシドーノ　オマツリガー
　　しかし　あそこの　うん　それ[は]　薬師堂の　お祭りか

　　コグブンズノ　オマズリダガ　シラネットモ　（C　オヤグッサン）
　　国分寺の　お祭りなのか　知らないけれども　（C　お薬師さん）

　　トニガク　サガンダッタンデ　ネノ　ズイブン。
　　とにかく　盛んだったんで[は]　ないの、ずいぶん。

261C：エー　ナノガドーッテネ。
　　ええ　七日堂ってね。

262B：アレ　ショーカ゜ズ　ナノガ　ナノガ゛ドー　ッテ　ユッテ　アレ
　　あれ　「正月　七日、　七日堂」　って　いって、あれ

263A：ハー　ハー　ナルホド。
　　はあ　はあ　なるほど。

264B：アノ　フグベー[31]サ　コー　タゲ　サシテ　アレ
　　あの　ひょうたんに　こう　竹[を]　差して、ほら

　　（A　ンー　ソー　ソー　ン）　（C　ネー）ネー。
　　（A　うん　そう　そう　うん）（C　ねえ）ねえ。

　　（A　ン）　デ　フグベー　ヒューッテ　コー
　　（A　うん）で　ひょうたん[に]　ひゅっと　こう

　　ケズッテッシャ。　（A　ケズッテ）
　　[竹を]けずってね。（A　けずって）

265C：ソ。　オヤグスサンノネ。（A　ン　　ン　　オヤグッサン。　ホー）
そう。　お薬師さんのね。　（A　うん　うん　お薬師さん。　ほう）

266B：ガー　　アツグノ　メァニー　アノー　ア　　マー
それから　あそこの　前に、　　あの　　ああ　まあ

ベゴイス　ッツー　　アエダガネ
「ベゴ石」　っていう　あれだろうかね、

シェンダイベンデァネー　（A　ン　　ン）　（C　ンー）
仙台弁ではね、　　（A　うん　うん）（C　うん）

ウシノ　カダズ　シタ　イス　　アンダ。
牛の　　形[を]　した　石[が]　あるんだ。

267C：ベーゴイス　ッツーノ。
「ベゴ石」　っていうの。

268B：ナ。（A　アー）　ソゴサ　アノ
な。（A　ああ）　そこに　あの

タニガジェー〔32〕カ゜ー　ノ　オカーサンカ？
谷風×　　の　おかあさんか？

ヒャグニズー　ガン　　カゲデ　ンマレダノカ゜
100日[の]　　願[を]　かけて　生まれたのが

タニ゛ガジェダドガ　ナントガ　ッテ　ユヨナ　　ハナス
谷風だとか　　なんとか　って　いうような　話

＊＊＊　（A　アー）
＊＊＊　（A　ああ）

269C：マー　デンセズナンダゲンットモネ。
まあ　伝説なんだけれどもね。

270A：ン　　ソーユーゴドナンダネ。
うん　そういうことなんだね。

271B：ン　　ナンダ　　ソンナ　ハナス　アルンデ
うん　なんだ[か]　そんな　話[が]　あるので[は]

（C　ン）　ネァガナ。
（C　うん）　ないかな。

272C：ンダゲット　　オヤグッスサンワー　アラダガデ　ゴザイスト。
そうだけれど　お薬師さんは　　あらたかで　ございますよ。

アスグノ　オヤグッサンワ。
あそこの　お薬師さんは。

273A：アー　ナルホドネ。　ホンダッチャ。
ああ　なるほどね。　そうだよ。

11↑

宮城県仙台市1977注記

〔1〕サンザン

出羽三山のこと。山形県庄内地方に広がる月山（1,984m）を中心に湯殿山（1,504m），羽黒山（414m）の三山からなる。山岳信仰・修験霊場として名高く，出羽三山神社が山形県東田川郡羽黒町に祀られている。

〔2〕ガガ

「かかあ」「女房」「おふくろ」「おかみさん」などの意味に用いられる。「カ」が語頭で有声化している例。

〔3〕イボスカ゜ギ

烏帽子柿。腰高で先の少しとがった大ぶりな形の柿。

〔4〕イッペンダゲダガラ

「妻が三山参りに出かけたのは１回だけだから」の意。

〔5〕ザオー

蔵王連峰。山形県と宮城県の県境，奥羽山脈の南部にある。

〔6〕ガカ゜オンセン

峨々温泉（峨々温泉）。蔵王に登る途中の小さな温泉。蔵王エコーラインの宮城県側入り口近くの，柴田郡川崎町前川峨々に位置する。「峨々」とは山がギザギザととがった様子。

〔7〕アルグ　ドゴ　ツグリツグリ

石地蔵を真ん中にして両側に担ぐ人が並ぶと道幅が足りなくなるので，道路の端を埋めて道幅を広げながら山を登っていったというのである。

〔8〕クマノ

熊野岳（1,840.5m）。蔵王連峰の一峰で，山形県上山市に山頂がある。ここでは，宮城県柴田郡川崎町から登って山形側に下山したという意。

〔9〕ニコー

二高（宮城県立仙台第二高等学校）。ここで話題になっているのは，その前身である旧制第二中学校の時代に，1918(大正７)年10月23日，旧制仙台第二中学校の生徒151人，教諭４人が蔵王登山中に大吹雪に閉じ込められ，道を見失った９人（生徒７人，教諭２人）が凍死した事件である。

〔10〕カッタ

刈田岳（1,758m）。蔵王連峰の一峰で，山形県と宮城県の県境の山。

〔11〕ニチュー

旧制仙台第二中学校。

〔12〕イスムロ

石室。石組みの避難小屋で，旧制二中の生徒と教諭がここで凍死した。今は屋根もなくなって使われてはいないという。このそばに供養碑を建てた。

〔13〕ハシェグラ

支倉。広瀬川の東岸にある地名。古くは支倉通りと呼ばれ，道沿いに住まいした支倉氏による町名とされる。

〔14〕ダイニコートーガッコ

旧制第二高等学校教養部（現・東北大学）。1933(昭和８)年から，旧制仙台第二中学校（現・宮城県立仙台第二高等学校。1928(昭和３)年から現在の川内地区に所在）と同じ川内地区に所在したため，「仙台二高」からの連想か。

〔15〕カニハズ

「かに八」。カニを売っている店の名前。

〔16〕コエ゛ンヅァ

話し手Ｂ氏の妻である話し手Ｃ氏の生家は，旧制二高のすぐ近くである。

〔17〕サンジューク゜レァ

３升ぐらい。大げさに言っている。

〔18〕ツ゛グダニ

当地にはいなごを佃煮にして食べる風習があることによる連想か。

〔19〕エズズバス

五橋。仙台市中心部の，清水小路から西に伸びている通り周辺の地名。仙台駅の南側。

〔20〕コートーショーカ゜ッコー

旧制仙台市五橋高等小学校（1922(大正11)年～1941(昭和16)年)。現在の仙台市立五橋中学校（1949(昭和24)年～)。

〔21〕ヤシギ

宅地，敷地などを意味する。1軒の屋敷の一部を学校用地として売却したため，元々は一つにつながっていた池も別々に分けられてしまったのである。

〔22〕スカ゜ラッデ

「スカ゜ル」は「虫がつく」の意味のほかに「子どもがなつく」「幽霊がとりつく」などの場合にも用いる。

〔23〕ナンダモネァ

なんとも言いようがないほど，はなはだしくたいへんな様子。

〔24〕ミシマ

現在の学校法人三島学園。1900(明治33)年に東北法律学校を仙台市東二番町で開校し，1903(明治36)年に東北女子職業学校を東三番町に創設。1913(大正2)年，新校舎が落成し，東三番町より清水小路に移転。1947(昭和22)年に三島学園女子専門学校と改称，続いて1951(昭和26)年に三島学園女子短期大学と改称，1958(昭和33)年に三島学園女子大学を開設。1974(昭和49)年，全面的に泉市上谷刈に新築移転。現・東北生活文化大学。

〔25〕ドーブズエン

仙台市立八木山(やぎやま)動物園。市街地の西側の丘陵地にある。

〔26〕トミザワ

富沢。市街地の西側の地名。

〔27〕イショ

衣装。特に和服を指す。

〔28〕レンボー

連坊小路。清水小路から東に伸びている通りの名称。仙台駅の東側。

〔29〕コイユ　ヨノナガ

五橋の近辺は，仙台駅も近くて都市化がはなはだしい状況である。

〔30〕オヤガダ

年上の男の兄弟で，兄。ここでは妻の兄を言っている。

〔31〕フグベー

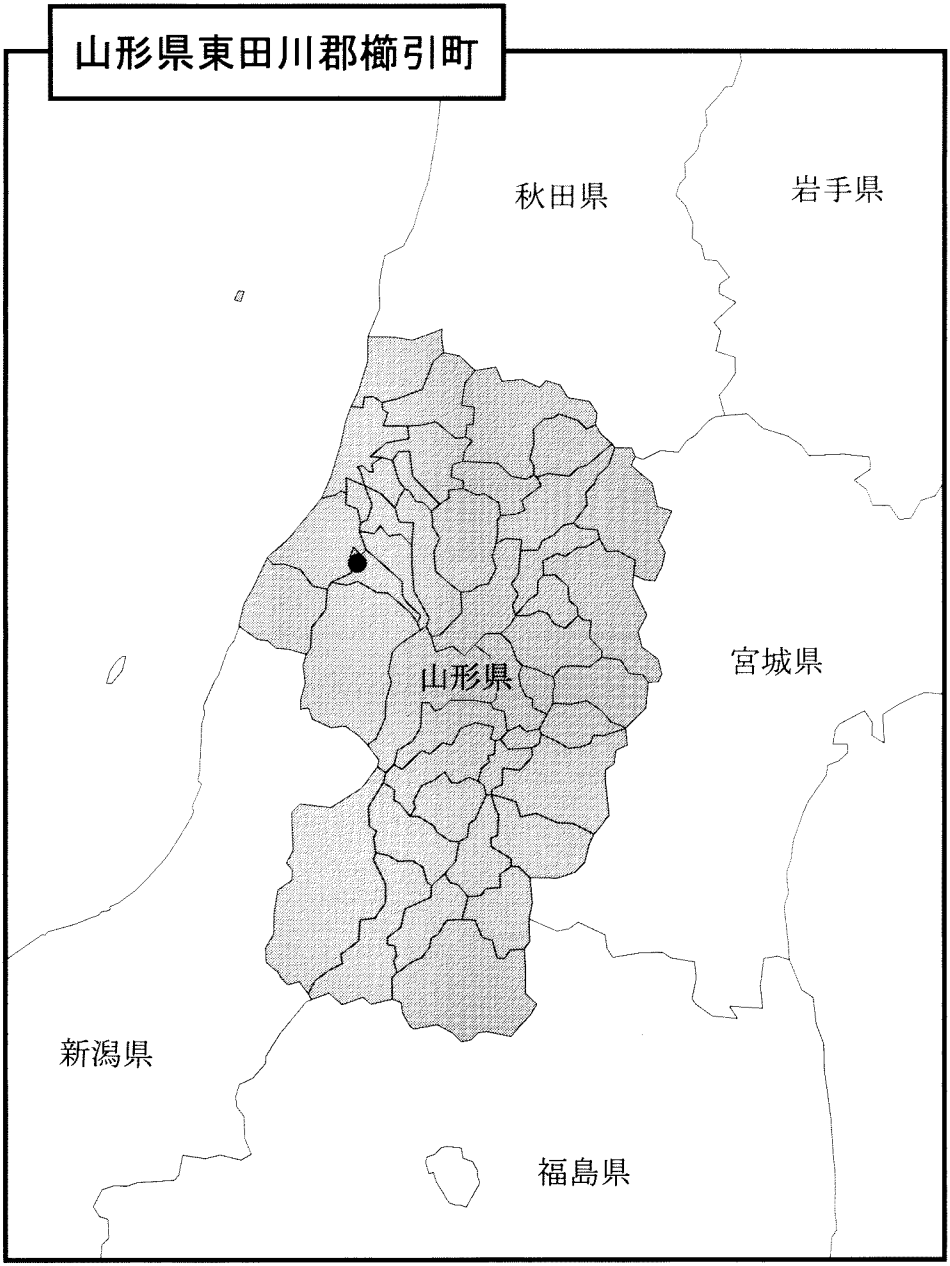
ひょうたんの加工品。ここでは「ひょうたんに竹をけずったものを差して」

の意。

〔32〕タニガジェ

谷風梶之助。1789(寛政元)年に横綱免許を授与された力士。仙台出身。仙台の俚謡に「わしが国さで見せたいものはむかし谷風いま伊達模様」と謡われ，今に伝わる。

Ⅱ．山形県東田川郡櫛引町
1980


山形県東田川郡櫛引町
秋田県
岩手県
山形県
宮城県
新潟県
福島県

山形県東田川郡櫛引町1980話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	前田 静子
	前田 善治
	前田 米
司会者	前田 勝
収録担当者	成田 みよし
文字化担当者	成田 みよし
共通語訳担当者	成田 みよし
解説担当者	成田 みよし

（敬称略　項目別50音順）

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	佐々木 聡子
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

山形県東田川郡櫛引町1980解説

収録地点名　山形県東田川郡櫛引町大字丸岡（やまがたけんひがしたがわぐんくしびきまちおおあざまるおか）

収録地点の概観

位置

櫛引町は庄内平野中央よりやや南方に位置し，西北部は鶴岡市，南部は朝日村，東部は羽黒町と接している。

交通

鶴岡駅から国道112号線をバスで南に約30分行ったところにある。

地勢

櫛引町は町の中央部を南北に流れる赤川の扇状地に開けた町である。東部には月山山麓地帯が広がり，西方には金峯山（きんぽう），母狩山（ほかり）がそびえている。調査地点は最上川南の山間部と平野部の入りくんだ場所にある。最高気温と最低気温の差は比較的少なく，積雪量も割合少ないが，冬は猛吹雪が襲うこともしばしばある。北西風の吹く日が多いため，東南を開き北西をふさぐように家を建てたり，四方を杉やサワラの生垣等で囲んで暴風に備えたりする家が多い。

行政区画

1954(昭和29)年，山添村と黒川村が合併して櫛引村が誕生した。1956(昭和31)年，鶴岡市との境界変更により，鶴岡市から旧・斎村の三千刈を編入し，1966(昭和41)年に櫛引町となった。

戸数・人口

1980(昭和55)年現在，櫛引町の世帯数は1,792戸，人口は8,908人である。

産業

産業の中心は農業で，町の面積81,500㎢のうち，水田が24%を占める。近年は養豚，養鶏，金魚の養殖，果樹栽培など多角経営を試みるものも多く，冬季の出稼ぎは減少している。工場で働く人も増加の傾向をたどっている。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

山形県の方言は，北奥方言（有型アクセント）に属する庄内方言と，南奥方言（無型アクセント）に属する内陸方言とに大きく分かれる。庄内方言の中でも，最上川の川北（酒田市，飽海(あくみ)郡）と川南（鶴岡市，東田川郡，西田川郡）では多少違いが見られる。

音韻

（1）母音にはさまれた［k］［t］が有声化する。

ツギ（月）

マド（的）

（2）［b］［d］［z］［g］の前に入りわたり鼻音が入る。

オⁿビ（帯）

マⁿド（窓）

スⁿズ（鈴）

（3）「アイ」「アエ」が「エァ［ɛ］」となる。

ケァー（貝）

コゥエァ（怖い）

ネァー（苗）

（4）「シ」「チ」「ジ」「ス」「ツ」「ズ」の母音が中舌化する。

ナシ［nasï］（梨）

マジ［mazï］（町）

ナシ［nasï］（茄子）

チエ［tsïę］（杖）

チジ［tsïzï］（地図）

（5）「エ」が「イ」に近く発音される。

エギ［ękï］（駅）

アメ［amę］（雨）

（6）合拗音「クヮ」「グヮ」が見られる。

クヮジ（火事）

グヮイコク（外国）

スイグヮ（スイカ）

エーグヮ（映画）

（7）「セ」「ゼ」が「シェ」「ジェ」となる。

シェミ（蝉）

アシェ（汗）

ジェームショ（税務署）

カジェ（風）

（8）「ヒ」「へ」「ヒャ」「ヒュ」「ヒョ」が「フィ」「フェ」「フィャ」「フィュ」「フィョ」と発される。

フィケ°（ひげ）

フェビ（蛇）

フィャク（百）

フィューズ（ヒューズ）

（9）「ユ」が「ヨ」になることがある。

ヨギ（雪）

オガヨ（おかゆ）

キョー（灸）

(10) 長音，促音，撥音を十分に発音しない傾向がある。

ゼンコ°（在郷）

ク（食う）

ハステ（走って）

クタ（食った）

～ナテ（～なんて）

文法

（1）一段活用の動詞の命令形は「～レ」となる。「～サヘ」「～ラヘ」で命令を表す言い方もある。

ミレ（見ろ）

オキレ（起きろ）

タベレ（食べろ）

ナゲレ（投げろ）

（2）打消の助動詞は「～ネ」である。「しない」は「サネ」となる。若い世代には「スネ」が多く用いられる。

オハガマイリ　サネバネンダシ

（お墓参り［を］しなければならないものだから）

（3）「～ダ」が過去，「～ッダ」が現在の動作継続を表す。「運んでいる」「飛んでいる」は「ハゴンデダ」「トンデダ」となる。

カエダ（書いた）

カエッダ（書いている，書きつつある）

マダ　ナイッダ（まだ泣いている）

イマ　クッダ（今食べている）

（4）用言，助動詞の終止形について回想を表す「～ケ」がある。「ある」「見る」「来る」「する」につく場合は「アッケ」「ミッケ」「クッケ」「スッケ」となることが多い。

カクケ（書いた）

ツイェケ（強かった）

キレ（ー）ダケ（きれいだった）

カクケノー（書いたね）

ンマク　カクケカ（上手に書いたか）

ンマク　カクケサケ（上手に書いていたから）

カクケンデロノー（書いたんだろうね）

（5）共通語の「～に」「～へ」に対応する助詞「～サ」がある。「～になる」のような場合は「～サ」となることは少ない。

ナス　クシサ　サシテ（茄子［を］串に刺して）

（6）並列を表す表現に「～デラ」「～ダカス」がある。

ヤマデラ　カワデラ（山だとか川だとか）

（7）仮定条件の形に「仮定形＋バ」「意志形＋バ」の二つがある。

イケバ（行けば）

イコバ（行けば）

ミレバ（見れば）

ミロバ（見れば）

シェバ（すれば）

ソバ（すれば）

コエバ，ケーバ（来れば）

コバ（来れば）

「シェバ」（すれば）が文頭で用いられて呼びかけを表すことがある。

シェバ　ハズメッカノ（それじゃ始めようかな）

（8）「（もし）～ならば」「（もし）～のだったら」の意を表す表現は「～ダバ」「～ゴンダバ」である。「ダラバ」という形もあるが，まれにしか用いられない。

スズカダバ（静かなら）

ガッコ（ー）ダバ（学校なら）

イクゴンダバ（行くのだったら）

（9）原因・理由の表現は「～サケ」「～ハケ」「～スケ」である。

イクサケ（行くから）

ミルサケ，ミッサケ（見るから）

カガセルサケ，カガセッサケ（書かせるから）

ハイェサケ（早いから）

キキテ（ー）サケ（聞きたいから）

(10)「けれども」の意味を表す逆接の表現は「～ドモ」である。

イクドモ（行くが）

ミルドモ，ミンドモ，ミッドモ（見るが）

クルドモ，クンドモ，クッドモ（来るが）

ハイェドモ（早いが）

ガッコ（ー）ダドモ（学校だが）

まれに「オキルンドモ」（起きるが）のように言われる。

(11) 強調の文末助詞に「チャ」がある。庄内では多く用いられる。

ナスヤギ　ツグッタッチャ（茄子焼き［を］作ったよ）

(12) 文末に「～ンダ」をつけて婉曲な指示を表す。

イギデガッタラ　イグンダ（行きたかったら行けばいい）

(13) 士族言葉とも言われる丁寧語「～ハル」「～サハル」がある。

アガラハル（食べなさる）

ゴザハル（いらっしゃる）

（以上の解説は，基本的に，「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿による。）

山形県東田川郡櫛引町1982凡例

談話資料は，方言談話音声，方言談話音声の文字化，方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには，ページ単位で切った方言談話音声を，CDには，方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し，方言談話の共通語訳は，漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは，対照ができるように，上下2段を1組として示した。上段が文字化，下段がその共通語訳である。

文字化については，表音的カタカナ表記を用いている。つまり，長音は「ー」で示し，助詞「は」は「ワ」，助詞「を」は「オ」，助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ゜」「キ゜」「ク゜」「ケ゜」「コ゜」はガ行鼻濁音を表す。

また，分かち書き，句読点などは，便宜的なもので，厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における，方言談話音声の文字化の方法は，後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし，今回，「全国方言談話データベース」として公開するにあたり，文字化・共通語訳を整備する際には，当時のマニュアルにはとらわれず，読みやすさ，意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また，この文字化は，時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって，発話の重なりや，複線的な会話の進行の構造が，文字化からは読み取れない。データを使用する際には，文字化・共通語訳を見るだけではなく，実際に，音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している，話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号　　〈半角〉

発話の通し番号を，各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

話者記号　　〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。(句点)　　〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス　　ソーデス

そうです。　そうです。

、(読点)　　〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？　　〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

　　預けておいて？

↓　　〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ　ヤッタンダナー↓

　　よく　やったんだな。

（　）　　〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり，口をはさんだりした個所。

（A　……）のように，開き括弧の次にあるアルファベットは，発言している話者を示す。（　）の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお，（　）内のあいづちと，独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：（A　アー　ソーデスカ）

｛　｝　　〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：｛笑｝

　　｛咳｝

　　｛手を叩く音｝

×××　　〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム　ム　ムツカシー

　　×　×　難しい

＊＊＊　　〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

　　お茶漬けの＊

／／／　　〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ　モジナンデスナ、

／／／／／「文字」なんですね。

［　］　　〈全角〉

方言音声には出てこないが，共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン　　ノセテ

みかん［を］乗せて

＝　　〈全角〉

［　］内の＝は，意味の説明や，意訳であることを示す。

例：イマ　ユー

今　　いう［＝今話題にあがった］

｜　｜　　〈全角〉

注意書きなど。

例：｜Aに対して｜

〔　〕　　〈全角〉

注記。方言形の意味・用法，特徴的音声などについて説明し，文字化・共通語訳の後にまとめてある。〔　〕内の半角数字は，注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ〔1〕

音声

CD-ROMには，冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに，方言音声をリンクさせていて，各ページにある再生の部分をクリックすると，そのページの音声を聞くことができる。

CDには，談話全体の音声を収録している。以下にあげるように，適当な個所で，トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは，方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「山形12-1」はCDトラック番号が12で，その1ページ目ということである。「山形12-1」「山形12-2」……「山形12-6/13-1」……「山形25-8」

のように表示される。

また，文字化・共通語訳部分には，CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し，その両側の数字はトラック番号である。
[↑12]，[12↑13]，……[24↑25]，[25↑]のように表示される。

第3巻のCD（72分15秒）には，山形県東田川郡櫛引町の談話，【お盆，眠り流しと茄子焼き】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
12	p.112・ℓ.1	p.117・ℓ.11	0:01:59
13	p.117・ℓ.13	p.121・ℓ.7	0:01:54
14	p.121・ℓ.9	p.127・ℓ.13	0:02:04
15	p.127・ℓ.15	p.128・ℓ.15	0:00:35
16	p.128・ℓ.17	p.133・ℓ.5	0:02:09
17	p.133・ℓ.7	p.138・ℓ.1	0:01:59
18	p.138・ℓ.3	p.141・ℓ.19	0:02:01
19	p.141・ℓ.19	p.148・ℓ.13	0:02:14
20	p.148・ℓ.13	p.154・ℓ.5	0:01:57
21	p.154・ℓ.5	p.159・ℓ.3	0:02:05
22	p.159・ℓ.5	p.164・ℓ.3	0:02:07
23	p.164・ℓ.5	p.169・ℓ.1	0:01:49
24	p.169・ℓ.3	p.174・ℓ.13	0:02:03
25	p.174・ℓ.15	p.181・ℓ.13	0:01:52
計			0:26:48

山形県東田川郡櫛引町1980談話

収録地点　　山形県東田川郡櫛引町大字丸岡（やまがたけんひがしたがわぐんくしびきまちおおあざまるおか）

収録日時　　1980(昭和55)年８月４日

収録場所　　山形県東田川郡櫛引町大字丸岡字町の内　話者Ａ氏自宅

話題　　お盆，眠り流しと茄子焼き

話者

A	女	1898(明治31)年	(収録時82歳)	農業
B	男	1910(明治43)年	(収録時70歳)	農業
C	女	1916(大正５)年	(収録時64歳)	農業

司会者

D	男	1942(昭和17)年	(収録時38歳)	地方公務員

収録者

男　(収録談話中に発話なし)

女　(収録談話中に発話なし)

収録時間（CD）　26分48秒

【お盆，眠り流しと茄子焼き】

話し手

A	女	明治31年生	（収録時82歳）
B	男	明治43年生	（収録時70歳）
C	女	大正５年生	（収録時64歳）
D	男	昭和17年生	（収録時38歳） 司会者

１Ｄ：ハチカ゜ツワ　オボン
　　８月は　　お盆
　↑12
２Ａ：ムラノ　ギョージジャ　アレワ　ネンノ　ハジカ゜ズワ　アンドモノ
　　村の　行事では　あれは　ないね　８月は　あるけれどもね

３Ｄ：アノ　ハチカ゜ツノー　ハイッド　スク゜ノ
　　あの　８月の　入ると　すぐの

　　ナヌカビ〔1〕　ッテノワ　アレワ　アレワ　シューキョーテキナ
　　七日盆　というのは　あれは　あれは　宗教的な

　　ナニカガラ　キタモンダロカ
　　なにかから　来たものだろうか

４Ａ：ドッカラ　キタナデ　ゴド　アンメドモ
　　どこから　来たなどという　こと[は]　ないだろうけど

　　ナヌカビ　ッテ　ユーデド　カナラズ　ソーメン　クッタモンダ
　　七日盆　って　いうと　必ず　そうめん[を]　食べたものだ

5D：ソーメン （A　ン）　ホー　ホー　ドーシテダロ
　　そうめん （A　うん）ほう　ほう　どうしてだろう

　　（A　ハジカ゜ズノ　ナヌカ　ッテ　ユード）
　　（A　8月の　　7日　　と　　いうと）

6C：ナニノ　イワレダロー
　　なにの　いわれだろう

　　ホッソグ　ナンカ゜グ　ツズグヨーニダナンテ
　　細く　　永く　　続くようにだなどと[いって]

7A：ドッカ　ナニノ　イワレダモンダガ　ソーメン　　クッタモンダテ
　　どこか　なにの　いわれなのか　　そうめん[を]　食べたものだ

　　ソシテ　ヤスミダモンダッケシノ
　　そして　休みだったものね

8D：ジコ゜クノ　カマノ　フタカ゜　アク　ッテ　ユーノワ
　　地獄の　　釜の　　ふたが　開く　と　　いうのは

　　ソレワ　ジューサンニジダゲノー
　　それは　13日だけの

9A：ソレワ　ヒカ゜ンノ　チューニジ　（B・C　ヒカ゜ンノ　チューニジ）
　　それは　彼岸の　　中日　　（B・C　彼岸の　　中日）

10D：チューニチダケ　アー　ソーカ
　　中日だけ？　　ああ　そうか

11A：ヒカ°ンノ　チューニジワ　アギノ　ヒカ°ンモ　ハルノ　ヒカ°ンモ
　　彼岸の　　中日は　　秋の　　彼岸も　　春の　　彼岸も

12C：ハルノ　ヒカ°ンモノ　ニンド　アッテヤノー　（A　ウン　ウン）
　　春の　　彼岸もね　　２度　　あるよね　　（A　うん　うん）

13D：ナヌカビワ　アレ　ナニカ　ソーユ　　ブッキョーノ　アレト
　　七日盆は　　あれ　なにか　そういう　仏教の　　あれと

　　カンケー　アルンダナ　シューキョーギョージカ
　　関係　　あるのだね　宗教行事か

14A：ナニガ　カニガ　アルモン
　　なにか　かにか　あるもの[だ]

　　マズ　ムイガワ　ホレ　タナバダデンダシ　（D　タナバダダノ）
　　まず　６日は　　それ　七夕のわけだし　　（D　七夕だね）

　　ドゴデモ　コー　ナンボ　ムガシニモ　タナバタダ　ッテ　　エー
　　どこでも　こう　いくら　昔にも　　七夕　　といって　ええ

　　アノ　ネムリナカ°シ〔2〕　ッチュータモンデ
　　あの　眠り流し　　といったものだ

15C：シジカ°ズ　シ　ダロー
　　７月　　×　だろう

16A：ハジカ°ズヤ
　　８月よ

17C：ネブリナカ°シ　ンダッケガ　　（A　ウン　ネブ　ネブリナカ°シ）
　　眠り流し　　そうだったか？（A　うん　××　眠り流し）

　　ソンナダバ　アノー　ミンナ　ネブリナカ°シ　ッテ　ユード
　　それであれば　あのう　みんな　眠り流し　　と　いうと

　　コドモダジ（A　ンダ　ナスヤギ[3]　ヤイデ）
　　子どもたち（A　そうだ　茄子焼き[を]　焼いて）

　　マズ　ヤク°ラ　ッデ　モノ　　カラグッテモラウンダ
　　まず　櫓　　という　もの[を]　作ってもらうのだ

　　ドゴガ　ヤ゛ド　キメテ　ヤク°ラ
　　どこか　宿[を]　決めて　櫓

18D：ネブリナカ°シ　ッテ　ユーノワ
　　眠り流し　　と　いうのは

19A：ネブッタ　モノ　ナカ°サイル　ッテ　ユー　ドゴロデ
　　眠った　者[は]　流される　と　いう　ところで

　　（D　アー　ハー　ハー）
　　（D　ああ　はあ　はあ）

20C：ンー　ネブネンナ
　　うん　眠らないでね

21A：ソノ　ナス　ナスヤギ　ッテ　　カナラズ　フ゛ダンナノ
　　その　××　茄子焼き　といって　必ず　　普段なんか

ナスヤギナノ　カエル　モンデネーンダモノ
茄子焼きなんか　食べられる　ものでないものだから

（D　アー　ドシテ）　カエル
（D　ああ　どうして）　食べられる

スギョク　ジェータクヒンダモノ
たいへん　ぜいたく品だから

22D：アー　ジェータクヒンデ　ナスカ゜（A　ナスカ゜）
ああ　ぜいたく品で　茄子が　（A　茄子が）

ナスヤギカ゜（A　ンー　ナスヤギカ゜）　エー
茄子焼きが　（A　うん　茄子焼きが）　ええ

（A　ソシテ　ソノー　オラエノ　ガガカ゜）
（A　そして　その　私の家の　妻が）

23C：モットモ　ソノ　ソノドギノ　ナスヤギワ　ナス　コー
もっとも　その　その時の　茄子焼きは　茄子[を]　こう

サシタモンダロヤ　クシサ
刺したものだろうよ　串に

24A：ンダハゲ　ナベヤギナンデ　ゴド　ネー　ナスヤギンデ
だから　鍋焼きという　こと[は]　ない　茄子焼きで

ホントエ　ナス　（C　イマワ　ナベヤギダロー）　（D　ウン）
本当に　茄子　（C　今は　鍋焼きだろう）　（D　うん）

ナスヤギ　ナ　ナンカ°ノー　メンドクサグデ
茄子焼き　×　なんて　　めんどうくさくて

ダレモ　スルヒト　　ナグナッタナ
だれも　する人[は]　いなくなったんだ

ムガシワ　ナスヤギ　ッテ　　ナス　　クシサ　サシテ
昔は　　茄子焼き　といって　茄子[を]　串に　　刺して

イロリサ　タデデ　アブラ　ヒーデ　ヤイデ　ソシテ
囲炉裏に　立てて　油[を]　つけて　焼いて　そして

コッド　ヤゲダ　ド　オモッタ　ヤッ　アレスルド
今度　　焼けた　と　思った　　やつ　あれすると

ナンボガ　カデー　ドゴモ　　アッテモ　イーハゲ
いくらか　固い　　ところも　あっても　よいから

12↑13
アド　コッチノ　クシガラ　ミンナ　ナベサ　アゲ　イレデ
あと　こっちの　串から　　みんな　鍋に　　××　入れて

ソースンド　コサ　　イッダ　ウジガラ　アノ　ンダモンダモノ
そうすると　ここに　入れた　うちから　あの　そうだから

ミソ　　ツケデ　ヤグ　モンダモノ　(D　アー)
味噌[を]　つけて　焼く　もんだもの　(D　ああ)

デ　　ヤゲデ　デキダ　モノオ　コッド　イジオー　ナベサ　トッデ
それで　焼けて　できた　ものを　今度　　一応　　鍋に　　とって

ソシテ　ヒサ　グズグズッド　カゲデド　　（C　アト　ムサイテナ）
そして　火に　グツグツと　かけていると　（C　あと　蒸してね）

ンー　ムサイデヤ　イーナ　（D　アー　アー）
うん　蒸していれば　いいの　（D　ああ　ああ）

（C　フタシテオグド　　ムス　ムシヤギ　ダッテ）
（C　ふた[を]しておくと　蒸す　蒸し焼き　といって）

ソノナサ　イッドギ　　ナッデッド　シソノ　ハッパ
それに　少しの時間[が]　経つと　しその　葉

パラパラパラート　ソシテ　ホントノ　ナスヤギ　ッデ　モノ
パラパラパラと　そして　本当の　茄子焼き　という　もの[が]

カエタオンドモ　　イマノ　ヒトカ゜ダナノ
食べられたものだけれども　今の　人たちなんかは

ナスヤギナンテ　タベル　ゴト　アンメ　アロメーモノ
茄子焼きなんか　食べる　こと　あるまい　ないだろうな

25C：ヤイダナワ　ネーゼ　（D　ン　ネーナ）
焼いたものは　ないよ　（D　うん　ないね）

ソレオ　ヨルノ　コドモダジ　　オ゛ベントーサ　ツメデモラッテ
それを　夜の　子どもたち[の]　お弁当に　詰めてもらって

マメドガ　カ゛ボチャドガ　タナガシェライデ
豆とか　カボチャとか　持たせられて

ホシテ　ヤドノ　エサ　ヤク゜ラ　カゲデ　ホシテ　ソノ
そして　宿の　家に　櫓[を]　かけて　そして　その

イマダバ　ア　キョーシツ　アノー　ガッコーノ　キョーシツサ
今であれば　あ　教室　あのう　学校の　教室に

イロンナ　ハダイシ　カ゛ザル　モノ　アレ　コー　ノ
いろいろな　万国旗[を]　飾る　もの　あれ　こう　ね

イロカ゜ミデ　ソシタ　モノダガシ　スルド　オンナジニ
色紙で　そうした　ものなど[を]　すると　同じ[よう]に

ムガシワ　アノー　ソノ　ヤク゜ラノ　ウエサ　ジブンジブンデ
昔は　あのう　その　櫓の　上に　各自で

ヒノマルノ　ハダオ　カイダリ　アメリカノ　ハダオ　カイダリシテ
日の丸の　旗を　書いたり　アメリカの　旗を　書いたりして

ナンメズズダガ　カイデ　ソシテ　イ゛ドデ　ツナイデ
何枚かずつ　書いて　そして　糸で　結んで

コー　タデヨゴノ？　(D　アー)　イッペ
こう　縦横ね　(D　ああ)　たくさん

ソシテ　ヤク゜ラサ　アカ゜ッテ
そして　櫓に　登って

シテ　オドッコモ　オドッコワ　オドッコノ　ヤク゜ラ
そして　男の子も　男の子は　男の子の　櫓

山形 13-4

オナンコワ　オナンコノ　ヤ゛ド　アッテ
女の子は　女の子の　宿[が]　あって

ホシテ　ソゴ゛デ　モッテイッタ　モノオ　ダシアッテ
そして　そこで　持っていった　ものを　出し合って

クイダリ　モラッタリシテ　タ゛ンベデンダロー？
やったり　もらったりして　食べていただろう

(D　ホー　ホー　ホー　ホー)　ホンデ　ヨンマ　ナッテクッド
(D　ほう　ほう　ほう　ほう)　そして　夜[に]　なってくると

コンド　オッカネー　ドゴサ　コンド　イッテミッデヤノ
今度[は]　怖い　ところに　今度　行ってみるわけだよね

(D　ンー　ンー　ンー)　ンー　(A　ン)
(D　うん　うん　うん)　うん　(A　うん)

ミンナシテ　アッコサ　イッテコー　ッテ
みんなして　あそこに　行ってこよう　といって

イマノ　オバケヤシギサイ　アノー　ヨルワ　デハッテ　アルグド
今の　お化け屋敷に　あのう　夜は　出ていって　歩くのと

オナジ　ソーユー　アソ゛ビ　シタデナ
同じ　そういう　遊び[を]　したわけよ

ヨル　ソノドギシカ　ヨルナノ　アソバイネンダモノ　(D　ハー)
夜　その時しか　夜なんか　遊べないのだから　(D　はあ)

26A：ソシテ　ホレ　ネブッタ　モノオ　ナカ°サイルットク　＊＊＊
　　そして　それ　眠った　者を　流される／／／／／　＊＊＊

　　（D　ハー）　ソサ　トマッテイルンダモノ
　　（D　はあ）　そこに　泊まっているのだもの

　　マサガ　トマッテモ　イネー
　　まさか　泊まっても　いない

27D：ネブリナカ°シ
　　眠り流し
　　13↑14
28C：ン　ナブリナガシ　ッテ　ソーダ　＊＊＊
　　うん　眠り流し　といって　そういうものだ　＊＊＊

29A：ネブリナカ°シ　ネブッタ　モノ　ナカ°サイル　ッテ
　　眠り流し　眠った　者[は]　流される　といって

　　コーユー　ワゲヨ
　　こういう　わけだ

30C：エー　ンダハゲ　ネ゛ブラネデ　ヒトバン　ニキ°ヤシグシテ
　　ええ　そうだから　眠らないで　一晩　にぎやかにして

　　アソンデクッデヤノー　（D　アー　ナルホドネ）　ンー
　　遊んでくるわけだよね　（D　ああ　なるほどね）　うん

31A：メーバンワ　ホレ　コドモダジノ　タノシミミデェナノデ
　　前の晩は　それ　子どもたちの　楽しみのようなもので

アド　ナヌガノ　ヒワ　ナヌガンビ　ッテ
あと　7日の　　日は　七日盆　　といって

カナラズ　ソーメン　　タベダモンダ
必ず　　そうめん[を]　食べたものだ

32D：ホー　ジッチャンワ　ショーフグジデワ　アッタ　ワケデスカ
ほう　おじいさんは　勝福寺では　　あった　わけですか

ソーユーノ　　ナスヤキ
そういうの[が]　茄子焼き

33B：ナスヤギワ　アッタノ
茄子焼きは　あったね

34D：アッタ　ドンナゴド　　ヤッ　ヤッテタ
あった　どんなこと[を]　××　やっていた[ものだ]

35C：オドゴショーダノ　（D　オドコショーダ）
男の人たちは　　（D　男の人たち）

ドンゲナゴド　　シッタモンダガ
どんなこと[を]　していたものだったか？

36B：オドゴショーダバ　ソレゴソ　ヤハリ　ヤク°ラ　ツグッタナ？
男の人たちは　　それこそ　やはり　櫓[を]　作ったね

（D　アー　ハー　ハー　ハー　ハー）　ンー
（D　ああ　はあ　はあ　はあ　はあ）　うん

37C：オナンコドモダサ　　バゲデキタッケ
　　女の子たちのところに　化けてきたものだった

38B：ンー　ホラ　ソケ゜ダゴドモ　ヤッタガモヤ
　　うん　ほら　そんなことも　やったかもしれない

39D：ソレワ　ヤク゜ラノ　ウエサ　トマル　　ヤッパリ
　　それは　櫓の　　上に　泊まる[のか]　やっぱり

40B：ヤッパリ　トマッテ　（D　トマッテ）　ウン
　　やっぱり　泊まって　（D　泊まって）　うん

41D：ホー　ンー　アレワ　ヤッパリ　コノ　シューキョーギョージノ
　　ほう　うん　あれは　やっぱり　この　宗教行事の

　　ヒトツデァ　ネーナモンダローガ
　　一つでは　ないものだろうか

　　タンナル　タノシミ　ナツノ　タナバダ　タナバタノ　ナンカ
　　単なる　楽しみ　夏の　七夕　七夕の　なんか

　　イッシュミタイナ　モンダガノ
　　一種のような　ものだろうかね

42B：ヤッパリ　タノシミ　タノシミダノ　ウン
　　やっぱり　楽しみ　楽しみだね　うん

43A：ンダノー　ソレワ　（D　ンダガ　　ナスヤギ　ッテ　ユーノワ）
　　そうだね　それは　（D　そうだろうか　茄子焼き　と　いうのは）

ウン　タナバダマズリ　ッチューノワ　（B　アー）
うん　七夕祭り　　というのは　（B　ああ）

（D　ア　　タナバタマルリノ）　ンー
（D　ああ　七夕祭りね）　　うん

44C：ソー　ソレンダンバ　ダレモ　ウジノ　ヒトカ°ダモ
××　それならば　だれも　家の　人たちも

イッテ　　ワリー　ナンデ　ゴドモ　ネーモンダ
行って[は]　だめ　という　ことも　ないものだ

45A：ンダ　ンダ　コンドモ　アレンバ　チャント　ンー
そうだ　そうだ　子ども[が]　いれば　きちんと　うん

ナスヤギ　　ヤイデクイデ
茄子焼き[を]　焼いてくれて

（C　チャント　アガルイウジガラ　シタク　シテノー）
（C　きちんと　明るいうちから　支度[を]　してね）

カボチャデモ　（C　ンー）
カボチャでも　（C　うん）

46D：ソイ　ソイジャー　ヤッパリ　タナバタサイダノ　ソレワ
××　それでは　やっぱり　七夕祭りだね　それは

（C　ソーユーゴドダノ）　タナバタマツリダ　（C　ウン）
（C　そういうことだね）　七夕祭りだ　（C　うん）

（A　ンダノ　　ンー　タナバダマズリ゛ダノ）
（A　そうだね　うん　七夕祭りだね）

ヒドズノ　イッシュノ　ソレノ　ナガニ
一つの　　一種の　　それの　中に

47A：ムガシワ　ホレ　タナバダマズリナンテ　イワネンデ
昔は　　それ　七夕祭りなどと　　いわないで

ネブリナカ゜シー　チュータンドモ
眠り流し　　といったけれども

（D　ネブリナカ゜シ　ッツッタ）イマノ　タナバタサマダノー
（D　眠り流し　　といった）今の　七夕様だね

48D：オレワ　ネブリナカ゜シ　ッテ　ユー　コトバワ
私は　眠り流し　　と　いう　ことばは

ハジメテ　キータノー　コサ　キテ
初めて　聞いたね　ここに　来て

49A：ネブリナカ゜シ　ッツッタ　モンダヤノ　ムガシダンダモノ
眠り流し　　といった　ものだよ　昔のことだもの

50D：ナスカ゜　ナスヤキカ゜　ソンナニ　ゼータグヒンダッタナンテ
茄子が　茄子焼きが　そんなに　ぜいたく品だったなんて

（A　ジェータグヒンダモンダ）
（A　ぜいたく品だよ）

イマダッタラ　カンカ°エラエネー　モンダノ
今だったら　考えられない　ことだね

51C：サドーワ　イッペ　ツカウンダシー　(D　アー　ナルホドノ)
砂糖は　たくさん　使うものだし　(D　ああ　なるほどね)

ンー　(D　ンダガモシンネノ)　ンメーンダシノー
うん　(D　そうだったかもしれないね)　おいしいものだしね

52D：ワレワレノ　ジダイニモ　ヤク°ラワ　クンダ　(B　ンー)
我々の　時代にも　櫓は　組んだ　(B　うん)

ソシテ　ナスヤギモ　ヤッタシノー　シテ　ゲンニ
そして　茄子焼きも　やったしね　そして　実際に

ワレワレノ　バアイワ　ワレワレデ　ナスヤギ　ツグッタッチャ
我々の　場合は　我々で　茄子焼き[を]　作ったよ

(B　アー)　ン
(B　ああ)　うん

53A：オラエ゛ダバ　エデ　チャント　ツグッテ
私の家であれば　家で　きちんと　作って

54C：ヤク°ラツグリダモンノ　オドッコドモダナ
櫓作りしたものだね　男の子たちは

55B：オドゴワ　ヤク°ラツグリヤ　(C　ナワデノ)
男は　櫓作りだよ　(C　縄でね)

56D：＊＊＊　ワレワレ　オンナノコオ　カサ　カダサネンダッケノ
　　＊＊＊　我々　女の子を　××　加えないものだったね

（B　ンー）
（B　うん）

57C：オンナノコワ　オンナノコ゛デノー　オー
　　女の子は　女の子でね　おう

（A　オラエ゛ダバ　ヨグ　ソノー）
（A　私の家であれば　よく　その）

オドナガラ　ツグッテモラウナ　ナー　（A　オドナノ　＊＊＊
大人から　作ってもらうのは　ね　（A　大人の　＊＊＊

ツグッテクイデ　イエノ　メーサ　ツグッテクイダモンダ）
作ってくれて　家の　前に　作ってくれたものだった）

ヤク゜ラ　ツグッテクレー
櫓[を]　作ってくれ[と]

14↑15

58A：エノショノ　メノ　トンドグ　ドサ　（C　ンダ）
　　家の人たちの　目の　届く　ところに　（C　そうだ）

ムガシワ　ホレ　オドゴド　オナンコド　コトワ゛ザノ　トーリ
昔は　それ　男と　女の子と　諺の　とおり

ナナサイニシテ　セギオ　（D　セギオ　オナジューセズ　デ）
７歳にして　席を　（D　席を　同じゅうせず　といって）

ンー　ウン　スベカラズ　　デ　　ゴド　　アル　モンダハゲ
うん　うん　してはならない　という　こと[が]　ある　ものだから

ソレゴソ　アーシテ　キタモンダ　(C　ンダノ)
それこそ　ああして　きたものだ　(C　そうだね)

ンダハゲ　　オラーノ　ベンジョサ　イグ　ッタダッテ
そうだから　私はね　　便所に　　行く　といったって

ヒー　クレデ　デックンナバ　　ベンジョサモ　ヒトリ
日が　暮れて　出てくるならば　便所にも　　一人[で]

ヤライネモンダカ　　ソドベンジョダモンダハゲ
行かせられなかったもので　[家の]外[の]便所だから

(D　アー　ナルホドノ)　メラシダジ　　ツゲデ
(D　ああ　なるほどね)　下女たち[を]　つけて

(D　ンー)　(C　ンー　ノ?)　ソシテ　ヤライダホンド
(D　うん)　(C　うん　ね?)　そして　行かされたほど

ヤガマシグ　スルモンダッケ
うるさく　いうものだった

15↑

―― 中　略 ――

59C：トニカグ　ジユーワ　ナンナガッタンダデノー　　ホントー
　　とにかく　自由は　　ならなかったものだったね　本当

↑16

(D　ンダノ　　ムガシワ　イロンナ　　ゴド　　イワレダノ)
(D　そうだね　昔は　　いろいろな　こと[を]　言われたね)

60B：トニカグ　オヤモ　キビシガッタモンダノー　アノコロワ
とにかく　親も　厳しかったものだね　あの頃は

61D：ンダガモノ
そうかもね

62B：ンー　(D　ンダノ)　オラワ　ホレゴソ　イジバンノ
うん　(D　そうだね)　私は　それこそ　いちばんの

スエッコダンドモガシ　ワンパクデー　ソレゴソ　アレダッケ
末っ子だったけれども　腕白で　それこそ　あれだったよ

ナスド　ナスドノ　アイダサ　ツグッテ
茄子と　茄子との　間に　作って

63A：ンダ　ソレ　スキ゜レバ　ボンノ　ジューサンニジ
そうだ　それ[を]　過ぎれば　盆の　13日[は]

オハガマイリ　サネバネンダシ[4]　(D　ナルホドノ)
お墓参り[を]　しなければならないものだから　(D　なるほどね)

ンー　ダド　コッド　ジューヨッガワ　マズ　ムガシ゛ダモンダハゲ
うん　それで　今度　14日は　まず　昔だったものだから

イドヒギ　(D　ンー)　ナンデカンデ　イドヒギ
糸引き　(D　うん)　なんだかんだで　糸引き

（D　ナンデスカ）　イドヒギダモンダ　アサイド
（D　なんですか？）　糸引きだよ　麻糸

（C　イドヒギ　ッテ　アサイドノ　コド）（D　アサイド）
（C　糸引き　って　麻糸の　こと）（D　麻糸）

（C　ンー　アサ　マクンダモンノ）　アサ　マグンダモノ
（C　うん　麻[を]　まくのだものね）　麻[を]　まくのだもの

64D：ソノ　イトヒキ　ッテ　ユーノワ　ジューヨッカノ
その　糸引き　と　いうのは　14日の

イトヒキ　ッテ　ユーノワ　ドーユー　イワレーダモンデス
糸引き　と　いうのは　どういう　わけなのですか？

65A：アド　ボン　キテヤー　ハダゲシゴ　ハダラガイナグ　ナッハゲ
あと　盆[が]　来て　畑仕事　働けなく　なるから

（D　アー　ナッサゲ）　ンー　ボンメワ
（D　ああ　なるから）　うん　盆の前は

66D：アーア　サキ°ョーダ　ワゲダ　スッド　（A　ンー）
ああ　作業という　わけだ　そうすると　（A　うん）

イトヒギ　ッテ　ユーノワ　（A　ンー）　ヒトズノ
糸引き　と　いうのは　（A　うん）　一つの

67A：イドヒギ　ッテ　アサ　メーデオイダナ　ソンケ°　イッペ
糸引き　といって　麻[を]　まいておいたの　そんなに　たくさん

マグモンデモ　ネーモンダハゲ　(D　ア　アサカラ　アー)
まくものでも　ないものだから　(D　あ　麻から　ああ)

アサイド　トルナ　(D　アサイド　トンナノー)
麻糸[を]　とるの　(D　麻糸[を]　とるのね)

ンー　ソシテー　コッド　ホレー　ボンノウジ
うん　そして　今度　それ　盆のうち

ホシタリ　イレダリ　ホシタリ　イッダリ　サネマネーデンダッチャ
干したり　入れたり　干したり　入れたり　しなければならないわけよ

68C：ンデネバ　イロ　ワリグ　ナンダシ
そうでなければ　色[が]　悪く　なるものだから

69D：シカシ　ムガシワ　ビッチリ　ソノ　＊＊＊
しかし　昔は　終日　その　＊＊＊

70A：カシェ　カシェダモンダ　オナコ°ショナノ　ホントエ　ヒマナグ
×××　稼いだものだ　女の人たちなんか[は]　本当に　暇もなく

(D　{笑}　ガンバッタノー　カシェーダノー)　ンー
(D　{笑}　がんばったね　稼いだね)　うん

ボンワ　ホレ　ジューログニジニ　ナレバ
盆は　それ　16日に　なれば

ボンレー〔5〕　ッテ　ヨグヨグ　ヨメダ　ドギダバ
盆礼　といって　[嫁いできた]早々　嫁の　時であれば

ボンノ　ジューログニジ　ボンレー　ッテユーシ
盆の　16日[は]　盆礼　というし

ジューゴニジガ　ボンレー　ッテ　ハズガマデ　イライダモンノ
15日か　盆礼　といって　20日まで　いられたものね

ンダハゲ　オレナノ　イズデモ　ソーユー
そうだから　私なんか[は]　いつでも　そういう

オラ　ヨメッコダドモ　イグ　ドギ　イッテー　イ
私[は]　嫁だけれども　行く　時　行って　×

キンドギマデ　オガイダ　ゴト　ネーモンダッケ　(D　アー)
期限まで　置かれた　こと[は]　ないものだった　(D　ああ)

コジュード　コドモ　イッペ　クルモンダハゲ
小舅[とか]　子ども[が]　たくさん　来るものだから

(D　アー　ナルホドノ)
(D　ああ　なるほどね)

71C：ソノ　アサダッテ　ホラ　ナッテモ　ヒャクショーノ　エデワ
その　麻だって　ほら　どうしても　百姓の　家では

アサワ　ナグデ　ナンネンダモノノー　(A　ンダ)
麻は　なくて[は]　ならないものだからね　(A　そうだ)

フユシコ゜ド　オドゴダジ　ミノ　アムーシタ　ッテ
冬仕事[で]　男たち[が]　簔[を]　編むのだ　といって

コレワ　ナンデモ　アサイドデ　ヒネレ゛バ　ジョーンブダンダシ
これは　なんでも　麻糸で　　撚れば　　丈夫だし

ミゴ〔6〕デモ　ヒネラエデンダンドモ　シェガラ　ハンバギ〔7〕
ミゴでも　　撚られたんだけれども　それから　脚絆[を]

アムッタッテノー？　（D　ンー　ンー　ンー　ン）
編むのだってね　　（D　うん　うん　うん　うん）

16↑17

（A　ゲダノ　オ　　タデルッタッテ　アサダバ
（A　下駄の　緒[を]　たてるのだって　麻であれば

ジョー゛ブダローシ）　ナニ　　スッタッテ
丈夫だったろうから）　なに[を]　するのだって

コレー　ゲダノ　オ　　タデッタッテ
これ　　下駄の　緒[を]　たてるのだって

アサ　　ジブンノ　ウジデ　ツカウタケワ　トゴノ　エーデモ
麻[は]　自分の　　家で　　使うだけは　　どこの　家でも

マズワ　ネバ　　カウカラ　（A　ンダ　　ンダ）
まずは　なければ　買うから　（A　そうだ　そうだ）

カワネバネデアンドモノ
買わなければならないわけだけれども

（A　ンマノ　ドーク゜オ　コシャウッタッテノー）
（A　馬の　　道具を　　作るのだってね）

ジキュージソクデノー　ムガシノ　ヒトダジワ
自給自足でね　　昔の　　人たちは

72D：アレー　アサワ　タイマナンカトモ　カンケー　アッテ　マヤクノ
あれ　　麻は　　大麻なんかとも　　関係[が]　あって　麻薬の

イッシューデワ　ナガッタアンケ゜ガ　　＊＊＊
一種では　　なかったのではないか　＊＊＊

73A：センソーチューガラ　アド　ヤメサセライダデヤ　　＊＊＊
戦争中から　　もう　止めさせられたわけよ　＊＊＊

74D：ヤメサセライダデショ　（A　ンー）（C　ンー　ソー　ソー）
止めさせられたでしょう（A　うん）（C　うん　そう　そう）

ンデショ
そうでしょう

75A：ソレガラ　マイダ　コド　　ネーデ
それから　まいた　こと[は]　ないよ

76D：ソノコロ　マエワ　ウルサク　　ナガッタ　ワケダ
その頃　　前は　　やかましく　なかった　わけだ

77A：ソノメーワ　ナンニモ　ウルサグ　　ネデンダ　　（D　アー　ナガッタ）
その前は　　なんにも　やかましく　ないわけだ　（D　ああ　なかった）

（C　ンー　シューセンノ　メーマデワ　マイッダ）
（C　うん　終戦の　　前までは　　まいていた）

ンダハゲ　アサノ　(D　ン)　タネ　オダネ　ッテ
そうだから　麻の　(D　うん)　種　苧種　といって

ンメーモンダモノ　アレモ　(D　ホー　ホー　ホー)
おいしいものだもの　あれも　(D　ほう　ほう　ほう)

コーバシグデ　ソノ　シソマギサナノ　イッデノ
こうばしくて　その　しそ巻きになんか　入れてね

ピチランピチランテ　(D　タベル　ゴド　デギダ　ワゲ)
ぴちらんぴちらんと　(D　食べる　こと[が]　できた　わけ)

タベルモンダ　(D　アー)　(C　ンダノ)　タベダモンダ
食べるものだ　(D　ああ)　(C　そうだね)　食べたものだ

(D　アー)　ン
(D　ああ)　うん

78D：アサノ　タネ　(C　ン)
麻の　種[を]　(C　うん)

79A：アサノ　タネ　アサダダッテ
麻の　種　麻だといって[も]

ジェンブサ　ミー　ナル　ワゲ　ネーモンダ
全部に　実[が]　なる　わけ[でも]　ないものだ

オドゴアサド　オナコ゜アサ　アルモンダ　{笑}　(D　ホー)
男麻と　女麻[が]　あるものだ　{笑}　(D　ほう)

80D：ソレワ　オ　オナコ゜アササ　デルナ　ミー　デル　ワゲデスカ
　　それは　×　女麻に　なるの　実[が]　なる　わけですか

81A：ンダ　ソー　ソー　ンー　ミー　フッツグナ　(D　ハー　＊＊＊)
　　そうだ　そう　そう　うん　実[が]　なるのだ　(D　はあ　＊＊＊)

82B：ヤハリ　ベン　バンブツノ　レーチョータルモノ
　　やはり　××　万物の　霊長たるもの[は]

　　ミナ　ンナルンネガ　{笑}　(D　{笑})
　　みんな　[実が]なるのではないのか　{笑}　(D　{笑})

83D：アノ　アサノ　イトヒギ　ッテ　ユーナワ
　　あの　麻の　糸引き　と　いうのは

　　ソノ　センイオ　コー　ズーット　ハカ゜シテグノ
　　その　繊維を　こう　ズーッと　はぎ取っていくの？

84A：ヤヨー　(C　ハカ゜ス)　コーナリニ　ハヤシノコ゜ドグニ
　　／／／　(C　はがす)　こんなふうに　林のごとくに

　　デッダナ　コイデクル　ワゲ　(D　ウン　コイデキテ　ウン)
　　出ているのを　扱いでくる　わけ　(D　うん　扱いできて　うん)

　　エーサ　キ＊　エーサ　キテ　コッド　クサキリデ　ネッコオ　モイ゛デ
　　家に　来＊　家に　来て　今度　草切りで　根っこを　切って

　　ヘガラ　ウラオ　カマデ　ハ゛ジイデ　ソシテ　(C　ンダ)
　　それから　梢を　鎌で　切って　そして　(C　そうだ)

ナンケ゜ーナド　ミツケナド　イレワゲデ　イッパ゛ンズズ
長いものと　　短いものと　入れ分けて　１束ずつ

コノクライズズ　タバネデ　ソノナモ　アンマリ　ギッチリ　タバネデ
このくらいずつ　束ねて　　それも　　あまり　　きつく　　束ねないで

ウゴグネバ　　ダメダハゲ　サワット　ナワ゛ンデ
動かなければ　だめだから　あっさり　縄で

ワラ゛ンデナグデ　ナワデ　タバネデ　ホス　ドギ　　ナッデド
藁で[は]なくて　縄で　　束ねて　　干す　時[に]　なるというと

ウラサ　シューット　コイデヤッテ　バラーット　コー　ヒルヨーエ
裏に　　シューッと　扱いてやって　バラーッと　こう　乾くように

(D　アレ　オーガラ　ッテ　ユーノワ)　ソノナカ゜　ソノナノ
(D　あれ　苧がら　　と　　いうのは)　それが　　それの

ガラ　コンド　アギー　ナッテ　ジューニカ゜ズコロ
××　今度　　秋に　　なって　12月頃

ジューイジカ゜ズノ　アマリ　サムグ　ナッデド
11月の　　あまり　寒く　　なるというと

テー　ハッコグ[8]デ　ダメダハゲ　ッテ
手は　冷たくて　　だめだから　といって

ジューイジカ゜ズコロ　ナッデード　　コッド　ソノ
11月頃[に]　　なるというと　今度　　その

ミズタマリダ　ドサ　　マズ　コゴラヘンデ　イエバ　ゴミダメダノ
水溜まりの　ところに　まず　このへんで　いうと　ごみ溜めだね

17↑18

ゴミアケ゜　アケ゜ル　タメサ　ソノー　イドオ　ツケデ
ごみ上げ　上げる　溜めに　その　糸を　つけて

ウギネヨーエ　ナニガ　コー　ンー　ナカ゜ギデモ
浮かないように　なにか　こう　うん　長木でも

ノヘデオグ　ワゲ　(D　オサエ　　カウ　ワゲダノ)　ンー
乗せておく　わけ　(D　押さえ[を]　かう　わけだね)　うん

85C：オサエ　　カウ　ワゲ　(D　オサエオ　カウ　ワゲ)
押さえ[を]　かう　わけ　(D　押さえを　かう　わけ)

ンダ　ソー　ソー
そうだ　そう　そう

86A：ソノ　ナカ゜レノ　カワサワ　ダメ　(D　ンー　ンー　ン)
その　流れの　川には　だめ　(D　うん　うん　うん)

エ　ミズ　ヨドミダドサ　(D　ハー　ハー　ハ)
×　水[が]　淀んだところに　(D　はあ　はあ　はあ)

ソシテ　コー　イッシューカンモ　ツケデ　コーシテ　ミッデド
そして　こう　1週間も　漬けて　こうして　みてみると

(C　サワッテミデ)　ンー　カワ　ンマイグ　ペロット
(C　さわってみて)　うん　皮[が]　うまく　ペロッと

ムゲルノー　ド　オモウ　ドギ　　ミナ　　イジドギ
むけるもの　と　思う　　時[に]　みんな　いっぺん[に]

ムガイネハゲー　キョー　イジニジデ　コイダゲ　ムガイル
むけないから　　今日　　１日で　　これだけ　むける

マヒョー　　ド　オモウ　ドギ　イサ　アケ゜デキテ
[むき]ましょう　と　思う　　時　　家に　上げてきて

コンド　マンズ　サンボガ　シーホンクレー　タケ゜ェーデ
今度　　まず　　３本か　　４本くらい　　持って

コーシテ　テーンデ　コスル　ッテ　ユード
こうして　手で　　こする　と　　いうと

ペロット　ムゲルモンダモノ　　(D　ハー　ハー　ハー　ハー)
ペロッと　むけるものだからね　(D　はあ　はあ　はあ　はあ)

スッド　　コーシテ　コッド　コンナ　タケ゜ェーダノ　コンナ
そうすると　こうして　今度　　これを　持ったの[を]　これを

コッカラ　コッチャワ　コーユーフーニ　オカ゜ラ[9]　タケ゜ェデ
ここから　こっちには　こういうふうに　芋がら[を]　持って

コッガラ　シューット　ムゲルモンダン
ここから　シューッと　むけるものだからね

カンタンニ　(D　コクン　コク　ワゲダノ)
簡単に　　(D　×××　扱く　わけだね)

コーシテ　(D　ハー)　ハジッコ　　コー　コーシテ　コーシテ
こうして　(D　はあ)　端っこ[を]　こう　こうして　こうして

コースッド　メー　カワ　　ムゲル　ワゲ　(C　ンダ)
こうすると　××　皮[が]　むける　わけ　(C　そうだ)

87D：ヨル　ッテ　ユーノワ　イワバ　　コノ　ソーユーフーナオ
撚る　と　いうのは　言い換えれば　この　そういうふうなのを

88A：スッド　　コッド　コノナオ　コーシテ　ハジッコモ　ヨロ
そうすると　今度　このものを　こうして　端っこも　××

ヨッテ　ソシテ　コーシテ　ギューット　ヒッパッテッド
撚って　そして　こうして　ギューッと　引っ張るというと

コレ　　キレイ　　ナル　ワゲ
これ[が]　きれい[に]　なる　わけ

オ　コレカ゜　スナワジ　オカ゜ラ　(D　オカ゜ラ　＊＊＊)
×　これが　即ち　　苧がら　(D　苧がら　＊＊＊)

ソノ　コッド　コノナオ　トッタナオ
そして　今度　これを　取ったものを

コーナリ　　ナケ゜ェーナダバ　シシャグモ　ゴヒャグモ
こういうふうに　長いのであれば　4尺も　　5尺も

アル　ワゲ　(D　ホー　ホー　ホー　ホ)
ある　わけ　(D　ほう　ほう　ほう　ほう)

スッド　コゴサ　イダ　ノヘデオイデ　コノ　ヨ
そうすると　ここに　板[を]　乗せておいて　この　×

コー　コー　ヨッタナオ　コサ　オイデ　コーシテ　ワッカエ　シテ
こう　こう　撚ったのを　ここに　置いて　こうして　輪に　して

コーシテ　コー　コーシテ　スッド　マダ　ソノアド
こうして　こう　こうして　そうすると　また　そのあと

ソーシタナオ　マダコ　スル　ワゲ　(D　ワニ　ワニ　スンナ?)
そうしたのを　またこう　する　わけ　(D　輪に　輪に　するの?)

ンー　ワニ　シテ　(D　ハー　ハ)　ソシテ　コッド
うん　輪に　して　(D　はあ　はあ)　そして　今度

イ゛ザ　コッド　デギ　デギデシマウデド
さあ　今度　××　できて[きて]しまうというと

イッパナラ　コゴ　ギジッド　コトワラデ　タバネデオグ　ワゲ
1束なら　ここ[を]　きちんと　//藁で　束ねておく　わけ

(D　ハー　ハー　ハー)　コンデ　イッパズズ　スルド　＊＊　コレ
(D　はあ　はあ　はあ)　そして　1束ずつ　すると　＊＊　これ

ミンナ　ムグ゛マデ　カワグデド　ダメダハゲ　シェンタクハギニサ
みんな　むくまで　乾くというと　いけないから　洗濯桶に

イレデオイデ　パチャパチャド　イワヘデオグ　ワゲ
入れておいて　パチャパチャと　いわせておく　わけ

18↑19

（C　ミズ　　スコーシ　イレデナ？）　ミズ　　イレデ　ウン
（C　水[を]　少し　　入れてね）　　水[を]　入れて　うん

89D：カンソーサセナイヨーニシテオグノ？　（C　ソー　ソー　ソー）
乾燥させないようにしておくの？　　（C　そう　そう　そう）

90A：カンソーサセネヨーシテ　　コンド　イ゛ザ　アレ　スルノー　ット
乾燥させないよう[に]して　今度　　それ　あれ　するの　　って

コーナルデド　　コンド　ソレオ　コサ　　ノ゛ベル　ワゲ
こうなるというと　今度　　それを　ここに　乗せる　わけ

ダシテ　ソスッド　　コッド
出して　そうすると　今度

（C　イドカギ　ッデ　ユー　モノ　　アル　ワゲ　コンド）
（C　糸掻き　　と　　いう　もの[が]　ある　わけ　今度）

ンー　イッポンズズ　コー　イッカイズズ　コー　コノ
うん　１本ずつ　　こう　１回ずつ　　こう　この

ネジッナタカ゜　ワガル　ワゲ　（C　サンボン）
撚ったのか　　わかる　わけ　（C　３本）

（D　アー　ハー　ハー）（C　マイデオグサゲノ？）
（D　ああ　はあ　はあ）（C　巻いておくからね）

ソスッド　　コサ　　イドカギサ　コ　　ノヒェデ
そうすると　ここに　糸掻きに　　こう　乗せて

シューシューシュー　シューシューシューッテ　コサ　　ノッケテ
シューシューシュー　シューシューシューと　　ここに　乗せて

コー　　コサ
このように　ここに

91D：イドカギ　ッテノワー　ソレオ　モット　サラニ　ホソイ　センイニ
糸掻き　　というのは　それを　もっと　さらに　細い　　繊維に

スル　ワゲガ
する　わけか

92A：ンデネー　　ソレワ　キタネナ　　ハンズグ　ワゲ
そうで[は]ない　それは　汚れたもの[を]　除く　　わけ

93C：ンデネグ　　イドカギ　ッテ　　モノワノー　（B　カストリ）
そうで[は]なく　糸掻き　　という　ものはね　　（B　かす取り）

ガス　カワン　カワ　（D　ア　ダゲオ　　トル　　ワゲダナ？）
かす　皮の　　皮　　（D　×　[皮]だけを　取り除く　わけだな）

94A：ソー　ソー　ソー　ソー
そう　そう　そう　そう

95C：ソー　ソー　ソー　ソー　シナコ゜イデ　コー　ギューット　スーット
そう　そう　そう　そう　柔らかく　　こう　ギューッと　スーッと

96A：コーシテ　カイデヤイデ　コー　ズーット　コー　スッパッテヤッテ
こうして　掻いてやって　こう　ズーッと　こう　引っ張ってやって

(C　ンダ　　ンダ)　　スッド
(C　そうだ　そうだ)　[そう]すると

コンナサ　カ　カス　　ツグ　ワゲ　(D　ハー　ハー　ハー)
これに　　×　かす[が]　つく　わけ　(D　はあ　はあ　はあ)

テント　　コサ　　ハイッ　コッド　　コッチ　コサ
そうすると　ここに　はい　　今度[は]　こっち　ここに

コンナイ　　シッタ　　ホー　マダ　スッド
このように　やっていた　ほう　まだ　[そう]すると

コーシテ　　コド　コノ　コノナカ゜　チョーンド　ヨグ
このようにして　今度　この　これが　　ちょうど　よく

コー　ワッカエ　ナッテヤ　ソシテ　オグ　ワゲヨ
こう　輪に　　なって　　そして　おく　わけよ

97D：カグモノッテノワ　ドーユー　ドーク゜ナノ　(A　ンー)
　　掻くものとは　　どういう　道具なの？　(A　うん)

98C：チョーンド　シギク゜シミデェナ　　モンダ　(A　チョード)
　　ちょうど　[髪を]梳く櫛のような　ものだ　(A　ちょうど)

(D　ア　クシ　アノ　クシ)　シキク゜シ
(D　×　櫛　　あの　櫛)　　梳櫛

(D　アノ　クシミタイナ　モノ)　(A　チョード　コーユーナヤノ)
(D　あの　櫛みたいな　　もの)　(A　ちょうど　こういうのだよね)

99B：キー　イダサ　コンダ　コノ　カネ　　ツイッダナ
　　木　　板に　　今度　　この　金[が]　ついたの

　　(A　ンダ　　ンダ)　　(D　アー)
　　(A　そうだ　そうだ)　(D　ああ)

100C：トタンノ　ジョンブダヨーダナノ　(B　カネ)
　　トタンの　丈夫なようなものね　　(B　金)

　　(A　ンデ　　ネモンダ)
　　(A　そうで　ないものだ)

101D：ジッチャン　ソレワ　イマ　ノゴッテネーモンダガ
　　おじいさん　それは　今　　残っていないものなのか？

102A：オラエ゛ンデ　シッ　　コロノ　ニゲェ　　タネダラ
　　私の家で　していた　頃の　　2階[を]　たずねたら

　　アッガモシンネ　　アノ　カッダ　ゴドモ　アッサケ
　　あるかもしれない　あの　買った　ことも　あるから

　　(D　ハー　ハー　ハー　ハー)
　　(D　はあ　はあ　はあ　はあ)

103C：チョード　オッキ　オッキサ　　コノク゜レーダノ　(B　ンダノ)
　　ちょうど　大きさ　大きさ[は]　このくらいだね　(B　そうだね)

104D：オー　ハバ　　コノグライ　　アンノ？
　　××　幅[は]　このくらい[は]　あるの？

(C　ンー　コーシテ　コーシテ)　(A　ソー　＊＊＊)
(C　うん　こうして　こうして)　(A　そう　＊＊＊)

サンズンク゜ライモ　アル　ワゲ
3寸くらいも　ある　わけ

105A：ヨンスンクレェダノ　ゴスンワ　ネーノ
4寸くらいだね　5寸は　ないね

(D　アー　ヨンスンク゜ライ)
(D　ああ　4寸ぐらい)

106C：アンマリ　オッキバ　ツガイワルイダローシ
あまり　大きいと　使いにくいだろうし

107D：ソレデ　コー　サット　ヒグ　ワゲダ　(A　ウン　シュッシュッシュッ)
それで　こう　サッと　引く　わけだ　(A　うん　シュッシュッシュッ)

108C：コレガ　ソンネ　ンマイグ　サットナノ　イゴンバヤ
これが　そんなに　上手に　サッとなんか　いかないよ

(D　{笑})　(A　カチカチト　ユーモンダ)　ホイホイサット
(D　{笑})　(A　カチカチと　いうものだ)　ホイホイサッと

シナコ゜イデ　コーシテ　(D　アー)
引き抜いて　こうして　(D　ああ)

109B：ソレ　ヤッタッテノー　(D　アー)　ソノー
それ　やったってね　(D　ああ)　その

ナンテ　イエバ　イーガノー　ホノ　サーット　コノ　キー　イダノノ
なんと　言えば　よいがね　その　サーッと　この　木　板の

スンコ゜グ　イー　イダ　アルモンダッケゼ？　(D　アー)
すごく　よい　板[が]　あるものだったよ　(D　ああ)

110C：スッパラスパラ　ッテ　ユーナノ　(B　ンー　ンダ)
スッパラスパラ　って　いうのを　(B　うん　そうだ)

111A：スッパラスパラ　ッテ　ユーナ　イドカギ　ッテ　アルモンダモノ
スッパラスパラ　と　いうね　糸掻き　といって　あるものだから

(D　ハー　ハー　ハー)　(B　アーン)
(D　はあ　はあ　はあ)　(B　うん)

112C：カグンナサノー　シタサ　オグナモノ？　(D　ン)
掻くものにね　下に　置くのもね　(D　うん)

コッチノ　ホー　タガグデ　シューット　コーナユーナ
こっちの　ほう[が]　高くて　シューッと　こういうの

(A　ンダ　ンダ　ンー)　ンダ　ンダ
(A　そうだ　そうだ　うん)　そうだ　そうだ

(D　アー　アル　ワゲ　＊＊＊)　ソユナノ　エサ　オイデ
(D　ああ　ある　わけ　＊＊＊)　そういうの[を]　家に　置いて

スッパスッパ　(A　ヨッパヨッパヨッパヨッパ)
スッパスッパ　(A　ヨッパヨッパヨッパヨッパ)

ンデネバ　　ヤッパリ　モンケ°サゲナモンダガノー
そうでなければ　やっぱり　切れるからだもんね

(D　アー　ダイカ°　アル　ワゲ)
(D　ああ　台が　ある　わけ)

ソーユー　ショ　ドーク°　アル　ワゲ　　イチオー
そういう　××　道具[が]　ある　わけ[よ]　一応

(D　ハー　ハー　ハー　ハー)　イドカギノ　ドーグノ
(D　はあ　はあ　はあ　はあ)　糸掻きの　道具ね

113A：ンデモ　オラエノ　ガガダナバ　ホレ
そうでも　私の家の　妻だったら　ほら

114C：コッチノ　ホーダバ　　ホラ　ホンショグダモンダハゲノ
こっちの　ほうであれば　ほら　本職だものだからね

115B：ンダ　スンコ°グ　アルモンダ　オラエサダバ　　(D　アー)
そうだ　すごく　あるものだ　私の家にだったら　(D　ああ)
19↑20
イマワ　ドケ°ダガ　　ワガラネードモ
今は　どんなであるか　わからないけれども

116C：コッチ　サンジカ°リノ　ホーワ　ホンショグダ　コッチワ
こっち　三千刈の　ほうは　本職だ　こっちは

(D　アー　ジッチャン　　ドゴデ)　(B　ンー)
(D　ああ　おじいさん[の]　ところで)　(B　うん)

(D　ホージャ　アサ　　イッパイ　ウエデ)
(D　そうだ　　麻[は]　たくさん　植えて)

117B：エッペ　　ウエデオグンダ　(C　イッパイ　ウエデ　ウン)
たくさん　植えておくのだ　(C　たくさん　植えて　うん)

118D：ナニ　カワラサデモ　ドデサ　ウエル　ワゲ
なに　河原にでも　　土堤に　植える　わけ

119B：アガカ゜ワノ　ドデサ　ホレゴソ　ホレ
赤川の　　土堤に　それこそ　ほら

120C：ウエルナンデナグ　ホスナヤノー　(B　ウン　ホスナ)　(D　アー)
植えるのでなく　　干すのだよね　(B　うん　干すの)　(D　ああ)

エッペ　　ハダゲサ　ウエッド　　(B　ハー　＊＊＊)
たくさん　畑に　　植えてると　(B　はあ　＊＊＊)

121A：ソレ　アレダモンダモノ
それ　あれだものだから

122B：アガカ゜ワノ　ドデサ　サーット
赤川の　　土堤に　サーッと

123D：ソレワ　ミンナ　ジカヨーニ　ナッタ　ワゲ
それは　みんな　自家用に　　なった　わけ

124B：ジカヨーニ　ナッタ　(A　ソー　ソー　ソー　ジカヨー)
自家用に　　なった　(A　そう　そう　そう　自家用[だ])

125C：ウッタヤー　ヤッパリ
　　売ったよ　やっぱり

126D：ウンナモ　アルナ　ウリモ　アッタ
　　売るのも　あるの？　売りも　あった

127B：ミンナエデ　ミンナエデ　メーデ　アド　ヨゲーダド　ウンナヤ
　　みんなの家で　みんなの家で　まいて　あと　余分があると　売るのだ

　　オガネニ　スルナ　（D　アー　ナルホドノ）
　　お金に　するのだ　（D　ああ　なるほどね）

128A：ウッタ　エーモ　アルンダドモ　マズ　イゲバ　カワイルンダハゲ
　　売った　家も　あるのだけれども　まず　行くと　買えるのだから

129C：ンダゼー　ソレカ゜　ウマイグ　シューット　コーシテ　キレーニ
　　そうだよ　それが　上手に　シューッと　こうして　きれいに

　　タク゜ッテ　アーシテ　ホラ　（B　オラエノ　ンマ）
　　たぐり寄せて　あのようにして　ほら　（B　私の家の　馬）

130A：アレ　ナコンド　スッド　ソノナモ　ツグモンダッケチャ　アレ
　　あれ　仲人[を]　すると　それも　つくのだったし　あれ

　　トモニ　シラカ゜　ッデ　ユーデドゴデ　（B　{笑}）
　　共に　白髪　と　いうことで　（B　{笑}）

　　（D　アー　アサイトノー　ウーン　ウン　ウン）　ウン
　　（D　ああ　麻糸の　うん　うん　うん）　うん

ノ （D　ンー　トモシラカ°ノ　アレデノ） ウン
ね （D　うん　共白髪の　　あれでね） うん

ソー　ソー　ソー （D　ナルホド）
そう　そう　そう （D　なるほど）

131B：オレノ　オヤモ　ヤッダシ　X１モ　ヤッダシ　ソレガラ
私の　親も　やったし　X１も　やったし　それから

（A　ソシテ　ホス　ドギモ　アレダモンダモノ） X２ッテ
（A　そして　干す　時も　あれなものだから） X２だって

ホレゴソ　モ　イッショケンメー　ナッテ　ヤルモンダッケ
それこそ　もう　一生懸命[に]　なって　するものだったよ

132D：アサイド　ッテノワー　サイシューテギニワ
麻糸　というのは　最終的には

ソレワー　ナワニ　シテ　ツカッタ　ワゲ
それは　縄に　して　使った　わけ

ソレ　ソノ　ソノナー　ソノモノ　イトソノモノデ
それ　その　それを　そのもの　糸そのもので[＝糸のままで]

ツ　ミゴナンカ　アンデダガ
×　ミゴなど[に]　編んでかい？

133B：ヤヤ　ナワニ　シテ （D　ナワニ　シテ） ウン （D　ハー）
いやいや　縄に　して （D　縄に　して） うん （D　はあ）

ウシノドガ　ンマドガ　ッデ　スンコ゜グ　イーンダヤ
牛のとか　馬[の]とか　いって　非常に　よいのだよ

(A　ウシウマノ)
(A　牛馬の)

134C：オイ゛ズナ
追い綱

135B：オイズナデンダノ
追い綱なわけだね

136D：オイズナノ　バアイワ　アワセル　ワケカ　(B　ンダー)
追い綱の　場合は　合わせる　わけか　(B　そうだ)

フトグシテ　ダンダン　ヨリアワセル　ワゲ
太くして　だんだん[に]　撚り合わせる　わけ

137B：ミコ゜ー　ブッテ　ソレサ　マジェデ　(D　アー　アー　ミコ゜トノ)
ミゴを　打って　それに　混ぜて　(D　ああ　ああ　ミゴとね)

ウン　ソレバッカリスッド　ヤハリ　ヨワインダヨノー
うん　それだけ[に]すると　やはり　弱いのだよね

(D　ンー)
(D　うん)

138A：アサイドバッカリ＊＊
麻糸だけ＊＊

139C：シテ　ヤッパリ　アサイドバッカダバ　ヒョータラ
そして　やっぱり　麻糸だけだと　ヒョータラ

クッタラッデー　デバ　エーガノ
クッタラと[腰がない]　といえば　よいのかな

140A：ンー　ノネッデード　ダメダモンダッテ　アサイドワ
うん　濡れるというと　だめだもの　麻糸は

(D　ナルホドノー)　ンダハゲ　ソノナ
(D　なるほどね)　そうだから　それを

イド　ホス　ドギモノー？　(D　ンー)
糸[を]　干す　時もね　(D　うん)

オデンキノ　イー　ドギ　カラカラド　ホシタッデ　ダメダナ
お天気の　よい　時[に]　カラカラと　干したって　だめなのよ

デ　ヨーンボシー　ッテノ　ホサネデェド
×　夜干し　といってね　干さないというと

イド　ソノー　ナンデモ　イド　ヒッ　ドギカ°
糸　その　なんでも　糸[が]　乾く　時が

キーログ　ヒレバ　イードモノ
黄色く　乾けば　よいけれども

141C：ヤッパリ　ンー　オジーサンノ　ホーミデー　フンダンニ　イッペ
やっぱり　うん　おじいさんの　ほうのように　十分に　たくさん

アッ　ドゴワ　　ナニサモ　　フンダンニ　ツカテ　ホレー
ある　ところは　なんにでも　十分に　　使って　それ

オラエノ　アダリワー　　モラッタリスンナダモンダハゲ
私の家の　あたり[で]は　もらったりするものだったから

ホドッドノ　ジカヨーシカ　ナガッタヤ　ハー　(D　ソノー)
ほとんどね　自家用しか　　なかったよ　はあ　(D　その)
20↑21

ハダゲモ　ネーンダシ
畑も　　ないものだから

142D：ソノ　オカ°ラワ　アレ　タギツゲノ　レーノ
その　苧がらは　あれ　焚きつけの　例の

イオーカ　ナンカ　ツゲデ　(A　ソー　ソー　ンー)
硫黄か　なんか　つけて　(A　そう　そう　うん)

アノー　アレニ　シター　ッテナー
あのう　あれに　した　　というのは

アレ　ナンカ　オレ　オボエカ°　アッケドモ
あれ　なんか　私　　覚えが　　あるのだけれども

143A：ンー　ンダ　　ンダ　　ソレカ°ノー　(D　ンー)
うん　そうだ　そうだ　それがね　　(D　うん)

シジスンクレエシテ　アノー　コット　クサギリンデ　キッテノ
7寸くらい[に]して　あのう　今度　　草切りで　　切ってね

コノクレホドズズ　タバシテオイデ　ソーシテ　コサ
このくらいほどずつ　束[に]しておいて　そうして　ここに

チャワンノ　カゲダヨーダナサ　イオーオ　イッデ
茶碗の　欠けたようなものに　硫黄を　入れて

コー　コッチャ　フィ　オイデ　スッド
こう　こっちに　火[を]　置いて　そうすると

コゴ　トゲル　ワゲ　ダンダンエ　トゲデクッド
ここ[が]　溶ける　わけ　次第に　溶けてくると

オカ゜ラ　シゴホンモ　タゲェーデ　コサ　ツゲデ
苧がら[を]　4、5本も　持って　ここに　つけて

シテ　コサ　マダ　コーシテ　イッパモ　ナッド
そうして　ここに　また　こうして　1束も　なると

カラカ゜イデ〔10〕オグデンダ　コンド　ムガシワ　タイデー
束ねておくわけだ　今度　昔は　たいてい

ヒノ　ネー　ゴド　ネー　モンダモノ　ソスッド
火の　ない　こと[は]　ない　ものだから　そうすると

カマサ　フィ　ツケネバネー　ドギ
釜に　火[を]　つけなければならない　時

マッチ　ナンデ　ゴド　ナガッタ
マッチ　などという　こと[は]　なかった

ソノ　オカ°ラサ　フィ　　ツゲデ　(D　モッテッテ)
その　苧がらに　火[を]　つけて　(D　持っていって)

デードゴマデ　モテエッテ　　スキ°ノ　ハサデモ　ツゲデ
台所まで　　持っていって　杉の　　葉にでも　つけて

コノクレーモ　ナケ°ー　モンダハゲ　ヨッポド
このくらいも　長い　　ものだから　よほど

イガイルモンダッケモノ
行かれる[＝使い手がある]ものだったから

144D：ナルホドノ　タキツケノ　キカ°　ナカ°イガラ
なるほどね　焚きつけね　木が　長いから

(A　ンダ　　ソー　ソー)　ジャ　　オカ°ラワ　ソノ
(A　そうだ　そう　そう)　じゃあ　苧がらは　その

テンカスルタメ　(A　ソー　ソー　ソー　ソー　ソー)
点火するため　　(A　そう　そう　そう　そう　そう)

エー　オガ　アノ　イオー　　ツケテ　(C　ンダー)
ええ　××　あの　硫黄[を]　つけて　(C　そうだ)

デ　　アド　　オカ°ラ　　モッテグマデ
そして　あと[は]　苧がら[は]　持っていくまで

ズット　モエデルド　　(A　ソ　　ウン)
ずっと　燃えていると　(A　そう　うん)

145C：ンー　ソーユゴドノー　（D　アー　ナルホドノ）
うん　そういうことね　（D　ああ　なるほどね）

146A：ソーユゴド　　シタモンダ　ソンダハゲ　ソノ
そういうこと[を]　したものだ　そうだから　その

ヤッパリ　オカ°ラ
やっぱり　苧がら

147C：ソインデ　タイシタ　　ソノー　ヒャクショーヤニ　トッテワ
それで　たいへんに　その　百姓の家に　とっては

ジューヨーナ　モノデンダノ　ソノー　イド　ッデ　モノワ
重要な　ものだったね　その　糸　という　ものは

アサ　ッデ　モノワノー　（A　ンダナヤ　ンー）
麻　という　ものはね　（A　そうだよね　うん）

ウン　ホレ　フィ　タネニモ　サイルンダシノー
うん　それ　火[の]　種にも　できるのだからね

（D　ンー　ナルホドノー　アサワ　ジャ　タイヘン）
（D　うん　なるほどね　麻は　××　たいへん）

アサイドニ　シテ
麻糸に　して

148A：＊＊＊　ガガダダッテ　ニサンネンワ　イドヒギシモ　シタロー
＊＊＊　妻たちだって　2、3年は　糸引きも　しただろう

ド　モガシ
と　思うが

149C：シター　アレ　ババチャ　　ナグナッ　ドギモ　ソノナ
やった　あれ　おばあさん[が]　亡くなる　時も　それを

ヒギ　ヒ　ウン　ヒーデシマッタ　コイーッテ　　シッタデヤー
××　×　うん　引いてしまった　このようにして　やっていたよ

アド　　ヒガイナグ　ナッサゲ　ッデー　デガシタデヤノー
あと[は]　引けなく　なるから　といって　仕上げたのだよね

150A：ンダ　ンダ　イドヒギサ　イッダ　ドギモ　ヨバイッタケモンノー
そうだ　そうだ　糸引きに　行った　時も　呼ばれていったよね

151D：ソノー　アサノ　リヨーワ　ソノー　イワユル　ミノ　アンダリ
その　麻の　利用は　その　いわゆる　簑[を]　編んだり

エー　イロンナ
ええ　いろいろな[ものを]

152B：ンマノ　オイズナ　ツグッタリ　（D　オイズナ　ツクッタリ）
馬の　追い綱[を]　作ったり　（D　追い綱[を]　作ったり）

153A：ソレバリデ　ネーカ°ノー　サイホースル　ス　イドモ
それればかりで　ないかね　裁縫する　×　糸にも

シタモンダモノ　（D　アー　シタ）　アサイドデ　ソノ
したものだった　（D　ああ　した）　麻糸で　その

アサイドオ　コー　ナオ　　ホッソグ　サイデ　クチサ　クワエデ
麻糸を　　こう　さらに　細く　　裂いて　口に　　くわえて

アド　　コシテ　　コサ　　コーシテ　ヨリデ
あと[は]　こうして　ここに　こうして　撚って

21↑22

コッド　　コゴラヘンサ　クッド　マダ　ベズノ
今度[は]　ここらへんに　来ると　また　別の

(D　ツ　ツキ°モノナンカモ)　ソー　ソー　ソー　(D　ホー)
(D　×　継ぎ物なども)　　そう　そう　そう　(D　ほう)

オラノ　キルモノナノ　アサイドデ　ヌッタッチャ　　オマエ　＊＊＊
私の　　着る物なんか　麻糸で　　縫ったものだよ　おまえ　＊＊＊

(D　アサイドデ　アー　アー　ヌッタ)　アルモンダ
(D　麻糸で　　ああ　ああ　縫った)　あるものだ

ソレサ　ゾーギン　サスナッデバ　カナラズ　アサイドダモンダ
それに　雑巾[を]　刺すとなれば　必ず　　麻糸であったものだ

154D：イドワ　シ　シロイ　ワケダノー　アサ　ソノモノダハゲノ
糸は　　×　白い　　わけだね　　麻　　そのものだからね

155A：シログ　ンー　アサ　　ンダハゲ　ソノ　イド　　ホス　ドギモノ
白く　　うん　麻[は]　だから　　その　糸[を]　干す　時もね

アンマリ　オデンキノ　イー　ドギバッカリ　ホサイネモンダモノ
あまり　　お天気の　　いい　時ばかり[も]　干せないものだから

アメ　フライデド　コッド　ホシイルモンダシヨー〔11〕
雨[に]　降られるというと　今度　／／／／／／／／／／／

ンダハゲ　ヨ゛ボシ　ッテ　ヨ゛ザラシ　カゲル　ワゲ
そうだから　「夜干し」　といって　夜晒し　かける　わけ

デッド　アノ　イドカ゜　キーログ　ヒレバ　ナテ
そうすると　あの　糸が　黄色く　乾けば　××

オカ゜ラエ　ナッテ　ヒレバノ　カナラズ　イドノ
苧がらに　なって　乾けばね　必ず　糸の

シレー　イド　デギル　ワゲ
白い　糸[が]　できる　わけ

アンマリ　テンキ　イー　ドギバッカリ　ヒギツズギ　ホシテ
あまり　天気[の]　いい　時ばかり[に]　引き続いて　干して

イドノ　クギカ゜　アオイデッド　イドカ゜　クレイナワケ
糸の　茎が　青いというと　糸が　黒いのよ

（D　アー　クロイ　＊＊＊）　マッシログ　ナラネー　ワゲ
（D　ああ　黒い　＊＊＊）　真っ白く　ならない　わけ

156D：ナルホドノ　スッド　ヨボシニ　シテ　ソノー　アレシタモンダノ
なるほどね　そうすると　夜干しに　して　その　あれしたものか

157A：アサイド　ツグッタモンダ
麻糸[を]　作ったものだ

158D：アー　シカシ　ムカシノ　（A　アド　ホレ）　ノーカノ
　　ああ　しかし　昔の　　（A　あと　それ）　農家の

　　ヒトダチ　ッテノワー　ヒャクショー　ト　イワレル　ユエンカ°
　　人たち　というのは　百姓　　と　いわれる　由縁が

　　ヤッパリ　ソユドサ　　アンダナー　イトモ　ツクルシ
　　やっぱり　そういうところに　あるのだね　糸も　作るし

159A：マ゛ズ　ジキュージソグ゛ダノ　ンー
　　まず　自給自足だね　うん

160D：ジキュージソグデ　ヤルカラダノー
　　自給自足で　やるからだね

161A：ソシテ　コッド　ボン　スキ°レバ　ホラ　ハダゲサ　イッテ
　　そして　今度[は]　盆[が]　過ぎれば　ほら　畑に　行って

　　ナマキ°サネバネ　　ウラボン〔12〕ダナッテ　ヤスンデモ
　　／／／しなければならない　盂蘭盆だといって　休んでも

　　イライネ　コッド　オマズリ　クルモンダモノ　{笑}
　　いられない　次[は]　お祭り[が]　来るものだから　{笑}

162C：ヒエトリ　サネバネノ
　　稗取り[を]　しなければならないしね

163D：アノ　ボンノ　ギョージワ　タトエバ
　　あの　盆の　行事は　たとえば

ショーレーンマ[13]オ　ツクッタリ　ソーユー
精霊馬を　作ったり　そういう

コゴデワ　ウン　ドーユー　シューカン
ここでは　うん　どのような　習慣[がありますか]

164A：オラエ゛デワノ　ムガシガラ　ショーレンマワ　ツグラネ　エーダッケ
私の家ではね　昔から　精霊馬は　作らない　家だった

165D：ンマワ　ツクラナイ
馬は　作らない

166A：ショーレーウシ゛デ　(D　アー　ウシ)　ソノ　ウシモノ
精霊牛で　(D　ああ　牛)　その　牛もね

(D　キューリ　ソスッド)　キューリノ　ミナ
(D　キュウリ　そうすると)　キュウリの　全部

チッチェナノ　イネ　ユーカ゜オノ　コーユー　オッキナ
小さいのなんか　いないよ　夕顔の　こういう　大きいの

167C：オッキナノ　ユーカ゜オ　(D　ユーカ゜オ)　ウン　ユーカ゜オノ
大きな　夕顔　(D　夕顔)　うん　夕顔の

オッキナデ　コレ　ケッツノ　ホー　コケ゜ナ　オッキーロ
大きいので　これ　尻の　ほう[が]　こんなに　大きいだろう

ズット　コーシテ　アレ　コノクレー
そうすると　こうして　あれ　このくらい

168A：マズ　イッシャグ　シ　シゴスンモ　アルホド
　　まず　1尺　　×　4、5寸も　あるほど

　　(C　ノゴ　アノー　ホンゾ　ツゲデ)
　　(C　××　あのう　へそ　つけて)

169D：アノー　ショーレン　ショーレンマトガ　ショーレーウシ　ッテノワ
　　あのう　精霊　　精霊馬とか　　精霊牛　　というのは

170B：ンダ　　ソレダ
　　そうだ　それだ

171D：ナクナッタ　ソノー　センゾノ　ヒトダジカ°
　　亡くなった　その　先祖の　人たちが

　　ノッテクルタメノ　(B　ンー　ソー　ソー　ソー　ソレダ)
　　乗ってくるための　(B　うん　そう　そう　そう　それだ)

　　ノリモノダ　ッテ　ユー　コトデ　ツグル　ワゲ　ハー　ハー
　　乗り物だ　と　いう　ことで　作る　わけ　はあ　はあ

　　ソースッド　ガンジョーデ　ネード　ダメダ　ッテ　ユー　ワゲデ
　　そうすると　丈夫で　ないと　だめだ　と　いう　わけで

　　ウジノ　ヒト　ツグッタ　ワゲダノ
　　家の　人[は]　作った　わけだね

172A：ソー　ソノナサ　ノッテクンナ　ウン　ソー　ソー　ウン
　　そう　それに　乗ってくるのだ　うん　そう　そう　うん

(C　ンー　ンー　ソー　ソー　オラエデワ　ソー　ソー　ンダナ)
(C　うん　うん　そう　そう　私の家では　そう　そう　そうだね)

オラエダバ　　オッキー　ウシナ　　エダッケ
私の家であれば　大きい　　牛の[いた]　家だったよ
22↑23
ンマワ　ツグラネ　エーダッケ
馬は　　作らない　家だった

173C：ヒャクショーンデネー　ウジワ　アノ　オメーノ　アダリダバ
百姓でない　　家は　　あの　おまえの　あたりでは

ンマダガ　シンネゾ　　ナスナ
馬かも　　しれないよ　茄子でね

174D：イヤ　アダシーワ　ジッカワ　ドーモ　ンマ　ダイダイ
いや　私は　　実家は　　どうも　馬　　代々

ンマミデーダ　キー　スッドモ　　(C　ナスダロッケ)
馬[の]ような　気が　するけれども　(C　茄子だったろうか?)

ナスノ　オーキー　ナス
茄子の　大きい　　茄子

175B：アー　オラエノ　ショーフグジダバノ　ウシド　ウマド
ああ　私の家の　勝福寺であればね　　牛と　　馬と

フタッツ　ツグルモンダッケ　(C　アー　ンダカ)
二つ　　作るものだった　　(C　ああ　そうか)

ンマ　アッタッテ
馬[が]　あっても

176A：ナスデワノー　ナスデ　ンマ　ツグッテ
茄子ではね　茄子で　馬[を]　作って

キューリデ　ウシ　ツグルモンダ　ドゴノ　エーデモ
キュウリで　牛[を]　作るのだ　どこの　家でも

オラエデワ　ナスノ　ネー　エーダッケ
私の家では　茄子の　ない　家だった

ンマ　ウシバッカリデ　ンデモ　アラネ　ウリダドガノー
××　牛ばっかりで　そうでも　ない　ウリだとかね

177C：ウシダバ　ンマヨリ　ジョー〔14〕　ミダ　ドゴ　イーモノ
牛であれば　馬より　×××　見た　ところ　いいから

(A　{笑})　コレ　ケッ　ユーカ°オダロ　アンタタジ
(A　{笑})　これ　××　夕顔だろう　あなたたち

ユーカ°オ　コレ　オシリノ　ホーワ　ボッテグデ
夕顔　それ　お尻の　ほうは　どっしりしていて

ズーット　コー　ナッテダロー　ホシテ　ホンゾカ°
ずっと　こう　なっていたろう　そして　へそが

コノグレーモ　ツケデダロー　デ　コゴサ
このくらいも　つけていたろう　そして　ここに

マメデモッテ　(D　ミミ)　ミミ　　ツゲデ
豆でもって　　(D　耳)　　耳[を]　つけて

ナンバン〔15〕ノ　アレ　トンカ゜リナンバンデモ
南蛮の　　あれ　トンガリ南蛮でも

テンコナンバンデモッテ　ツノ　　ビント　コー
テンコ南蛮でもって　　角[を]　ピンと　こう

ツゲデダロー　　デ　　(D　ホー　ホー　ホー　ホー)
つけていたろう　そうして　(D　ほう　ほう　ほう　ほう)

ハラサワ　ワガメノ　ズット　フテーナデ　コ　　コンブ゛ダガ
腹には　　ワカメの　ずっと　太いので　　こう　昆布だっけ？

178A：ワガメデネ　　コンブ
ワカメで[は]ない　昆布[だ]

179C：ハラオ゛ビミデー　シュット　イヤンベ　　ムスナイデダロ
腹帯のように　　シュッと　いい具合に　結ばれてあったろう

アド　ヤナキ゜゛デ　アシ　コレ　ヨンホン　オッキダナ　ツゲデ
あと　柳で　　足　　これ　4本　　大きいのを　つけて

ホデ　　オッパワ　タモドガラ　(A　フェーナノ)
そして　尾は　　田んぼから　(A　稗なんか)

フェ　　ボーン　デ　ユーナ　　トッテキテ　ヒー　フィエ
稗[の]　ボーン　と　いうのを　取ってきて　稗　　稗

ケッツサ　ボント　コー　ホーシテ　コーシテルンダモノ
尻に　　ボンと　こう　そして　　こうしているものだから

スンコ゜グ　ミダ　ドゴ　　イーデンダヤノー
たいへんに　見た　ところ[も]　いいわけだよね

(D　ナルホドノー)　タイデー
(D　なるほどね)　　たいてい[の]

ジョーンブナ　ヒトラダッテ　ノッテコライルモンダモノ
体格のよい　人たちだって　乗ってこられるものだから

180D：ダイブ　コッテルンダノー　　コレ　ハラオビモ　シデダドワ
だいぶ　こっているものですね　これ　腹帯も　　していたとは

ワガラナ　シラナガッタノー
××××　知らなかったね

181A：オラエンダバ　　ハラオビ　シテル　　エダ
私の家であれば　腹帯[を]　している　家だ

182C：オラエンドゴ　　ハラオビ　チャント　シテ　コシテノー
私の家[であれば]　腹帯[を]　きちんと　して　こんなふうにね

(D　ソリャ　ソートーノ　デントー　フンデルナー)
(D　それは　相当の　　伝統[を]　踏んでいるね)

タズホーサ　　カザッテ　(A　ホドゲサンサ)
辰[の]方向に　飾って　　(A　仏様に)

183D：コンド　ミサ　コネバネッチャ　　{笑}
今度　　見に　来なければならないね　{笑}

184A：イマ　　サネモノ　（B　イマ　　サネモノ　　{笑}）
今[は]　しないもの　（B　今[は]　しないもの　{笑}）

185C：イマ　　コンド　オモチャノ　ヒコーキ　　イーシ
今[は]　今度　　おもちゃの　飛行機[でも]　よいし

ジドーシャノ　ボッコレダナデ　　ノッテクルモンナ　{笑}
自動車の　　こわれたので[も]　乗ってくるものね　{笑}

186A：ソシテー　ソシテー　ンダモンダ　　ソノ　ホドゲハンサ
そして　　そして　　そんなものだ　その　仏様に

アケ゜ル　モノワ　アノー　カカ゜ミテン〔16〕　テ
あげる　　ものは　あのう　かがみところてん　といって

ホドゲハンノ　カガミテン　　テ　　テンワ
仏様の　　かがみところてん　といって　ところてんは

イマモ　スルシ　（C　ンダ）
今も　　やるし　（C　そうだ）

187D：テンオ　　アケ゜ッガラ　（A　ンー）　ホー
ところてんを　あげるから　（A　うん）　ほう

（C　ノ　カカ゜ミテン　　ッテ）
（C　ね　かがみところてん　といって）

188A：ソレガラ　ソノー　アラネウリ〔17〕　ッテノ
それから　その　　霰瓜　　ってね
23↑24

キューリダガシ　ナスダガシ
キュウリとか　　茄子とか

189D：サイノメニ　キッテ　（C　ソー　ソー　ン）
賽の目に　　切って　（C　そう　そう　うん）

190A：ンー　ジャカ°イモダガシ　（C　ンダノ）　ソノ　アラネウリワ
うん　ジャガイモとか　　（C　そうだね）　その　霰瓜は

ソノ　ムエンクヨーニ　ムエンニ　ホガウ〔18〕　ッテ
その　無縁供養に　　無縁に　　ほがす　　といって

（C　ホガウ　ッテ　イミ゛デノ）　ンー　ホガウ　ッテ　イミデ
（C　ほがす　という　意味でね）　うん　ほがす　という　意味で

（D　ホガウ　ッテ　イミデノ　ハー　ハー）
（D　ほがす　という　意味でね　はあ　はあ）

191C：ン　アド　ハスノ　ハッパサ　モジオ　アゲデダロ
うん　あと　蓮の　葉に　餅を　あげてでしょ

（A　ンーダ）
（A　そうだ）

192D：ムエン　ッテ　イワユル　ムエンボトケーニ
無縁　といって　いわゆる　無縁仏に

アゲ゜ル　ッテ　ユー　イミ
あげる　と　いう　意味

193A：ンー　ナマモノワ　マ゛ズ　ムエンボドケニ　アゲ゜ル
うん　生ものは　まず　無縁仏に　あげる

194D：アー　アゲ゜ル　ッテ　ユー　ゴドデノ　アー
ああ　あげる　と　いう　ことでね　ああ

195A：ソシテ　ボンノ　ジューサンニジワ　ソレゴソ　カナラズ
そして　盆の　13日は　それこそ　必ず

アンモジ　ツイデヨ　ハスノ　ハッパサ
餡餅[を]　ついてね　蓮の　葉に

オンジェサ　フタッツサ　モジ　コー　イズズ
お膳に　二つに　餅[を]　こう　五つ

196D：アレワ　ハスノ　ハニ　アノー
あれは　蓮の　葉に　あのう

197A：ハスノ　ハッパサ　（C　ハッパサ）
蓮の　葉に　（C　葉に）

ンデモ　イマナノ　ハスノ　ハッパ　カワイネハゲ
そうでも　今は　蓮の　葉[が]　買えないから

カワ　カラトリ〔19〕ノ　ハッパサ　スンドモノ
××　里芋の　葉に　するけれどもね

198D：アー　カラトリ　{笑}　オレモ　キオグ　　アンナワ
ああ　里芋　　{笑}　私も　　記憶[が]　あるのは

カラドリノ　ハッパダケドモ　（C　{笑}）
里芋の　　葉だけれども　　（C　{笑}）

アー　アレワ　ハスカ°　ホントナンダヨノ
ああ　あれは　蓮が　　本当[＝正式]なのだろうね

199C：ハスノ　ハーカ°　ホントダ　ウン
蓮の　葉が　　本当だ　うん

（A　サイキンマデワ　オラエダバ　ハヤシサ　ハスノ　ハッパ）
（A　最近までは　　私の家は　林に　　蓮の　葉）

マズ　カワイルマデタゲワ　マズ　ハスノ　ハッパサノ
まず　買えるまでだけは　　まず　蓮の　葉にね

ハスノ　ハナド　ハスノ　ハッパワ
蓮の　花と　蓮の　葉は

（A　ンーダ　ホドゲハンノ　ゴッツオダデモンデノ）
（A　そうだ　仏様の　　ご馳走だというわけでね）

オボンニ　ツカワネバネヨーエノ
お盆に　使わなければならないようにね

イマ　カワイネハゲダシノ
今　買えないものだからね

200D：ハー　ハスノ　ハダッタ　ワゲダノ
はあ　蓮の　葉だった　わけだね

（C　ソー　ソー　ソー　ハスノ　ハノ）
（C　そう　そう　そう　蓮の　葉ね）

ソレガ　ホントダガモノ？　（C　ノ）　＊＊ノ？　（C　ウン）
それが　本当なのかもしれないね　（C　×）　＊＊＊　（C　うん）

201A：ソシテ　ソシテ　オヒルエ　ナッタハゲ　コッド　ミンナ
そして　そして　お昼に　なったから　今度　みんな

モジ　タベッゼー　ッテ　ソーユドギ　ナッデド
餅[を]　食べよう　と　そういう時[に]　なるというと

チョージンサ　フィ　ツゲデ　ウラノ　カワマデ
提灯に　火[を]　つけて　裏の　川まで

オヒョレーサマ　オヒョレーサマ　コノ　アガリニ
お精霊様　お精霊様　この　灯りに

ゴザッヘーヨー〔20〕　ッテ　ムガイ　イッテ
おいでください　といって　迎え[に]　行って

（D　アー　ムカエニ　イク）　ムガイ　イッテ
（D　ああ　迎えに　行く）　迎え[に]　行って

ソシテ　ホドゲハンサ　アド　オヒョーレーハン
そして　仏様に　あと　お精霊様[が]

キタ　ドゴロ゛デモッテ　ミンナ　オカ゜ンデ　モジ　タベッデダ
来た　ところで　みんな　拝んで　餅[を]　食べていた

202D：ムカイニ　イクナワ　ダレノ　ヤク
迎えに　行くのは　だれの　役目

203A：ダレッデ　ゴド　ネ
だれという　こと[は]　ない

ツコ゜ーノ　イー　ヒト　ダレデモ　イ
都合の　よい　人[なら]　だれでも　よい

204D：ア　ソレワ　ダレデモ　アー　ダレデモ　イナノ　アー
あ　それは　だれでも　ああ　だれでも　いいのか　ああ

205A：ン　オラエ゛デワ　イマワ　ソノ　チョージンモ　ナグナッテ
うん　私の家では　今は　その　提灯も　なくなって

コッド　ウシワ　サイキンガラ　ウシ゛デナノ
今度　牛は　最近から　牛なんか

ノッタラシャッタラッテ〔21〕　オヒョーレーサマモ　{笑}
のらりくらりと　お精霊様も　{笑}

(D　{笑}　ジダイガ　アワナグ　ナッテ)
(D　{笑}　時代が　合わなく　なって)

ジカン　カガッテ　ヤダラネーハゲ
時間[が]　かかって　しょうがないから

ヒコーキデモ　イーシ　ジドーシャデモ　イーシ　ナンデモ　イーハゲ
飛行機でも　いいし　自動車でも　いいし　なんでも　いいから

206C：ソレワー　アノー　オラエ　ドクトグノ　アノー　ヤリガダデ
それは　あのう　私の家　独特の　あのう　やり方で

ヤッチンナンゾ　ノ
やっているのだよ　ね

207A：ンダ　ンダ　{笑}　コー　プラモ゛デル゛デ　(C　ンダ)
そうだ　そうだ　{笑}　こう　プラモデルで　(C　そうだ)

ツグッタ　ヒコーキ　コンナサ　ノッテコイナ　ッテ
作った　飛行機　これに　乗っておいで　といって

(D　{笑})　ソンナ　チャット　ホドゲハンサ　カザッテヨ
(D　{笑})　それを　きちんと　仏様に　飾ってね

208C：アー　キタ　キタナ　ッテ　ソ　イッテンナヤノ
ああ　おいでだ　おいでになった　と　そう　言っているのだよね

24↑25

209A：サー　ダレガ　ムガエ　イッテコイ　ッツー
「さあ　だれか　迎え[に]　行ってこい」　って言うんだ

カンジョノ　イー　モノ　デンチ　タケ゜ェーデナ　ッテ
「都合の　よい　者[が]　電灯[を]　持ってよ」　と言って

(D　ナルホド)　イマ　チョージンモ　ネーモンダシ
(D　なるほど)　今[は]　提灯も　ないものだから

210D：アー　デンチデ　イグ　ワゲダノ　（A　デンチデ　ムガエル）
　　ああ　電灯で　　行く　わけだね　（A　電灯で　　迎える）

　　アー　ナルホドノー
　　ああ　なるほどね

211C：ンダ　　ンダハゲ　　トー　トー　サイキン　トーチャン
　　そうだ　そうだから　××　××　最近　　おとうさん

　　イッテキタリ　オレ　　イッテキタリ　ダレダナンテ
　　行ってきたり　私[が]　行ってきたり　だれ[が迎えに行く]なんて

　　コト　　ネ　　（A　ダレデモ　ツコ゜ー）
　　こと[は]　ない　（A　だれでも　都合）

212D：アー　デンチ　　モッテモ　イグ　ワゲ　ヤッパリ
　　ああ　電灯[を]　持っても　行く　わけ　やっぱり

213A：デンチ　　タカ゜イデ
　　電灯[を]　持って

214C：ウン　イチオーワ　＊＊＊
　　うん　一応は　　＊＊＊

215D：アー　ドゴマデ　イグ　ワゲ
　　ああ　どこまで　行く　わけ

216A：ンー　デンチ　　ナイガラ　ッテ
　　うん　電灯[が]　ないから　といって

ナンボ　タネデモ　メンドクセーバ　　メンドーダバ
いくら　探しても　めんどうくさければ　めんどうだったら

217C：アガ　ソコノ　（B　カワ　ウラガザワマデ）　ウラノ　カワサ　イグ
××　そこの　（B　川　／／／／／／／）　裏の　川に　行く

（D　ア　ア　カワニ　イク　ッテ　ユーノワ　マタ）　ソレダ
（D　×　×　川に　行く　と　いうのは　また）　それだ

218B：ウン　カワサ　ホレゴソ　アレデ　ネーガ
うん　川に　それこそ　あれで　ないのか

219C：ドーシテ　カワサ　イグナダモンダガノー
どうして　川に　行くものだろうかね

220A：カクデ　ンー　ンデモ　ナカ°ス　ドギモ　カワサ
×××　うん　そうでも　流す　時も　川に

ナカ°シタモンダ　イマワ　ヤガマシグ　　ナッタハゲ
流したものだ　今は　[規制が]厳しく　なったから

（C　ンー　ナカ°レサノ）　ナカ°サネードモノ
（C　うん　流れにね）　流さないけれどもね

（B　イマ　ンー）
（B　今　うん）

221D：ナカ°シタナ　ナニ　ナカ°シタ　ワケ
流したもの[は]　なに[を]　流した　わけ

オショレーサマ　（B　オショレーサマ）
お精霊様　　（B　お精霊様）

222A：ホレ　イマオシトーリワ　アラネウリナンテ
ほら　／／／／／／／／　霰瓜とか[いったりするじゃない]

ハナ゛ダドガ　カカ゜ミテンダガシ
花だとか　　かがみところてんとか

ウシダガシ　ナカ゜サネバネデンダ
牛とか　　流さなければならないわけだ

ソノドギ　ウラノ　カワサ　ナカ゜シタモンダ
その時　　裏の　　川に　　流したものだ

イマワ　ナカ゜シテ　ワリー　　ゴドニ　ナッタハゲ
今は　　流しては　　いけない　ことに　なったから

イマワ　ツジ　　アナサ　ンメンドモノ
今は　　土[の]　穴に　　埋めるけれどもね

223C：ハナ　（D　ハナトカ）　ウン　ウシモ　ナカ゜シタデ　（B　ウシ）
花　　（D　花とか）　　うん　牛も　　流したのだよ　（B　牛）

イチオー　ナカ゜シテ　ワリー　　コ゜ド　　ナッタハゲ
一応　　流しては　　いけない　こと[に]　なったから

ヒコーキダデラ　ジ゛ドシャナンデラッテ　オレ　　ソーユナヤ
飛行機や　　自動車などと　　私[は]　そういうのだよ

224B：ダゲド　デンチダッテ　サンカイ　クリクリ　ダシテノ
だけども　電灯だって　３回　クリクリ[と]　出してね

ン　アガ
うん　××

225C：コー　マワシテ　コー　ナーガネーデ　ゴザッテクﾞダヘヨー
こう　回して　こう　泣かないで　おいでくださいよ

ッテノ　（B　ンダ　ンダ）
といってね　（B　そうだ　そうだ）

226D：アー　ナルホド　ナルホド　スッド　ムガシワ　チョージンオ
ああ　なるほど　なるほど　そうすると　昔は　提灯を

（B　ンー　ムガシワ　チョージン）　アー　アー　ナルホドノ
（B　うん　昔は　提灯）　ああ　ああ　なるほどね

227A：サンド　スッデー
３度　するわけ

ソー　ンー　トーロー〔22〕　タカﾟエデイッテノー
そう　うん　灯籠[を]　持っていってね

デ　オ　オハガマイリ　イグッタッテ
それで　×　お墓参り[に]　行くのだって

カナラズ　トーロー　タカﾟエデイッタモンダ
必ず　灯籠[を]　持っていったものだ

228C：ソレカ゜　オショレーサマ　オショレーサマ
それが　お精霊様　　お精霊様

コノ　アガリデ　ゴザッテクンダヘーヨー　ッテ
この　灯りで　おいでくださいよ　　といって

コーユーフーニモ　マワシテヨ　ッテ　ババチャガラ　オシェライデー
こういうふうに　回してよ　と　おばあさんから　教えられて

イタンダ　オショレーサマ　ッテ　ユー　ゴド゛デ
行ったものだ　お精霊様　と　いう　ことで

229D：タ　タデ　マワス　ワゲ　ヨゴ　マワス　ワゲ？
×　縦[に]　回す　わけ　横[に]　回す　わけ？

230C：コーシテ　コーンダゴド　サネゼ　{笑}
このようにして　こんなこと[は]　しないよ　{笑}

シ゛ズガニ　コー
静かに　こう

231A：コーヤ　ハテ　タデ　ホケ゜ナゴドワ　サネノー　{笑}
こうよ　そうやって　縦[に]　そんなことは　しないね　{笑}

232D：{笑}　イヤイヤ　コーユーフーニ　マワスナカ゜
{笑}　いやいや　こういうふうに　回すのか？

(A　ンデネ　コー　コー　コー　コー　コー　コー　コー)
(A　それでね　こう　こう　こう　こう　こう　こう　こう)

ヨゴニ　マワス　ワゲ
横に　　回す　　わけ

233B：コー　マワサネデ　ヤハリ　ヨゴ　　コーダノー
こう　回さないで　やはり　横[に]　こうだね

234D：アー　カワノ　ウエデ
ああ　川の　　上で

(C　チョ　ウン　カワノ　ウエデ　コー　ウン　スコーシ)
(C　××　うん　川の　　上で　　こう　うん　少し)

アー　ナルホド　カワノ　ウエデ　{笑}　ヤルアンサゲノー
ああ　なるほど　川の　　上で　　{笑}　するのだからね

ハー　ハー
はあ　はあ

235B：コー　ブラサカ゜ッデッ　ドゴノ　　コー　コー
こう　ぶらさがっている　ところね　こう　こう

コーェ　　ナル　ワゲダノ　ンー　コーンデナク゜　ソシテ
このように　なる　わけだね　うん　こうでなく　　そして

チョージン　ツゲデ　ズーット　ホドゲサマカ゜　クル　ワゲ
提灯[を]　つけて　ずっと　　仏様が　　来る　わけ

236A：オショーレーサマ　オショーレーサマ
お精霊様　　お精霊様

コノ　アガリデ　ゴザッテクダヘーヨー　ッテ
この　灯りで　おいでくださいよ　といって

237D：タデニ　マワスノワ　コレ　ケーサツノ　ヤル　アレダンナ
縦に　回すのは　これ　警察の　する　あれだね

238C：ンダノ　ソシテ　アド　スク゜　ノ　ホドゲハンノ　メサ
そうだね　そして　あと　すぐ　ね　仏様の　前に

イッショ　シェーテキタ　ッデ　ユー　イミダロノ？
一緒[に]　連れてきた　と　いう　意味なのだろうね

239D：アノー　バショニ　ヨッテワ　アノ　ボサンオ　ヨルニ　スル
あのう　場所に　よっては　あの　墓参を　夜に　する

シューカンノ　トゴロモ　アッケドモ
習慣の　ところも　あるけれども

マルオカワ　ヒルマ゛ンダロ
丸岡は　昼なのだろう

25↑

山形県東田川郡櫛引町1980注記

〔1〕ナヌカビ

櫛引町丸岡では，８月７日の早朝，ねぶた流しをする。川水に顔を入れて「ねぶた流れろ。豆の葉とまれ」と唱える。眠くならないまじないである。この日を「ナヌカビ」（七日盆）といい，大人たちは朝飯前に墓掃除をし，山道の草を刈り，帰りに柳の枝を採って箸を作り，葦で盆棚に敷くござを編む。この日，餅をつき，そうめんを食べて，仕事を休み，夜は仏壇に燈明をつける。

〔2〕ネムリナカ゜シ

眠り流し。形代（かたしろ）を流すことが夏の睡魔追放に結びついた行事。七夕の時，藁で作った船形・人形など，海や川に流す。

〔3〕ナスヤギ

茄子焼き。茄子のしぎ焼き。

〔4〕オハガマイリ　サネバネンダシ

墓参りのあと，寺に詣でて先祖の位牌を拝んだ。

〔5〕ボンレー

盆礼。盂蘭盆会（うらぼんえ）に嫁や婿が里へ挨拶に行くこと。

〔6〕ミゴ

稲穂の芯のことか。

〔7〕ハンバギ

脚絆。ハバキはガンバ（蒲）や管草で編む。藁で編んだものもあるが，ガンバで作ったものは，頸も濡れないうえに，保温力もあり，耐久性の点でもはるかにすぐれている。雪上で仕事をする時にはいた。

〔8〕ハッコグ

ハッコイ。ハッコエ。「冷たい」という意。

〔9〕オカ゜ラ

苧がら。麻の皮をはいだあとの茎。

〔10〕カラカ゜イデ

「しばる」「結びつける」という意。他に，「着物の穴などを補修する」と

いう意味もある。

〔11〕ホシイルモンダシヨー

「雨に濡れてしまって，糸としての用をなさなくなる」という意味だと思われる。

〔12〕ウラボン

盂蘭盆。陰暦７月15日を中心に行われる仏事。

〔13〕ショーレーンマ

精霊馬。御霊棚を作り，そこに茄子で馬とか牛を作った。角や足は，笹竹や割り箸で作る地域もある。

〔14〕ジョー

「ジョーブ」と言おうとして，やめた。

〔15〕ナンバン

南蛮。唐辛子のこと。

〔16〕カカ゜ミテン

かがみところてん。味や色をつけない，白いままのところてん。

〔17〕アラネウリ

霰瓜。ウリを，あられ餅のように賽の目に切り，葉にのせてあげたもの。

〔18〕ホガウ

ホガス。「捨てる」「投げつける」という意味だと思われる。

〔19〕カラトリ

里芋。

〔20〕ゴザッヘーヨー

「ゴザハェ」「ゴザラハエ」ともいう。おいでくださいよ。尊敬の意。

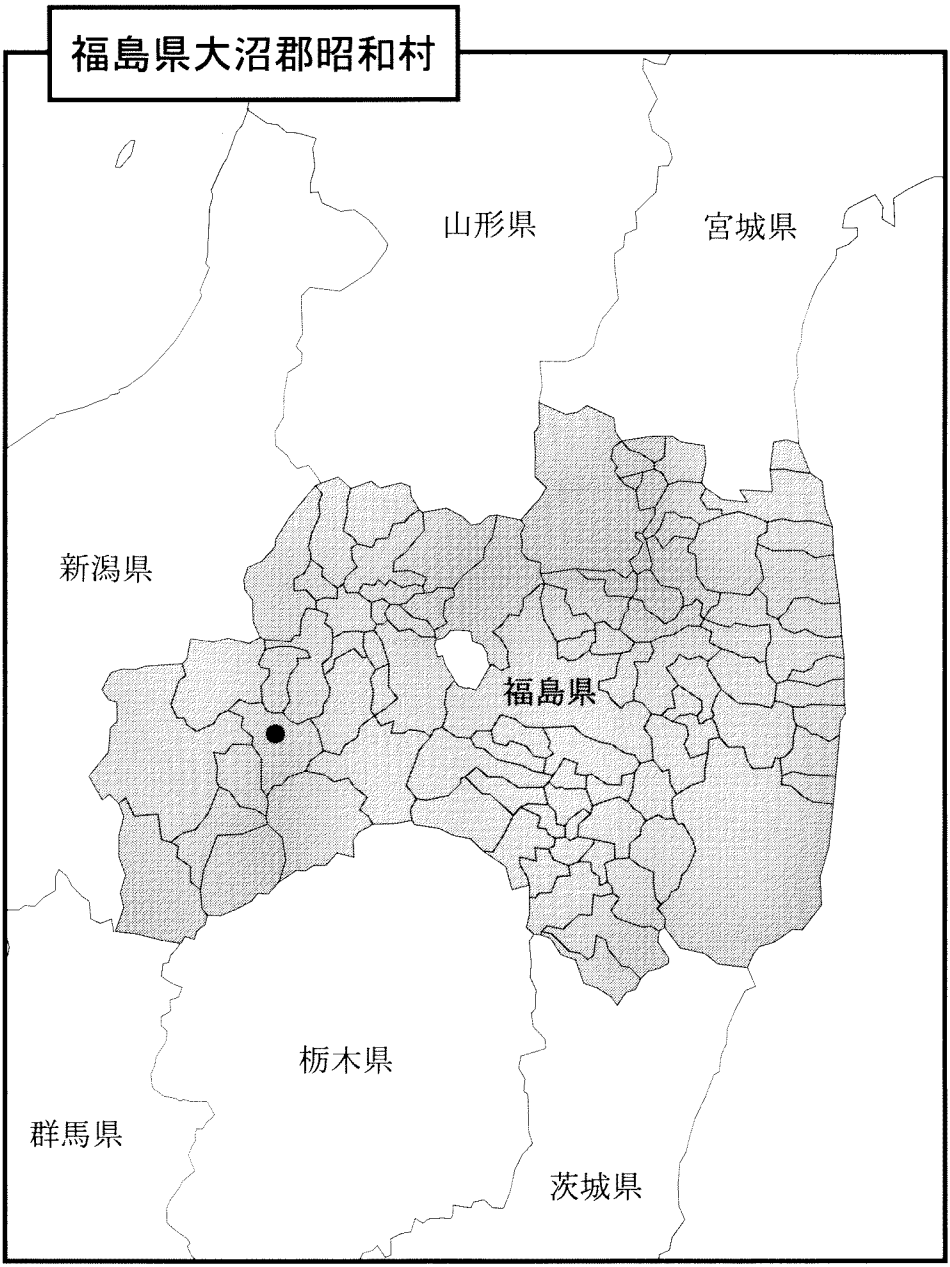
〔21〕ノッタラシャッタラッテ

「のらりくらりして」「時間がかかりすぎて」の意。

〔22〕トーロー

灯籠。細い骨に薄い紙を張り，種々の絵を書いた提灯。

Ⅲ. 福島県大沼郡昭和村
1982


福島県大沼郡昭和村
山形県
宮城県
新潟県
福島県
栃木県
群馬県
茨城県

福島県大沼郡昭和村1982話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	金子 トメ子
	皆川 伝三郎
	皆川 フジイ
収録担当者	皆川 伝三郎
文字化担当者	皆川 伝三郎
共通語訳担当者	皆川 伝三郎

（敬称略　項目別50音順）

「全国方言談話データベース」

解説担当者	半沢 康　※
編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	白岩 広行
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

※解説は，「各地方言収集緊急調査」報告資料をもとに，「全国方言談話データベース」の公開にあたって，新たに作成した。

福島県大沼郡昭和村1982解説

収録地点名　福島県大沼郡昭和村大字大芦（ふくしまけんおおぬまぐんしょうわむらおおあざおおあし）

収録地点の概観

位置

福島県は県内部を走る奥羽山脈，阿武隈高地によって県域が大きく３地域に区分され，西から会津，中通り，浜通りと呼ばれている。昭和村はこのうち西部の会津地方に属し，会津地方の中心である会津若松市から南西約30kmのところにある。集落の多くは村内を流れる野尻川沿いに広がっているが，大芦地区は中心部からさらに南に10kmほど下ったところに位置している。

交通

会津若松市からは国道401号線が通じているが，博士峠（はかせ）などの難所が多く冬季は通行止めとなるため，通常は隣接する金山町や田島町を迂回し国道400号線を利用せざるを得ない。村内には鉄道駅がないため，大芦地区まで公共交通機関を利用する場合は会津若松から只見線に乗り，会津川口駅で路線バスへ乗り換える。

地勢

昭和村は越後山脈内の標高約500ｍの高冷地に存する。村のほとんどが急峻な山岳地帯で，面積の80％以上を山林が占める。日本海型気候に属し，有数の豪雪地帯である。

行政区画

昭和村を含む大沼郡の大部分と南会津郡は，近世は南山御蔵入領と呼ばれる天領（会津藩預かり）に属していた。1889(明治22)年の町村制施行により大芦村と野尻村が成立。さらに1927(昭和２)年両村の合併によって現在の昭和村が誕生した。

戸数・人口

1980(昭和55)年４月１日現在，昭和村は，人口2,903人。大芦は，世帯数167戸，人口608人。

産業

総世帯数のうち農林業世帯数が90%以上を占める。カスミソウなどの花卉栽培が盛ん。中世から続くといわれるからむし栽培が有名で，昭和村からむし生産技術保存協会は国の「選定保存技術」保持者に選定されている。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

福島県は南西端の桧枝岐村を除いて南奥方言域に区画される。全県的に共通の方言基盤を有し，その中に会津，中通り，浜通り方言という３つの小対立がある。さらに県北部は宮城・山形方言に通じ，南部は栃木・茨城方言との類似性を見せる。

会津地方の方言については，桧枝岐以外の会津方言を南北に２分する区画案がある。南会津方言はさらに東部・西部に分けられる。昭和村大芦地区は南会津方言に属すると考えられる。行政区画上は，会津若松市などとも交流の深い大沼郡に属しているものの，交通の様相などを考えても，当該地域の人々が会津北部各地と頻繁に接触することは少なかったであろう。昭和村の談話資料には南会津方言的特徴が随所に見られ，むしろ隣接する只見町や南郷村との交流のほうが盛んだったことを思わせる。一方で福島県北部の方言特徴も散見され，会津南北方言の緩衝地域的性格も認められる。

音韻

（1）狭母音「イ」「ウ」は中舌母音となる。「シ」と「ス」，「チ」と「ツ」，「ジ」と「ズ」が混同される傾向も認められるものの，ある程度区別されているようだ。この点，南会津方言と会津北部方言の中間的性格を示している。

（2）連母音「アイ」「アエ」は規則的に融合する。福島県方言の「エ」は東京方言などよりも口の開きが狭いが，伝統的な発音ではその本来の「エ」よりも広い［ɛ］となる。ただし本データの話者は区別を失って狭い「エ」に統合しているようである。この連母音の融合は県内に広く認められる。

イデー（痛い）
テーラ（平ら）
キケー（機械）

（3）連母音「オイ」「オエ」も規則的に融合する。

オベール（覚える）

アウェー（青い）

オメー　ワルクテ（思い［が］悪くて［＝嫌な気分で］）

（4）ワ行五段動詞語尾の連母音「アウ」に「オー」が対応する場合がある。南会津西部方言に通ずる特徴である。

チコ°ー（違う）

モロー（もらう）

ナッチモー（なってしまう）

（5）母音「ア」に挟まれたw音は規則的に脱落する。福島県内に広く分布する特徴である。

モラーレル（もらわれる）

カー（皮）

タマカ°ー（玉川）

（6）無声化した狭母音と（半）広母音に挟まれたr子音が無声化，あるいは脱落する。仙台を中心に東北南部に分布する特徴である。w音にも同様の傾向が見られる。

ムッショ（筵）

ハッシャ（柱）

マッショ（真っ白）

イッシャグクレー（1尺くらい）

クワッパ（桑の葉）

（7）有声母音に挟まれたカ行・タ行音が，ガ行・ダ行音となる有声化現象が認められる。東北全域に認められる特徴である。

ナガナガ（なかなか）

イデー（痛い）

ヘダ（下手）

（8）古音「イェ」の残存が確認される。時に摩擦音化して「ジェ」のように発音され，さらに無声化する場合もある。県北部や宮城・山形方言などに通ずる特徴である。

ジェー（よい）

ジェー（家）

ヒー（家）

ヤ行の摩擦音化は「ユ」の場合にも認められる。会津北部と共通し，山形方言に通ずる。

ズワッチェ（言われて＞ゆわれて）

（9）「セ」音に「シェ」が対応する。古音の残存と見られる。

ニジュッシェン（20銭）

シェッカグ（せっかく）

キシェデ（着せて）

タンシェー（丹精）

(10)「キ」音が口蓋化して「チ」に近く発音される特徴は会津北部には規則的に認められるが，昭和村では一般的ではないようである。この点で南会津方言に通ずる。

ショッテチタ（背負ってきた）

モッテチタ（持ってきた）

(11) 濁音の入りわたり鼻音（いわゆる鼻音化現象）が見られる。

文法

（1）サ変動詞「する」は一段化の傾向が認められる。北関東や福島県南部方言に通ずる。

ホーシット（そうすると）

キカ°シル（気がする）

（2）「歩く」の連用形が促音便となる現象は南東北から北関東に広く分布する。福島県内では「気づかない方言」として世代を問わず広く用いられている。

アルッテクット（歩いてくると）

（3）「くれる」の命令形が「クロ」となる特徴は会津地方に広く認められる。

フイテクロヨー（ふいてくれよ）

（4）会津地方や県内他地域と同様，「ベー」が用いられる。用法も県内各方言と共通する。

サンジップンダゲ　ヌーベー（30分だけ縫おう）〈意志〉

オギデ　ヒグベーデー（起きて引こうよ）〈勧誘〉

ヨグ　ナガッタンダベ（欲［が］なかったんだろう）〈推量〉

ヨッポド　アッタダベ（ずいぶんあったんでしょう）〈確認要求〉

「ベー」が一段動詞へ後接する場合，語幹接続となることがある。近世東国資料に見られるもので，県内では南会津にのみ認められる。

ヒカレベーワ（引かれるでしょうよ）

クイズカ゜レベーガー（食いつなげるだろうか）

（5）r脱落現象が認められ，「リ」「レ」音にタ行・ダ行・ナ行音が後接する場合，［t］［d］［n］音が口蓋化してチャ行・ジャ行・ニャ行音となる。「リ」「レ」音も母音が脱落して促音化，撥音化する。この現象は多くの場合用言の活用に関わって生じるもので，一般の音変化とは異なる。

ズワッチェ（言われて）

カッチェダ（借りていた）

オッコマンニェー（取り込まれない）

タンニェー（足りない）

類似の現象は東北南部各地に分布するが後接音が拗音化する点が福島県方言の特徴となる（拗音化は他に山形県置賜地方，村山地方の一部などにも見られる）。多くの地域ではr脱落がほぼ受身，可能形（「レル」「ラレル」形）に限って生じるのに対し，福島県内では一段動詞にも見られ適用範囲が広い。

テ形や否定形では「チェ」＞「チ」，「ニェ」＞「ニ」という変化が県内各地で進んでいる。

イワッチ（言われて）

カンケ゜ーランニー（考えられない）

（6）指定辞「ダ」が「ノ」を介さずに直接用言に後接する。会津地方や県南部に広く見られる特徴で，関東各地の方言に通ずる。

ネーダ（ないのだ＞ないんだ）

ヒギイーダー（引きやすいのだ＞引きやすいんだ）

イグダー（行くのだ＞行くんだ）

(7)「～ていた」にあたるアスペクト形式「ッタ」が見られる。宮城・山形方言に通ずる特徴で，県北部や会津全域に分布する。

ヒーッタ（引いていた）

オイッタ（置いていた）

(8)「～し始める」にあたる形式として「ハダツ」が用いられる。これも県内各地に見られるものである。

キハダッテ（来始めて）

(9) 尊敬形式「ヤル」が用いられるのは南会津西部方言の特徴である。本データでも盛んに用いられている。

インキ゜ャット（行かれると）

キヤッター（おいでになった）

シャッケノヤー（なさったのよ）

(10) 南会津地方には逆接の接続助詞「ケレドモ」はあまり用いられず，もっぱら「カ゜」が用いられる。本データでも県内に広く見られる「ゲンジョモ」「ゲントモ」といった語形は用いられていない。

(11) 県内各地で「100円分」などの「～分」の意味で用いられる「カ゜ナ」「カ゜ン」は，県北部および会津地方では意味が拡張し，いわゆる準体助詞に近い働きをする。

ダレソレカ゜ナ（だれそれの）

ウスイカ゜ン（薄いの）

語彙

(1) シナタ，ニシ

対称詞の「シナタ」は県内では只見町，南郷村など南会津を中心に用いられている。同じ対称詞の「ニシ」に比べて待遇度が高い。

(2) マカ゜ル

「挨拶をする」の意味の「マカ゜ル」は，県内では会津地方を中心に認められる。

(3) コメラ

「子どもたち」を表す「コメラ」も会津地方に分布する語形である。

（4）ズネー

「大きい」の意味の「ズネー」は『日本言語地図』によれば，ほぼ福島県だけで用いられる語形である。

（5）トーミキ゜

「とうもろこし」を表す「トーミキ゜」も全県的な語形である。本来形の「トーキビ」から，子音交替や民衆語源に基づく変化などによって生じたと考えられる。

参考文献

井上史雄2000『東北方言の変遷』秋山書店

大橋勝男1992「福島県方言」『現代日本語方言大辞典 1』明治書院

菅野宏1982「福島県の方言」『講座方言学 4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会

（以上の解説は，「各地方言収集緊急調査」報告資料をもとに，「全国方言談話データベース」の公開にあたって，新たに作成した。）

福島県大沼郡昭和村1982凡例

談話資料は，方言談話音声，方言談話音声の文字化，方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには，ページ単位で切った方言談話音声を，CDには，方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し，方言談話の共通語訳は，漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは，対照ができるように，上下２段を１組として示した。上段が文字化，下段がその共通語訳である。

文字化については，表音的カタカナ表記を用いている。つまり，長音は「ー」で示し，助詞「は」は「ワ」，助詞「を」は「オ」，助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ゜」「キ゜」「ク゜」「ケ゜」「コ゜」はガ行鼻濁音を表す。

また，分かち書き，句読点などは，便宜的なもので，厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における，方言談話音声の文字化の方法は，後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし，今回，「全国方言談話データベース」として公開するにあたり，文字化・共通語訳を整備する際には，当時のマニュアルにはとらわれず，読みやすさ，意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また，この文字化は，時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって，発話の重なりや，複線的な会話の進行の構造が，文字化からは読み取れない。データを使用する際には，文字化・共通語訳を見るだけではなく，実際に，音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している，話者が交替するまでの連続した発言を１発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号　　〈半角〉

発話の通し番号を，各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

話者記号　　〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。（句点）　　〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス　　ソーデス

そうです。　そうです。

、（読点）　　〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？　　〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

　　預けておいて？

↓　　〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ　ヤッタンダナー↓

　　よく　やったんだな。

（　）　　〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり，口をはさんだりした個所。

（A　……）のように，開き括弧の次にあるアルファベットは，発言している話者を示す。（　）の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお，（　）内のあいづちと，独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：（A　アー　ソーデスカ）

｛　｝　　〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：｛笑｝

　　｛咳｝

　　｛手を叩く音｝

×××　　〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム　ム　ムツカシー

　　×　×　難しい

＊＊＊　　〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

　　お茶漬けの＊

／／／　　〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ　モジナンデスナ、

／／／／／「文字」なんですね。

［　］　　〈全角〉

方言音声には出てこないが，共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン　　ノセテ

みかん［を］　乗せて

＝　　〈全角〉

［　］内の＝は，意味の説明や，意訳であることを示す。

例：イマ　ユー

今　　いう［＝今話題にあがった］

｜　｜　　〈全角〉

注意書きなど。

例：｜Aに対して｜

〔　〕　　〈全角〉

注記。方言形の意味・用法，特徴的音声などについて説明し，文字化・共通語訳の後にまとめてある。〔　〕内の半角数字は，注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ〔1〕

音声

CD-ROMには，冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに，方言音声をリンクさせていて，各ページにある 再生 の部分をクリックすると，そのページの音声を聞くことができる。

CDには，談話全体の音声を収録している。以下にあげるように，適当な個所で，トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは，方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「福島26-1」はCDトラック番号が26で，その1ページ目ということである。「福島26-1」「福島26-2」……「福島26-5/27-1」……「福島37-2」

のように表示される。

また，文字化・共通語訳部分には，CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し，その両側の数字はトラック番号である。
↑26，26↑27，……36↑37，37↑のように表示される。

第3巻のCD（72分15秒）には，福島県大沼郡昭和村の談話，【農作業と食生活】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
26	p.201・ℓ.1	p.205・ℓ.1	0:02:01
27	p.205・ℓ.3	p.209・ℓ.1	0:02:00
28	p.209・ℓ.3	p.213・ℓ.5	0:02:10
29	p.213・ℓ.7	p.217・ℓ.5	0:02:02
30	p.217・ℓ.7	p.221・ℓ.19	0:01:57
31	p.222・ℓ.1	p.226・ℓ.17	0:02:00
32	p.226・ℓ.19	p.231・ℓ.5	0:02:07
33	p.231・ℓ.7	p.235・ℓ.3	0:02:01
34	p.235・ℓ.3	p.239・ℓ.3	0:02:03
35	p.239・ℓ.5	p.243・ℓ.13	0:02:01
36	p.243・ℓ.15	p.248・ℓ.1	0:02:00
37	p.248・ℓ.3	p.249・ℓ.13	0:01:01
計			0:23:23

福島県大沼郡昭和村1982談話

収録地点　　福島県大沼郡昭和村大字大芦（ふくしまけんおおぬまぐんしょうわむらおおあざおおあし）

収録日時　　1982(昭和57)年12月26日

収録場所　　福島県大沼郡昭和村大字大芦

話題　　農作業と食生活

話者

A	女	1909(明治42)年　(収録時73歳)
B	女	1916(大正５)年　(収録時66歳)
C	男	1913(大正２)年　(収録時69歳)

収録時間（CD）　23分23秒

【農作業と食生活】

話し手

A	女	明治42年生	(収録時73歳)
B	女	大正５年生	(収録時66歳)
C	男	大正２年生	(収録時69歳)

１A：カラムシヒギ〔1〕ナー　ホニ。
　　からむし引きな　　本当に。
　　↑26
２B：カラムシヒギモ　ジョーズヘダ　アッテナー↓　ナガナガ
　　からむし引きも　上手下手[が]　あってな。　なかなか

３A：サンジューニチクレー　ブッツリ　シ
　　30日くらい　　みっちり　×

　　オラモ　ホニ　　ヒーダガー
　　私も　　本当に　[からむしを]引いたから

　　ホーシット　テガ°　ヘッテー↓　　ショーナクテ
　　そうすると　手が　すり減って[＝荒れて]　しょうがなくて

　　イデードー　コンダ　キワダ〔2〕　キワダッカワドガデー
　　痛いと　　今度は　キワダ　　キワダの皮とかで

　　アノ　ニ　ト　ホレ　ユデットー　カワ　　デル　ズワッチェ、
　　あの　×　×　ほら　ゆでると　　皮[が]　出る　と言われて、

ヨルン　ナットー　ホニ　　キワダデ　カンズメ　ガンカラサナンド
夜に　　なると　　本当に　キワダで　缶詰[の]　空缶になど

ニダシテ　ソレデ　ユ゛デデ、　ソンジェネード　アノ　クワッパー、デ
煮出して　それで　ゆでて、　そうでないと　　あの　桑の葉で

バンカダ　コスット　ジェー　ナンツワッテ、
夜　　こすると　いい　なんて言われて、

イッカケ゜ツクレーワ　ブッツリダッターナ　カラムシヒギワ。
1か月くらいは　　みっちりだったな　　からむし引きは。

4B：ヨグ　ヤッタンダナー↓　イッカケ゜ツモ　ヤッタラ
よく　やったんだな。　　1か月も　　やったら

ホシタ　　ズイブン　ムガシ　トレタッタンダナー↓
そしたら　ずいぶん　昔　　[お金を]取れたんだな。

5A：イッカケ゜ツクレー　ヒーッタワー。　ソレカ゜　ヤスインダー
1か月くらい　　引いていたよ。　それが　安いんだ。

ヒャグメ　ニエンニジュッシェンニ　ウレダ。
100匁　　2円20銭で　　売れた。

コトシ　　コノクレーデ　ガマンスルシカ　ネーノガー　ナンテ
今年[は]　このくらいで　我慢するしか　ないのか　なんて。

ヤット　ウッタ　ド　オモード　ハンブンモ　シャッキンダシ　{笑}
やっと　売った　と　思うと　　半分も　　借金だし、　　{笑}

（C　〔笑〕）　スギニ　　ナンネー　コドダワヤ。
（C　〔笑〕）　思うように　ならない　ことだよ。

6 B：ヨグ　ヨーグ　ソノ　ウッター　ネダンマデ　ヨーグ　オンベーデダナー。
よく　よく　その　売った　値段まで　よく　覚えているな。

7 A：ニエンニジュッシェンッテ＊＊
２円20銭って＊＊

8 E：オレワ　ヨグカ°　ナガッタ　ジューノガナー↓
私は　欲が　なかった　というのかな。

ムカシノ　コド　　オンベーデネ。
昔の　こと[は]　覚えていない。

ネッカ　ナンダベ　キ　＊　ワスレンダヨ　ホダーノワー。
×××　なんだろう　×　＊　忘れるんだよ　そんなのは。

9 A：ニゲンザオ〔3〕　ホラ　ニゲン　ホニ　ザオ　イッペー　ヤ
２間竿　ほら　２間　本当に　竿　いっぱい　×

サオ　ニゲンダッタワー↓　（B　ンー）　コー　カグザオ。　ソノ
竿　２間だったよ。　（B　うん）　こう　角竿。　その

ニゲンザオ　イッペー　ヒカネート　（B　イジニジニカ？　ンー）
２間竿　いっぱい[に]　引かないと　（B　１日にか？　うん）

イッチョーメー　ネーンダー　ナンテー↓　ソー　イワッチェ
一人前[で]　ないんだ　なんて、　そう　言われて

福島 26-4

キョーワ　ヨンジューガゲ〔4〕シカ　ナガッタ
今日は　　40かけしか　　なかった。

イヤ　アシタ　ゴンジューカゲ　ヒグンゾー。
いや　明日　　50かけ　　引くぞ。

ログジューガゲ　ネード　ニヒャグメ　ネーシター　　ノーズワッチェ
60かけ　　ないと　200匁　　ないじゃないか　のと言われて、

ソレカ°　マットースルマデ　ヒギダクテ↓
それが　まっとうするまで　引きたくて

ホニ　　アサケ°　ハヤグガ　オギデ　ニゲンザオ　イッペ
本当に　朝　　早くから　起きて　２間竿　　いっぱい

アレ　コンダー　ニヒャグメ　デギダーガ　ド　モッテ
あれ　今度は　　200匁　　できたか　　と　思って

ニヒャグメ　アッツォー　キョーノカ°ナワ　ズワッチャー　ドキノ
200匁　　あるぞ　　今日のは　　と言われた　　時の

ウレシー、（B　ンー）　シェーコンカキ°リ　ツカレデッカー
うれしい、（B　うん）　精根[の]限り　　疲れているから

バンカダ　アノ　カゲデガー、
夜　　あの　[からむしを]掛けてから

アラ　ヨーハンニ　コネー　ズワッチェ　オゴサッチェ　サオ
あら　夕飯に　　来ない　と言われて　起こされて　　××

サオノ　シタサ　ソノマーマ　ネムッチマッタ　ゴド　　アル。
竿の　　下に　　そのまま　　眠ってしまった　こと[が]　ある。

26↑27

10B：ズイブン　ホンキデ　ヤッタンダワ　ホンジャ。
ずいぶん　本気で　　やったんだな　それでは。

11A：ンー　ヤルシカ　ナガッタンダワー。
うん　やるしか　なかったんだよ。

12B：エ　コッチニ　イルウジダベ↓
え　こっちに　いるうちでしょう。

13A：ソーダ？　ソイカー　イマノヨーニ　ホラ　ゲンキンナンノ
そうだ。　それから　今のように　　ほら　現金など[を]

モッテ　アノ　シナ　　カーヨー　　ナガッタガラ
持って　あの　品物[を]　買いよう[が]　なかったから

トシマゴフクテンダノ　アノ　イズズヤゴフクテンダーナンテ、
戸島呉服店だの　　あの　五津屋呉服店だなんて

(B　ンー)　カラムシ　　カンジョーニ
(B　うん)　からむし[を]　勘定に[して]

ミンナ　カッチェダンダモ
みんな　[お金を]借りていたんだもの

メリンス〔5〕　イッシャグクレー　カーニ。
メリンス[を]　1尺くらい　　買う[の]に。

14B：オボンニ　ナル　コロナー↓　アノ
　　お盆に　　なる　頃な。　　あの

15A：ンー。　ホイガ　　イジエンニジュッシェン　チュー
　　うん。　それから　1円20銭　　という

　　オレ　ユガダ　　ホシクテガー〔6〕
　　私　　浴衣[が]　欲しくて、

　　ソレ　　オガト　　ソーダンシテ　イヤ　モッテキタラ
　　それ[を]　おかあさんと　相談して　　いや　持ってきたら、

　　イヤ　オドッツァンニ　シラベララッチェ
　　いや　おとうさんに　　調べられて

　　ナンニモ　ネーナ　コノ　イチエンニジュッシェン　チューワ
　　なんにも　ないな。　この　1円20銭　　という[の]は

　　ナニ　　カッチェキタ゛ベ　　マチケ゜ーデ　アンメーガ。
　　なに[を]　借りてきたんだろう。　間違いで[は]　あるまいか。

　　マチケ゜ーン　ネーノヤ　ワイヤ　　モッテチタ。
　　間違い[で]は　ないのよ。　自分の家[に]　持ってきた。

　　マチケ゜ー　ネーダ　　ジュード　ナンナンダ
　　間違い[は]　ないんだ　と言うと　なんなんだ

　　シタチャ　イッテ　ユガダ　　カッテ　モッテキター
　　下に　　行って　浴衣[を]　買って　持ってきた

ドモ　ユーヨー　　ネーデー↓　(B　{笑})
とも　言いよう[が]　なくて　　(B　{笑})

イチエンニジュッセンノカ°ナ　アノ　タンシェーシテ。
1円20銭の[を]　　あの　念入りに。

ワダグシヒギ〔7〕　ヒーターカ°ナ　ゴ゛ジュッシェンクレー
わたくし引き[を]　引いたの[で]　50銭くらい

モラーレルカ°ナカ°　ナニヨリノ　タノシミー。
もらえるのが　　なによりの　楽しみ。

16B：ヨーワリニ　ワダグシ　　ヒーデ
夜仕事に　わたくし[引きを]　引いて

ソレ、ソレワ　モラーッチャ　ワケダワナー↓
それ　それは　もらえた　　わけだよな。

17A：ソーヤ。オナコ°テーノ　コズケーカ°　(B　ンー　コズケー)
そうよ。女たちの　　こづかいが　(B　うん　こづかい)

ワダグシヒキ。{間}　ソレデ　クラシー　　タデッタンダガ
わたくし引き。{間}　それで　暮らし[を]　立てていたんだから

ムガシノ　ヒトワ　ヒンデー　ワケヤー　ホニ。
昔の　　人は　　ひどい　　わけよ　　本当に。

ヨゲーナ　ツキ°ナンド　イッタン　カッチャラ
よけいな　布切れなど　いったん　買ったら

ホニ　タイヘンナ　クルイニン　　ナルワ。
本当に　たいへんな　狂い[＝計算違い]に　なるわ。

18B：カラムシ　　ツグッテ　オ〔8〕　アサー　ツグッテ
からむし[を]　作って　苧　　麻[を]　作って

コンダ　アサワ　フユン　ナット、　オー　ウンデ、
今度は　麻は　　冬に　　なると　苧を　績んで

ハルン　ナット　ハダ　　オッテ、　グルグルドナー↓
春に　　なると　機[を]　織って　グルグルとな。

（A　＊＊＊）　ソーヤッテ　ヤッテダンダー。
（A　＊＊＊）　そうやって　やっていたんだ。

19A：ダガ　　ハダモ　カラムシモ　ヒギモ、
だから　機も　　からむしも　引きも

ハタオリモ　オラモ　ス　キレーデワナガッタ？
機織りも　　私も　　×　嫌いではなかった。

ヤッパ　　エーカ゜　ヒデーガ　　ヤンネーナンナガッターカー。
やっぱり　家が　　ひどいから　やらなければならなかったから。

20B：イマデモ　ヤレバ　デギンダワ。
今でも　　やれば　できるんだよ。

21A：ヤレバ　デギンカ゜、　ヤンダグ〔9〕　ナッター　ハ。
やれば　できるが、　嫌に　　なった　　もう。

メカ゜　メーネーガー。{間}
目が　見えないから。{間}

27↑28

22B：オレワ　ソノ、　カラムシ、　ジュークノ　ドギー　ハダチノ
私は　その　からむし　19[歳]の　時　20歳の

ドギガ。　オラー　タマカ゜ー〔10〕サ　イッチャッターガラ、
時か。　私は　玉川に　行っちゃったから、

オレワ　ソレホンド　ホンキンデ　ソノ　カラムシヒギーモ
私は　それほど　本気で　その　からむし引きも

ヤンネーナー↓
やらなかったな。

23A：ンー。{間}　オレワ　カラムシヒギワ　ヤッタ。{間}
うん。{間}　私は　からむし引きは　やった。{間}

ソコノ　X1　オラエサ　イッテー　(B　ンー)
そこの　X1[が]　私の家に　行って、　(B　うん)

ヤッパ　ヒーッタワ　フルヤ〔11〕サ　イッテ。
やっぱり　引いていたわ　古家に　行って。

(B　ンー)　ホンジェ、　オレ　トローット
(B　うん)　それで　私[が]　とろりと

ネダ　ド　オモッタラ　マグラモドサ　キテ
寝た　と　思ったら　[X1が]枕元に　来て

オギデ　ヒグベーデー　オギデ　ヒグベーデー　チューノ
「起きて　引こうよ　　起きて　引こうよ」　　と言うの。

ナンダ　オレ　　イマ　ネダヨーナ　キカ゜　シル。ナンダヨ
なんだ。私[は]　今　　寝たような　気が　する。なんだよ

コーダニ　ハヤグ､ガー　カラムシ　　ヒーデランネーゾヤー
こんなに　早くから　　からむし[を]　引いていられないぞ

オレカ゜　ネドゴサ　ヘーッテ　チーット　ネロヤー　ッテ
私が　　寝床に　　入って　　ちょっと　寝ろよ　　って

ソー　イッタラ、ソシター、オレ　ネデラレメー
そう　言ったら、そしたら、私　　寝ていられないでしょう。

シェッカグ　オギデキターノー　ヒケヤー　ジューガ
せっかく　　起きてきたんだ　　引けよ　　と言うから、

オギデ　トゲー　　ミダラ、イジジジューゴフンナンダワヤ
起きて　時計[を]　見たら　　1時15分なんだよ。

ソンジェ　アノ　コー　アノ　ワダグシヒギー
それで　　あの　こう　あの　わたくし引き

ヤッパ　　ヨーマワ　（B　ン）　ン　カラムシヒギ　　クンノワ
やっぱり　夜は　　（B　うん）　×　からむし引き[に]　来るのは

ホラ　ヤンダガラー↓　ジェーデ　ヒグ　アノ　ドッテガ
ほら　嫌だから、　　家で　　引く　あの　と言ってから、

ヒー〔12〕デ　ヒーッタノヤ。
家で　　引いていたのよ。

ソレ　　コンダ、ヤッパ　　チー　ク　ツカレデガー↓
それ[が]　今度は　やっぱり　××　×　疲れて

カラムシ　　ヒーデ　アレ　オイッター　ドゴ
からむし[を]　引いて　あれ　置いていた　ところ

コー　ソゴサ　ツンノメッチマッテ↓　ネムッチマッター
こう　そこに　突っ伏してしまって　　眠ってしまった。

デ　　ハーット　オモッテ　メー　　サマシテー↓
それで、はっと　　思って　　目[を]　覚まして、

イヤ　マルッテ　　カゲデガー↓　ソド　　ミダラ
いや　[からむしを]束にして　掛けて　　外[を]　見たら

アガリー　ドッテ　　ハイダーノ
明るい　　と言って　[からむしの皮を]はいだの[を]

イッペー　タンカ゜ッテイッタンダワヤ
いっぱい　担いでいったのよ。

オレン　ドゴサ　　ネダ　ド　モッタラ。
私の　　ところに　寝た　と　思ったら。

24B：ナーニホド　ホンキデ　ハダライタンダーナー。　ンー。
　　どんなにか　本気で　　働いたんだな。　　うん。

25A：シタガ　ソノクレー　ホンキ゛ダッタンダカ゜ー　シタラ
だから　そのくらい　本気だったんだが、　そしたら

＊＊＊＊＊　ナッタ＊　ソイガ　ナンダッテ　ヒッキーンダーワヤ
＊＊＊＊＊　なった＊　それから　なんだって　引きやすいんだよ

クレーガラー。（B　ンー）　アノ　ヌメッコクテ。
暗いから。　（B　うん）　あの　なめらかで。

ソシタ　ヨカ゜　アゲデミダラ　ナンダッテ　ヌゲネー〔13〕
そしたら　夜が　明けてみたら　なんだって　[青が]抜けない。

アウェーゴド　ホンキデ　ガサワ　ソノヒ　ヒーダッタケド
青いこと。　本気で　量は　その日　引いたけど。

{笑}（B　{笑}）　ナンダッテ　アウェーゴド
{笑}（B　{笑}）　なんだって　青いこと[＝青く]

ヒーダッタッケカ゜。　ヨッポド　イッシンデ　ホンニ　ヒーダー。
引いたが。　よっぽど　一心で　本当に　引いた。

ユガダ　カッテモラッターノ　コッショー　ジガンカ゜
浴衣[を]　買ってもらったの[を]　こしらえる　時間が

ネーデ、カラムシ　ヒーデル　サギサ　オイデ、
なくて、からむし[を]　引いている　先に　置いて、

サンジップンダラ　サンジップンダゲ　ヌーベー　ナンテ
30分なら　30分だけ　[浴衣を]縫おう　なんて

チット　ソノ　アト　ア　ジカンダ　ナンテ
ちょっと　その　あと　あ　時間だ　なんて

マタ　カラムシヒギー　シーシー
また　からむし引き[を]　しながら。

ソレカ°　タノシミクレーデ。　{間}
それが　楽しみ[な]くらいで。{間}

28↑29

ベズニ　ヤンダー　ドモ　オモアネーカ°。
別に　嫌だ　とも　思わないが。

26B：ズイ　ズイブン　カセーダーナー　ホンジェワ。
××　ずいぶん　稼いだな　それでは。

オレワ　ソレホ゛ド　カセカ°ネガッタナー↓
私は　それほど　稼がなかったな。

27A：シコ°　チョーバイカ°　チコ°ー
××　商売が　違う。

アレワ　ヤッパ　シナッタチワ。{間}
あれは　やっぱり　あなたたちは。{間}

28B：ヤッパリ　ワガエ　ウチニ　シコンダー　ゴドワ
やっぱり　若い　うちに　仕込んだ　ことは

イマデモ　ヤグダッテンダーモンナー↓　イマダッテ
今でも　役立っているんだものね。　今だって

カラムシ　　ヒケ　ト　イエバ　カラムシ　　ヒグンベーシ、
からむし[を]　引け　と　言えば　からむし[を]　引くつもりだし、

ハダ　　オレ　ッチェーバ　ハダモ　オン＊＊＊。
機[を]　織れ　と言えば　　機も　　織る＊＊＊。

29A：シー　ソーンダ　マサガナー↓　ワゲー　ドキ　オベーダノワ
うん。そんな　まさかな、　　若い　　時　　覚えたのは

イマダッテ　ハダノミジワ　　ワガッカラー↓　ヤレバ
今だって　機の道[＝機織りの方法]は　わかるから、　やれば

ホラ、マグモ　ノベルモ　デギネー　ゴドワ　ネーカ°ナー↓　{間}
ほら、巻くも　伸べるも　できない　ことは　ないがな。　{間}

30B：ソエッタゲ　ミサ　ツイデンダガラ　　イガッタワヤ
それだけ　身に　ついているんだから　よかったよ。

タイシタ　モンダワヤ。{間}
たいした　もんだよ。　{間}

31A：アヤケ°ーシ〔14〕　ナンチュード　ホラ　ウワソ〔15〕ド
綾返し　　なんていうと　ほら　上麻と

シタソ〔16〕ー　ナグナッチモード　　ボーノ　トリカケ°ンデナー↓
下麻が　　なくなってしまうと、棒の　　取りかげんでな、

（B　ソーナー）　チカ°ッテ　ボー　イッポン　トット
（B　そう[だ]な）　違って　　棒[を]　1本　　取ると

オルヨー　　ナグナッテ　バフーット　ナッチモー。
織りよう[が]　なくなって　バフーッと　なってしまう。

ソレカ゜　イチバン　オメー　　ワルクテ。　　＊＊
それが　いちばん　思い[が]　悪くて[＝嫌な気分で]。　＊＊

ソレダッテ　オラ、　テカ゜　ネーガー
それだって　私[は]　手が　ないから、

ヒトンジェ、　カテッポ　　オサメデモロー　カーリニー
一人で、　　片一方[を]　押さえてもらう　かわりに

イシナンドー　オッツケデオイテガー　カダテデ　ヌイデヤッターシ。
石など[を]　押しつけておいてから　片手で　抜いてやったし。

ソレシカッテ　オナコ゜テーノ　アレワ　シコ゜ドカ゜　ネーガラ。
それしか　女たちの　あれは　仕事が　ないから。

32B：イ゛ジモ　ツエーンダナー↓
意地も　強いんだな。

33A：{笑}　トッカエス　　{間}
{笑}　[不利な分は意地で]取り返す。　{間}

34C：アレ　ホントーニ　ジー　カラムシ　　ミ゛ズ　ツケネーデ
あれ　本当に　いい　からむし[は]　水[を]　つけないで

ヒグー　ナンテ、　ユーカ゜ー↓　{間}　ン。
引く　なんて　言うが。　{間}　うん。

35A：ヤッパリ　カダマッタヨーン　ナンダベナ
　　やっぱり　固まったように　　なるんだろうな。

　　アンマ　　ツケット。
　　あんまり　[水を]つけると。

36C：ンー。
　　うん。

37B：キラ〔17〕　ワルグ　ナンダナー↓
　　光沢[が]　悪く　　なるんだな。

38A：ソーダナー↓
　　そうだな。

39B：アノ　コー　ヒーデミデ　チョット　ソゴナッタナー
　　あの　こう　引いてみて　ちょっと　損なった[＝失敗した]な

　　ド　モッテ　マダ　コー　ツ　ヤルニ　　ミ゛ズ　ツケット
　　と　思って　また　こう　×　やる[の]に　水[を]　つけると

　　ソノカ゜ナカ゜　ウント　ワリーモンナ↓
　　そのものが　　うんと　悪いもんな。

40A：パカパカ　ジュー。
　　パカパカ　という。

41B：ンー↓
　　うん。

42A：スイガ　ワーカ°　サイデ　ウンデミネート　ワガンネーカ°、
それから　自分が　裂いて　績んでみないと　わからないが、

モットモ　ヒトノ　エーサ　ジェニトリ゛デモ　タノマッチェ　イク°
もっとも　人の　家に　銭取りでも　頼まれて　行く

ヒトワ　ヤッパ　ニゲンザオ　イッペー　ヒギードガ、
人は　やっぱり　２間竿　いっぱい　引きたいとか、
29↑30

ガサ　ヒガネード　ヤッパ　ワリーガラ
量[を]　引かないと　やっぱり　悪いから、

オッツリ　（B　＊＊＊）　ヒグシカネーカ°
／／／／　（B　＊＊＊）　引くしかないが、

ホントワ　イッポンズツダド　イーダー。
本当は　１本ずつだと[＝１本ずつ引くと]　いいんだ。

43B：ウンデミット　ワガルモナー↓
績んでみると　わかるもんな。

44A：ンー　{間}　カ　ヤッパリ　イッポンダド　ドーシテモ
うん。{間}　だから　やっぱり　１本だと　どうしても

ヒギズレ　ニホン　アーセットー　ホニー　ヒギイーダー
引きづらい。　２本　合わせると　本当に　引きやすいんだ。

ナンセ　シー　サグシカネーンダ　ヤッパナー
なにせ　××　裂くしかないんだ　やっぱりな。

45B：ンー
うん。

46C：ミ゛ズ　ツケネー゛デ　アオ〔18〕ー　ヌケルヨーナ　カラムシ゛ダラ
水[を]　つけないで　青が　抜けるような　からむしなら

ホントノ　ジェーガン、ノ　ワゲダベ？
本当の　いいものの　わけだろう？

47A：ダナー↓
そうだね。

48B：カワノ　ウスイカ゜ンダラ　ミ゛ズ　ツケネーッテモ
皮の　薄いのなら　水[を]　つけなくても

ヒケンデネーカ？
引けるんじゃないか？

49A：ミ゛ズ　ツケネーッタッテ　ヒカレベーワ。　ンー。
水[を]　つけなくたって　引けるでしょうよ。　うん。

50B：ヒケルナー↓　サンカイ　ヒグ　ドギン　ナット
引けるな。　3回　引く　時に　なると

51A：シタ　ヤッパ　アンマリ　ツケネード　（B　ン　ン）
そうしたら　やっぱり　あんまり　つけないと　（B　うん　うん）

ホラ　エダカ゜　カワイッチマーガラ、（B　ン　カワッカラ　ン）
ほら　枝が　乾いてしまうから、（B　うん　乾くから　うん）

シブグ　ナッチマ。　{間}　X２チャ　アノ　ホラ
渋く　なってしまう。{間}　X２ちゃん　あの　ほら

アカダ[19]ノ　ホラ　X３ジーサマノ　イエワ
赤田の　ほら　X３おじいさんの　家は

X４バイナンド　タイジェーニ
X４おばあさん[の]家など　大勢に

テツダーッチェ　ヤッテダーカ゜、（B　ンー）
手伝われて　やっていたが、（B　うん）

ホニー　X５バーナンドワ　オヤソビキ[20]バッカシダッタカ゜、
本当に　X５おばあさんなどは　親苧引きばっかりだったが

ソーシット　ダマッテ　マルッテクレヤンダド　ジーノヤー
そうすると　黙って　束ねてくださるんだと　いいのよ。

ホラ　オバナンド　キテル　アイダ、
ほら　叔母など[が]　来ている　間

ハー　キョーワ　ダレソレカ゜ナー　ナンボーメ　アッタ
さあ　今日は　だれそれの[が]　何匁　あった。

ダレソレカ゜ナ　イジバン　ヌゲネー　ノドッテ
だれそれの[が]　いちばん　[青が]抜けない　のと言って

ソレ　{笑}
それ　{笑}

52B：Ｘ４バーサマガ？
　　Ｘ４おばあさんか？

53A：ンー。（B　ンー）　ソースット　ソゴノ　アレ　ノジリ〔21〕サ
　　うん。（B　うん）　そうすると　そこの　あれ　野尻に

　　イッタ　Ｘ６バーノ　　エーノ　B。（B　ンー）
　　行った　Ｘ６おばあさんの　家の　B　（B　うん）

　　ソレ　チット　　ナラーセテクロー　ドッテ、
　　それ　ちょっと　習わせてくれ　　と言って

　　ヤッ　トキャ　ヤッタンダカ°
　　やる　時は　　やったんだが、

　　タマーニ　シモテノー　オＸ７バーン　　ドゴサ　イ゛キ°ャット
　　たまに　　下手の　　おＸ７おばあさんの　ところに　行かれると

　　Ｘ６バー　　マカ°リマカ°リ〔22〕　シャッケノヤー。
　　Ｘ６おばあさん[は]　何度もあいさつ[を]　なさったのよ。

　　（B　ンー）　ソーシット　B　　ヤンダ
　　（B　うん）　そうすると　B[は]　嫌だ

　　オラ　　ナラーネーッタッテ　ジーガー　ジーサ　イグンダー
　　私[は]　習わなくたって　　いいから　家に　　行くんだ

　　ナンテ　ソー　イー　ソー　イー、
　　なんて　そう　言い　そう　言い、

ソースット　Ｘ５バーワ　　キケーヨカ°シニ　アノ
そうすると　Ｘ５おばあさんは　聞こえよがしに　あの

Ｘ６バーワ、　　ソーダゴド　イッタッタッテ　ナレー
Ｘ６おばあさんは　そんなこと　言ったって　　習い[に]

キテンカ°ナ　　モー　ショデガ　　イッチョーメー
来ているの[を]　もう　初手[＝最初]から　一人前[に]

ヒグヨー　　アンメ　　ヨーグ　オセーロー　ッテ　ソー
引きよう[が]　あるまい。　よく　　教えろ　　って　そう

ユーノヤー　アサ　クサカリー　イッテキテ
言うのよ。　朝　　草刈り[に]　行ってきて

Ｘ３ジーワ　　アサハン　　クッテー　コー　イップグ
Ｘ３おじいさんは　朝ごはん[を]　食べて　　こう　一服

ヤッテヤットー、　ホラー　ミ゛ズー　ツク　アレダラ
やっておられると、　ほら　　水　　××　あれならば

テー　　アダマ　ツカム　ドッキャ　フイテクロヨー。
手[は]　頭[を]　つかむ　時は　　ふいてくれよ

ナンテ　ソー　ユー　＊＊＊
なんて　そう　言う　＊＊＊

54Ｂ：Ｘ５　アレガー↓　Ｘ４バー↓
　　Ｘ５　あれか？　　Ｘ４おばあさん？

30↑

55A：Ｘ５　アレ　Ｘ３ジーサ　　イッテダッタ
　　Ｘ５　あれ　Ｘ３おじいさん[が]　言っていた。
　↑31
56B：ア　Ｘ３ジーカ°
　　あ、Ｘ３おじいさんが。

57A：アダマ　ツカム　ドギワ　ヤッパ　チョイット　コゴサ、
　　頭[を]　つかむ　時は　やっぱり　ちょっと　ここに、

　　（B　ンー　ンー）　フカネード
　　（B　うん　うん）　ふかないと[いけない]。

58B：ヤッパリ　ア　テノ　アド　ツグモンナー↓　（A　ンー）
　　やっぱり　×　手の　跡[が]　つくもんな。　（A　うん）

　　コー　ツカンダ　アド。フカネード。
　　こう　つかんだ　跡。　ふかないと[いけない]。

59A：フル　ミ゛ズ　アレシット　（B　ンー）
　　××　水[を]　あれすると、（B　うん）

　　パカパカン　　ナッカラ↓　キビシカッタモンダ。
　　[からむしが]パカパカに　なるから。　厳しかったもんだ。

60B：Ｘ３ジーモ　　ホダニ　コマガダッタガー。
　　Ｘ３おじいさんも　そんなに　細かい人だったか。

61A：コマカダッタワヤー。
　　細かい人だったよ。

62B：ワレモ　ヒッキヤッタージャネーノ？
　　自分も　[糸を]引かれたんじゃないの？

63A：ウー　イヤ　ヤッターベ　　アノ、　ナンデモ　オラ
　　ううん　いや　やったでしょう。　あの　なんでも　私[は]

　　ホラ　イドゴ〔23〕ダン　イダッターガンダーカ°　アノ
　　ほら　親類だの　いたもんだが　あの

　　ナガノサー〔24〕ノ、　ハダゲ　バゴーデ　ウナッテモライニー↓
　　中の沢の　畑[を]　馬耕で　耕してもらいに

　　オラ　イッタッタンダ　テデバーシ　ムーゾセー〔25〕ガー
　　私[は]　行ったんだ。　手でばかり[では]　かわいそうだから

　　ナンテ。　ダ　ヒトノ　エノカ°ナモ　ジェーノカ°ナモ
　　なんて。　だから　人の　家のものも　[自分の]家のものも

　　ナグ　ヤッテクレヤッタッター？　ササノネ　ヤットントー
　　なく　やってくださった。　「笹の根　／／／／／／」

　　ナンテガー　ンマー　トメドイデー↓
　　なんて[言って]から　馬[を]　とめておいて

　　ドゴマデモ　ホッテクレヤッターカ°
　　どこまでも　掘ってくださったが、

　　タンダ　オレ　コマッターノニワ　{笑}
　　ただ　私[が]　困ったのには　{笑}

ドーユーフーニ　ハナドリ〔26〕　アルグダー　ワガンネーデ、
どういうふうに　馬を操って　　歩くんだか　わからないで、

カゲデガー↓　　ホーラ　イーベ　　ドッテ
[馬耕を]かけてから　ほら　　いいだろう　と言って

ソー　イワッチ　ドゴサ　ンマワー　アバゲッチュ
そう　言われて　どこに　馬は　　暴れるし

ドゴサ　モッテッテ　　イーガ　ワガンナクテ　ナグヨーナンダガ、
どこに　持っていって　いいか　わからなくて　泣くようなんだが

オレ　　ジェーサ　キテー　アノ　X４バー
私[が]　家に　　来て、　あの　X４おばあさん[が]

キヤッター　ドギ　オラ　　アーダ　ヤンダ　ジュー
来られた　　時、　私[は]　あんな　嫌だ　　という[ことは]

ネーンダー　オラ　　テデ　ウナッタ　ホー　　ヨガッター　ッテ
ないんだ。　私[は]　手で　耕した　　ほう[が]　よかった　　って

オレ　　ソ　　イッタラ、
私[が]　そう　言ったら、

64B：アラ　ハダゲ　ウナーニガ↓
あら　畑[を]　耕す[の]にか？

65A：ンー。（B　ンー）　X３ジーニ　　バレッチマッテ
うん。（B　うん）　X３おじいさんに　ばれてしまって

イッテ　　イヤ　ワラーッチャッケ
[X3おじいさんの家に]行って　いや　笑われた。

ソシター、ヤッパ　　A　ニシ゛デワ　ダメダッタナー
そしたら　「やっぱり　A　おまえでは　だめだったな。

マサガ　オイサー　ホー　　ヨガッターガ　ナンダガ
まさか　／／／　　ほう[が]　よかったか　なんだか

アレワ　バグロー〔27〕ノ　ムスメダ　ッテ
あれは　馬喰の　　娘だ」　って

{笑}（B・C　{笑}）ソー　イワッチャケド
{笑}（B・C　{笑}）そう　言われたけど。

66B：ン　　アレ　ヤッパリ　ソノコロ　バゴー　　アッタノガナー↓
うん。あれ　やっぱり　その頃　　馬耕[は]　あったのかな。

67A：バゴーニ　シテモラッター↓　ハダゲ。（B　ンー　ンー）
馬耕に　　してもらった。　　畑。　　（B　うん　うん）

ソ゛ババダケ。
そば畑。

68B：ハタゲワ　バコーデ　ウナッタラ　ヨガッターベカ゜、
畑は　　馬耕で　　耕したら　　よかっただろうが

ソレガラ　ズット　アドダベナー　オラエノ　オーシンデン〔28〕、
それから　ずっと　あとだろうな。私の家の　大新田、

バコーデ　ウナッテー　ミズ　　ムルヨン　　ナッタッタッテナー↓
馬耕で　　耕して　　水[が]　漏るように　なったってな。

69C：ンー。
うん。

70A：アー　（B　ンー　ンー）　Bバー　　エノ　コー　アゴニ
ああ　（B　うん　うん）　Bおばあさん[の]　家の　こう　あそこに

（B　アト　カーラー　ンダ）　コヤー　　マンナガニ　アッテナ
（B　あと　河原　　そうだ）　小屋[が]　真ん中に　　あってな

アラ。　ヨッポド　アッタダンベ　　アソゴニ　タンボ。
あれは。　ずいぶん　あったんでしょう。　あそこに　田んぼ。

71B：アソゴワ　ゴダンハッセ〔29〕バガ　アッタンダカ゜ナー↓
あそこは　5反8畝ばかり　　あったんだがな。

（A　ハー）　ダンダン　チットン　　ナッテ、　ナカ゜レッチマッテ
（A　はあ）　だんだん　ちょっとに　なって　　流れてしまって

コドシ　マダ　ナカ゜　チョット　ナカ゜ッチェ↓
今年　　また　××　ちょっと　流れて、

72A：イマ　ナンボクレー　ター　　アンダー↓
今　　どれくらい　　田[が]　あるんだ？

31↑32

73B：イマワー　エ　ナ　ツグッテッ　トゴー　　ヨンターンナンボカナ
今は　　×　×　作っている　ところ[は]　4反いくらかな。

ヨンタンハッセクレーカ。　ンー。
4反8畝くらいか。　うん。

74A：ア　ンダバ　アイッタヤ。　ン
あ　それなら　あれだよ。　うん

75B：キノー　アレ　セズメーカイカ゜　アッタンダカ゜ナー↓　（C　ン）
昨日　あれ　説明会が　あったんだがな。　（C　うん）

オラエノ　ター　マダ　ツブレンダド？
私の家の　田[が]　また　つぶれるんだと。

76A：ア　テーボーンデ↓
あ　堤防で。

77B：ンー。　テーボーデ　カワー　ヤッパ　マッスク゜ニ　シットガ
うん。　堤防で　川[を]　やっぱり　まっすぐに　するとか

ナントカダベ　タシカ。{間}
なんとかでしょう　確か。　{間}

78A：バゴーデ　ンー　オレ　タンボモ　ウナッテモラッターガ
馬耕で　うん　私　田んぼも　耕してもらったが。

ヤッパ　ムカシ。
やっぱり　昔。

79B：アンマリ　フ　フカグ　ウナッテ、　アー　イ　ジンザゲーマデ
あんまり　×　深く　耕して、　ああ　×　地境まで

ヤッパ　ウナッタ　ワゲダーベ↓　ソンジェ　コンド　ミズ
やっぱり　耕した　わけでしょう。それで　今度　水[が]

ムルヨーン　ナッテー↓　ヨッポド　シ゛バラグ　ダメダッタワ
漏るように　なって、　かなり　しばらく　だめだったよ。

ソノター。
その田は。

80A：オラモ　ン　ンマモ　ツカッテミダーモー、
私も　×　馬も　使ってみたけれど、

フルヤノ　ンマ　（B　ン）　カッチェ　ソノ　ボーカ゜ヤ〔30〕
古家の　馬[を]（B　うん）借りて　その　茅[を]

アノ　ナガノサー　ハッピャグモ　カリカリシターカ゜ー↓
あの　中の沢は　800[束]も　[茅を]刈ったが、

（B　ン）　ホスット　ワカ゜　ショッテワ
（B　うん）そうすると　自分が　背負っては

タイヘンダー　ド　モッテ
たいへんだ　と　思って[馬の背につけようとしたが]

ンマサ　ト゛ドガナクッテガー　アノ　ツケル　ナガッコー
馬に　[手が]届かなくて　あの　つける　なか

ツケルヨー　マサガ　イマデモ　ワガルヨーナ
つけ方[を]　まさか　今でも　わかるような[つけ方を]

オソワッテ　ンマー　スットー
教わって、　馬[は]　すると[＝茅を背負うと]

キシェデモラッテ　　＊＊　(B　ンー)　イッツォグー
[茅を]着せてもらって　＊＊　(B　うん)　1束

ネセデオギデ　　ソノウエサ　ワカ゜　アカ゜ンネード
寝かせておいて　その上に　　自分が　上がらないと

カヤ　　ツケルヨー　　ナクテー↓　ソーシテ
茅[を]　つけよう[が]　なくて　　そうして

カヤ　　ハッピャグ　ハッピャグノ　カヤー　ハゴンダーカ゜
茅[を]　800　　800[束]の　　茅を　　運んだが、

アレ　デーヤマ〔31〕　ッテ　　キューン　　ドゴデガー↓
あれ　デーヤマ　　って[いう]　[坂が]急な　ところで

ノッタリノッタリド　ホンニ　ンマ　　アルッテクット
のったりのったりと　本当に　馬[が]　歩いてくると

ヤッパ　　スゞゼーン　オナコ゜ノ　ツケダカ゜ンダーガ
やっぱり　自然[と]　女の　　つけたものだから

プスーット　イッツォグ　ヌゲッ　コド　　アンノ。
プスーッと　1束　　抜ける　こと[が]　あるの。

ソーシット　ホラ　アバゲル　ンマナラ　タイ　タイヘンダーベーカ゜、
そうすると　ほら　暴れる　　馬なら　　××　たいへんだろうが、

シタサ　ヌ　ヌゲット　トマッテ　キーットシテイーシケ〔32〕
下に　　×　抜けると　止まって　キッとしていた。

ソンジェ　ミンナ　　トイデ　マダ　ツケナオシテ、
それで　　[束を]みんな　解いて　また　つけ直して。

トデモ　カンケ゜ーランニー　ホニ
とても　考えられない　　本当に。

ボーカ゜ヤツケ　ヤッター　ソレカ゜　ジ゛ダイノ　ナカ゜レデ
茅つけ[を]　　やった　　それが　時代の　　流れで

コンド　タンシェーシテ　ヤネー　　フグガナ　テンジョーノ
今度　　念入りに　　屋根[を]　葺くの　　天井の

タガテンジョー〔33〕サ　アケ゜ドイダーノ　　コンダー
高天井に　　[茅を]上げておいたの[を]　今度は

トダンヤネン　スルニ　　ジャマダ　ズワッチェ　ミンナ
トタン屋根に　する[の]に　邪魔だ　　と言われて　[茅を]みんな

オドシテ　ハダゲサ　イ　イジメーノ　ハダゲ　イッペーホド
落として　畑に　　×　１枚の　　畑　　いっぱいに

カヤー　ツンデ、　アー　ムスコ　　ナンダッテ　コノヨーニ
茅を　　積んで、　ああ　息子[が]　なんだって　このように

ナンダー　ドッテ　　テンジョーノ　ウエサ　カヤ
なんだ　　と言って　天井の　　上に　　茅[を]

モッチャケ°テ　ホネ　　オッテ　（B　{笑}）　ツンダ
持ち上げて　　骨[を]　折って　（B　{笑}）　積んだ

（C　{笑}）
（C　{笑}）

81B：イマノ　ヒトワ　ソー　オモーワナー↓
今の　　人は　　そう　思うよな。

32↑33

82A：トンデモネー　オレ　　クローシテ　ンマデ　ツケダーカ°ナ
とんでもない。　私[が]　苦労して　　馬で　　つけたの[を]

ソーダゴド　ユーナヤー　カヤ　　ミデモ　ナ゛ダ　コボレル
そんなこと　言うなよ。　茅[を]　見ても　涙[が]　こぼれる。

{笑}　（B　{笑}）　ミンナ　ハダゲン　ツズン　ナッチマッター。
{笑}　（B　{笑}）　みんな　畑の　　土に　　なってしまった。

83B：オラ　　センソーチューワ　ヤッパリ
私[は]　戦争中は　　やっぱり

チ　チーット　ヒャグショー　ヤッテミダーカ°ナー↓　{間}
×　ちょっと　百姓[を]　　やってみたがな。　　{間}

クローシタモンダナー。　ナンニモカンニモ
苦労したもんだな。　　なにもかも

ワーカ°　ヤンネーナンネンダーガーナー
自分が　やらなくてはならないんだからな。

ホンナ　ヤッタ　ゴドモ　ネーノニ。イネゴギ〔34〕　ナンテ　ユード
そんな　やった　ことも　ないのに。稲こき　　なんて　いうと

ホンニ、　マー　ヒトンジワ　デギネーガラ　アスブミ〔35〕ダベ？
本当に　まあ　一人では　できないから、足踏みでしょう？

84A：アシブミダッタ。
足踏みだった。

85B：ヒトンジワ　デギネーガラ　マー　アネト　ユイ〔36〕シテ
一人では　できないから　まあ　姉と　協力して

ヤッテミル　ソースット　コンダー、ワガノバガ
やってみる。そうすると　今度は　自分のばかり

ヤッテルヨーネー　コンドワ　ソノ　ツキ゜ン　ナット
やっていられない。今度は　その　次に　なると

アネカ゜ナモ　{笑}　ヤンネーナンネーガラナー↓
姉のも　{笑}　やらなくてはならないからな。

ホシテ　ソーシテル　ウジニ　コンドワ　テンキ
そして　そうしている　うちに　今度は　天気[が]

ワルグ　ナット　デキネーシ。トデモトデモ　ナントモ
悪く　なると　できないし。とてもとても　なんとも

ショーナガッタモンダナー↓　ネリー〔37〕　ユーノ
しょうがなかったものだな。　ネリ　[と]いうの[が]

デギネーガラ　コンダー、タサ　ホシタモンダッタ
できないから、今度は　田に　[稲を]干したものだった

オラ。　(C　ンー)　タサ　ナラ゛ベデ　ホシタ。
私[は]。(C　うん)　田に　並べて　干した。

ホシット　ヤッパ　ヨーグ　ヒネーンデ　ホンダー、
そうすると　やっぱり　よく　乾かないので　そしたら

アー　コメン　シタラ　コンドワ　コメカ゜ー　ホンダ　ヤッパ
ああ　米に　したら、今度は　米が　そしたら　やっぱり

シ　シッケデッカー　ネク゜レッチマッテナー↓　ヒナクテ。
×　湿気ているから　練れてしまってな。　乾かなくて。

イヤ　トテモ　クローシタモンダーナー↓　ソーシテ　コンダー、
いや　とても　苦労したものだな。　そうして　今度は

クローシテ　ヤット　コメー　マー　デギダー　ドゴ
苦労して　やっと　米[が]　まあ　できた　ところ、

コンダ、カッチェ　クッテッカラナー↓
今度は　[籾を]借りて　食べているからな。

コンダ　カッチャノ　ナーサネーナンネー。　(C　ンー)
今度は　借りたの[を]　返さなくてはならない。(C　うん)

カ　セーマイシテル　ヒトニ　ユワッチャッケ
だから　精米している　人に　言われた。

デ　　オレ　トッキドギ　ユーノ。　ソノヨーニ　カッチェ
それで　私　　時々　　言うの。「そのように　借りて

クッテダラ　　ニシャ　ナンジョースンダ　コレガラ　ナニ
食べていたら　おまえ　どうするんだ。　これから　なに[を]

クーンダ　　ッテ　ソー　イワッチャッケ。{笑}
食べるんだ」　って　そう　言われた。　{笑}

86A：ソーンダッターゾー。
[昔はみんな]そうだったぞ。

87B：トレモシナガッターシナー↓　(A　ンー)
[米が]とれもしなかったしな。(A　うん)

アーユーゴドモ　アッタンダー　ホニ。
ああいうことも　あったんだ　本当に。

88A：ホラ　イマ　アノ　モーミ　ロクドンビョー〔38〕　イッピョーモ
ほら　今　あの　籾[を]　6斗俵　1俵も

カッチェ　クッタランバ　クイズカ°レベーガー　ナンテ
借りて　食べたら　食いつなげるだろうか　なんて

オガダノ　　オドッツァ　　カダッタッ　ドゴ
おかあさんだの　おとうさん[が]　話している　ところ[を]

ミット　シェズネー〔39〕ナー　ド　オモッテイーシタ〔40〕
見ると　つらいな　と　思っていた。

ホッタ　カラムシン　ドギワ　ホラ　カラムシカ°
そしたら　からむし[引き]の　時は　ほら　からむし[引き]が

イチバン　シコ°トダーガラ、　スルスビギ〔41〕　テデ
いちばん[の]　仕事だから　籾すり[を]　手で

33↑34

ヤッターカ°、　ソノ　ナズビギ〔42〕ン　ドギワ
やったが、　その　夏引きの　時は

スルスビギサ　マザッ　コド　ナクテ　タイジェンダ
籾すりに　混ざる　こと[が]　なくて　たいへんいい

ド　モッテシタ　{笑}
と　思っていた。{笑}

89B：カラムシカ°　アッカラ。
からむし[引き]が　あるから。

90A：カラムシ　チュー　（B　ンー）　シコ°トカ°　アッカラ
からむし[引き]　という　（B　うん）　仕事が　あるから、

スルスビキ　ヤレ　ッテ　イワンニャクテ　タイヘンジェー　ド
籾すり　やれ　って　言われなくて　たいへんいい　と

オモッテイーシタ。
思っていた。

91B：スルスビギモ　ヤナ　ゴドダッタナー↓　ヤダナー　ホンニ。
籾すりも　嫌な　ことだったな。　嫌だな　本当に。

オレラ　ホニ　　コメラダッタガラ　ヨグ　ヨ　ヨグ
私たち　本当に　子どもだったから　欲　　×　欲[が]

ナガッタンダベ。　コメーナー　モ　ン　モミノ　　モダネー
なかったんだろう。米はな　　×　×　籾の[＝を]　持たない

ヒトワ　エーンダナー　スルスビギ　シッ　コド　　ナクテ
人は　いいんだな　籾すり[を]　する　こと[が]　なくて

ド　モッタ　ゴド　　{笑}　(A・C　{笑})　アル　オラー。
と　思った　こと[が]　{笑}　(A・C　{笑})　ある　私は。

ヨグ　ヨグヨグ　ナガッタンダナー↓
欲[が]　よくよく　なかったんだな。

92A：イマナンド　テレビ　　ミバッカ　シテラレンノー
今など　テレビ[を]　見てばかり　していられるの

ホニ　モミヨーシ〔43〕ダノ、
本当に。籾ようしだの、

ホイカー、コンナー　テンキ　ワルクテガー
それから　こんな　天気[が]　悪くて

イネ　オッコマンニェー　ドッキャ、ホラ
稲[を]　取り入れられない　時は　ほら

チリトンバシ〔44〕ダー　ナンテ　トーミ〔45〕ー　ガタゴト
ちり飛ばしだ　なんて　唐箕を　ガタゴト

(B {笑}) マーシテ チリトバシー シッタンダー ホニ
(B {笑}) 回して ちり飛ばし していたんだ 本当に。

ナンダッテ ナサケネー {笑} カゼー ダシテナー テデ。
なんだって 情けない。 {笑} 風[を] 出してな 手で。

93B：ホンダ ミンナ ヤ ミンナ ヤッタンダーナー↓
そうだ。 みんな × みんな やったんだな。

94A：ンー カゼー デテクッ トギ メーサ ムッショ モジダシテ、
うん 風[が] 出てくる 時 前に 筵を 持ち出して

ハ コーダゴドー シテ チリトバシダー ナン。
× こんなことを して ちり飛ばしだ なんて。

95B：フターリカ°カリデナー↓
二人がかりでな。

96A：ンー ソースット モミノ ボーワ シタサ オジル
うん。 そうすると 籾の ほうは 下に 落ちる。

カルイノー トンデグ シテ アー ヤッ ヤッテダンダー
軽いの[が] 飛んでいく そして ああ ×× やっていたんだ

ホニ。 {間}
本当に。 {間}

イマー イネガリモ マザッ コド ネー ヨノナカ。
今は 稲刈りも 混ざる こと[が] ない 世の中。

97B：ンー　オ　コン　ア　ナニ　モミ　アレガ？　イネゴキカ？
　　うん　×　××　×　なに　籾　あれか？　稲こきか？

　　イネゴギダー　ナンチュードー、　マー　ミンナ　アレ
　　稲こきだ　なんていうと、　まあ　みんな　あれ

　　イ　イ　ヨ　ヨーワリニ、　マー　トマルギ〔46〕　コゲンバ
　　×　×　×　夜仕事に、　まあ　10束　[稲を]扱けば

　　マー　テーケ°ー　タクサンダ　ナンテ　イワレイワレ、
　　まあ　たいがい　たくさんだ　なんて　言われて、

　　（C　ンー）　タンバー　トグト　テマー　トレッカラ、
　　（C　うん）　束[を]　解くと　手間[が]　とれるから、

　　タバノ　ママ　コグト　チット　ハエーガラ
　　束の　まま　扱くと　ちょっと　速いから

　　タバノ　ママ　コギコギシター。
　　束の　まま　稲こき[を]した。

98A：アレ　ビリンビリーンドガー↓
　　あれ　ビリンビリンとか？

99B：ビリンビリントヤー↓
　　ビリンビリンとよ。

100A：オレワ　アレワ　アンマリ　ヤンネーカ°
　　私は　あれは　あんまり　やらないが、

ミンナ　　ヤンノー　ミデデ　　ソノ　ヤショグン　ドギ
みんな[が]　やるのを　見ていて　その　夜食の　　時

オゴス　{笑}　ワ　オ゛ベー　アルヨ。
起こす　{笑}　は　覚え[が]　あるよ。

34↑35

101C：マズ　　アガシテ　イネコギ　　シタノワ
松明[を]　ともして　稲こき[を]　したのは

オ゛ボエ　ネーガナー↓
覚え[が]　ないかな。

102B：マツー　　アガシテ
松明[を]　ともして

103A：オラ　　ゲンベー〔47〕ツクリー、　アーノ　シテンノー
私[は]　藁靴作り[を]　　あの　　しているの

マーズ　　アケ゜ロー　ホラ　ナンツワレット
松明[を]　上げろ　　ほら　なんて言われると

ショーカ゜ツ　ゲンベーツクリ　ジーサマ
正月[に]　　藁靴作り[を]　　おじいさん[が]

ヤッテヤンノー、　　マズアケ゜ワ　シタナー↓
やっておられるのを　松上げは　　したな。

104C：ンー。
うん。

105B：マズーアガリ゛デ　ヤッパ
松明かりで　やっぱり

オーウミワ　シタ　オボエ　アンナー↓
苧績みは　した　覚え[が]　あるな。

106A：オウミワ　シター。　ツボハダギー〔48〕　オエダー　バンケ゜ーワ
苧績みは　した。　つぼはたき[を]　終えた　晩は

カデ〔49〕　インニェーデ　マンマー　タイデ　ガー
カテ[を]　入れないで　ごはん[を]　炊いて　それから

クタ゛ダー　ソ　ガ　ワラ　アダラシーノ　スイデ、
藁くず　×　×　藁[は]　新しいの[を]　敷いて、

アダラシ　ムッショナー↓
新しい　筵[を]な。

ケワ　ヌケネーカ゜　ソレ　スイテ
毛は　抜けないが　それ[を]　敷いて

ムックムック　ムックムック　テーラデモネー　ドゴニ。
ムックムック　ムックムック[と]　平らでもない　ところに。

ソーダンシテ　アダラシ　ムッショ　スカレル　ジェーカ゜
そんな[ふう]にして　新しい　筵[を]　敷ける　家が

ジェー　クレーデ。
いい　くらいで。

107B：ツボハダギ　　シター　バンケ゜ワ　キモチイー
つぼはたき[を]　した　　晩は　　気持ちいい

モンダッタワヤナー↓　（C　ンー）　デ　　モ
ものだったよな。　　（C　うん）　それで　もう

ナンニモカンニモ　キレーン　ナッテ。
なにもかも　　きれいに　なって。

108A：イーナー　チュータッタナー。{笑}
いいなあ　と言ったな。　　{笑}

109B：{笑}　イーナ　チュータ。
{笑}　いいな　と言った。

110C：オランダレ　カケ゜ンノ　テーデ↓　ニワサ　マズ　　アガシテ
私たち　　／／／の　人たちで　庭に　松明[を]　ともして

イネゴギ　　ブリンブリン　　ヤッターノ、　（A　ンー）
稲こき[を]　ブリンブリン[と]　やったの[は]　（A　うん）

オベー　　アンナー↓
覚え[が]　あるな。

111B：ハテナ　マズ　　アガシデ　イネゴギーワ　オベー
はてな　松明[を]　ともして　稲こきは　　覚え[が]

ネーナー↓　（C　ンー）　アレ　ランプー、
ないな。　　（C　うん）　あれ　ランプ[は]

（A　ランプーワナ）（C　ンー）　マー　ランプワ
（A　ランプはな）　（C　うん）　まあ　ランプは

アッタンダーベ　　ソノコロー。
あったんでしょう　その頃。

112C：アッタ。｛間｝　アノ　カマ、　タイカ゜イ　ドマサ
あった。｛間｝　あの　釜　　たいがい　土間に

カマカ゜　アッテ　カマバ　ッテ、（B　ンー）　ソノ　カマノ、
釜が　　あって　釜場　　って　（B　うん）　その　釜の

コー　ドンジン　ドゴサ　　トーケ゜ー〔50〕　タデデ
こう　土間の　　ところに　灯蓋[を]　　立てて

113B：カマノ　メー　（A　ン）　　アダリサガ？
釜の　　前　　（A　うん）　あたりにか？

114C：ンー。（B　ンー）　ガ
うん。（B　うん）　それから

ヤロー　マズ　　アケ゜ロー　ホラー　ナンツワッチェ、
野郎　　松明[を]　上げろ。　ほら　　なんて言われて

ミンナ　イネゴギオ　シテッ　　トギ
みんな　稲こきを　　している　時

モシタ　　オンベー　　アンナー。
燃やした　覚え[が]　あるな。

115B：モミヨーシー　ヤット　トデモ　エーン　ナガカ゜　マッショニー
　　籾ようし[を]　やると　とても　家の　　中が　　真っ白に

　　ン　イナボコリデナー↓　（C　ンー）（A　ア　ンダ）
　　×　稲ぼこりでな。　　（C　うん）（A　あ　そうだ）

　　ヒドガッタンダー　ホニ。　イ
　　ひどかったんだ　本当に。×

116C：マ゛ダ　アノコロノ　イネワ　ミンナ
　　まだ　あの頃の　　稲は　　みんな

　　ノケ゜〔51〕カ゜　ナカ゜クテ。
　　野毛が　　長くて。

117B：ソーダッタナー↓　スットンスットン
　　そうだったな。　すっとんすっとん[と]

　　タダガネナンネンダーガラ。
　　叩かなくてはならないんだから。

35↑36

118A：ソイガ　テ゛デ　トーシ〔52〕デナー　（B　ンー　ホーダ）
　　それから　手で　籾ふるいでな　　（B　うん　そうだ）

　　ソレ　フルッテー
　　それ[を]　ふるって。

119B：オラ　ヨグ　トーシ　　ヤラセラレタシタ
　　私[は]　よく　籾ふるい[を]　やらせられたじゃない

コーシテガー。 イマノ ヨーン コーシャン ナガッタンダーナ
こうしてから。 今の ように 巧者で なかったんだな。

イマーデワ トースッタッテ コー ツルステオイテ
今では 籾ふるいするのだって こう 吊しておいて

コー コロバスト ラグニ デギンノーニナー↓
こう 転がすと 楽に できるのにな。

(A ンー ツズフルイナンノ ヤルニヨー)
(A うん 土ふるいなど[を] やる[の]にね)

ソーダ カンケ°ー ナガッターノガナ アレ。
そんな 考え[は] なかったのかな あれ。

バショカ° ナガッタノガナー。
場所が なかったのかな。

イマ ツジフルイダノ ヨグ ヤルバイ オレ。
今 土ふるいだの よく やるわ 私。

ナイ オゴス トキノ。
苗[を] 起こす 時の。

120A：カー アノ フム キケー ハ゛ズメデ アノー カッター ドギ
それから あの 踏む 機械 初めて あの 買った 時

トーフヤ〔53〕ト フルヤ゛デ アノ ヨイジェー〔54〕デ カッテ、
豆腐屋と 古家で あの 共同で 買って、

アノ　サンカクナーカ゜ンデネー　シカクナーヨーナ　ガサバッテ
あの　三角なのでない　　四角なような　　かさばって

ミガドシキ　ナン　　チューンダッケカ。
ミカド式　　なんて　いうんだったか。

ソレカ゜　ヨイジェーダー　ナンテ　ジナンド　カイダリ
それが　共同だ　　なんて　字など　　書いたり

フター　　ハネネーヨーニ　コッショーベー　ナンテ
ふた[が]　はねないように　こしらえよう　　なんて

トフヤテート　アツバッテ、　コシャッテ
豆腐屋たちと　集まって　　こしらえて

ヨイジェーシテ　コイダワ　　ジェーカ゜
共同で　　[稲を]扱いたは　いいが

アノ　オド　ガーヤンガーヤン　（B　{笑}）
あの　音　　ガーヤンガーヤン　（B　{笑}）

マ゛ズ　スブイヨーデ、（C　ン）
まず　渋いようで　　（C　うん）

アンマ　　ジョートーナカ゜ンデナクテ
あんまり　上等なのでなくて

タイシタ　ナカ゜クモ　ヨイジェーンナガッターカ゜。
たいして　長くも　　共同でなかったが。

121B：オンベー　アルヨーダーナ
覚え[が]　あるようだな

アノ　フルヤート　トーフヤガ？　ソレ。（A　ンー　ヨ）
あの　古家と　　豆腐屋か？　それ。（A　うん　×）

マー　ヒトヨリ　ハヤグ　カイヤッタッターワナー↓　（C　ンー）
まあ　人より　　早く　　買われたよな。　　（C　うん）

マー　イッパンニワ　ネー　コロ。
まあ　一般には　　ない　頃。

122A：ナンダッテ　ヨイジェーデ　カッタッケカ゜、
なんだって　共同で　　買ったが、

ホイターナー　オトー　＊＊
そしたらな　音　＊＊

123B：エーンダナー　ヒトノ　エーワー　アーユーノー　ン
いいんだな　人の　家は　ああいうの　×

タガインダーベカ゜　{笑}　カイヤッテ
高いんだろうが　{笑}　買われて。

オラーワ　プリーンブリーント　コガネーナンネンダー
私は　ブリーンブリーンと　扱かなければならないんだ。

ホンニ　ヒトノ　エーワ　イーンダナー　ド　オモッタッタモン。
本当に　人の　家は　いいんだな　と　思ったもの。

コノマシカッタナー↓
うらやましかったな。

124A：アノ　キケ　アンマ　ナカ゜ツズキ゜ワ　シナガッターカ゜
あの　機械　あんまり　長続きは　しなかったが

ヒ゛デー　オドー　スル　キケーダッターノワ　オベーデル。
ひどい　音[が]　する　機械だったのは　覚えている。

125B：ア　ダンダンニ　シンシギ　デギデ、
あ　だんだんに　新式[が]　できて、

ヤッパリ、イロイロン　ナッタッターワナー↓
やっぱり　いろいろに　なったよな。

126A：ホンジェモ　アノー　アゲー　サンカグナーヨーナカ゜ンナンドワ
それでも　あの　赤い　三角なようなものなどは

イマ゛デモナー　タネナ゛ド　アレ　シッ　トキャー　ド　モッテ、
今でもな　種など　あれ　する　時には　と　思って、

モシヤ　エ　チットクレーン　ドッキャ　イマー
もしや　×　ちょっとくらいの　時は　今

ズネー　キケーモ　シツケランニェーガー　ド　モーガ
大きい　機械も　仕付けられないか　と　思うから

イマナンドモ　オラ　アレ　ハシコ゜ノ　シタノ　ホーサナ゛ド
今なども　私[は]　あれ　はしごの　下の　ほうになど

オイデワミル　アノ　キケーワ。（B　ンー）　アシブミ。｛間｝
置いてはみる　あの　機械は。　（B　うん）　足踏み。　｛間｝

36↑37

127C：ガーヤンデワ　　ジー　キケーダッタ。
ガーヤンと[音がする]なら　いい　機械だった。

オラ　カッター　キケーワ　ビンボービンボー　ッテ
私[が]　買った　機械は　ビンボービンボー　って

ナル　ヤズ　（B　ガーヤン　｛笑｝）｛間｝
鳴る　やつ。（B　ガーヤン　｛笑｝）｛間｝

128A：カッテワミタカ゜、アダカ゜ナ　キケーダナンテ　ホニ。
買ってはみたが　あんなの　機械だなんて　本当に。

フタリンネード　ラグンナガッタ。
二人でないと　楽でなかった。

129B：ンー　オ　ナガナガ　フムノー　タイヘンダッターガラナー↓
うん　×　なかなか　踏むの[が]　たいへんだったからな。

130A：ンー　フムノカ゜　フタリンネート。｛間｝
うん。踏むのが　二人でないと。　｛間｝

131C：アドワ　ハイキューノ　コロン　ナッテガラワ
あとは　配給の　頃に　なってからは

ハー　メチャクチャン　ナッチマッテ、
もう　めちゃくちゃに　なってしまって、

キケーモ　イロイロ　ハイッターカ°、
機械も　　いろいろ　入ったが、

マー　クー　　モンナンノワ　アレバ　モッテカ°レルシナー↓
まあ　食べる　ものなどは　　あれば　持っていかれるしな。

（A　シター）　　（B　ン）
（A　した[＝供出した]）（B　うん）

シトッキリ　ヒドガッターベ　アノコロ。
ひとしきり　ひどかったろう　あの頃。

132B：キョーシズダー　ナンテナー↓
供出だ　　なんてな。

133A：オラモ　アノ、　ダ　ウ　アレ　ツリカ°ヤノ　カネノ　ワッカマデ
私も　あの　×　×　あれ　吊り蚊帳の　金の　輪まで

ヒトズモ　クッツイテネー、モンナー。
一つも　くっついていないもんな。

37↑

福島県大沼郡昭和村1982注記

〔1〕カラムシヒギ

カラムシヒキ。からむし引き。からむし織りの工程の一つ。からむし（植物）の茎をはいだ皮から，織物に使う素皮を取り，繊維を引いていく作業。

〔2〕キワダ

植物名。キハダ。オウバク。ミカン科の落葉高木。樹皮は染料用・薬用になる。

〔3〕ニゲンザオ

ニケンザオ。２間竿。２間（約3.6m）の長さの角竿。からむし引きで取れた繊維をこの竿に掛けておく。

〔4〕ガゲ

カケ。からむし引きで取れた繊維の束を数える単位。目分量だが，だいたい繊維20数本分。

〔5〕メリンス

毛織物の一つ。薄手でやわらかい。

〔6〕ホシクテガー

ホシクテカラ。「欲シクテ」に「カラ」が下接した形。「欲しくて，だから」の意。このような「動詞・形容詞のテ形＋カラ（ガー）」の形はこの談話中に多く見られる。

〔7〕ワダグシヒギ

ワタクシヒキ。わたくし引き。からむしのうち，丈の短いもののことを「ワタクシソ（ソはからむしの意）」といい，これを繊維にすることを「ワタクシヒキ」という。「ワタクシソ」は他の「ソ」にくらべて引きにくく，生産性が低かった。なお，「ワタクシ」には「女性のこづかい，へそくり」の意がある。

〔8〕オ

苧。からむしの繊維から取った糸。からむしの繊維から糸を紡いでいくことを「苧を績む」といい，その作業を「苧績み」という。

〔9〕ヤンダグ

ヤンダク。「嫌に」の意。「ヤンダ」（嫌だ）が形容詞的に使われているもの。「ク（グ）」が形容詞の活用語尾にあたる。

〔10〕タマカ゜ー

タマカ゜ワ。玉川。昭和村内を流れる川の名前，および地名。

〔11〕フルヤ

古家。「古い家」の意だが，ここでは屋号として使われていると思われる。

〔12〕ヒー

イー。家。

〔13〕ヌゲネー

ヌケナイ。からむし引きをする前に，からむしを脱色する工程がある。その工程でからむしの青（緑色）が十分に抜けないことを「ヌゲネー」と言っているもの。

〔14〕アヤケ゜ーシ

アヤカ゜エシ。綾返し。機織りの一工程。綾（縦糸と横糸を織り込んだところ）を，作業がしやすいように機織りする人の手元に移動させること。

〔15〕ウワソ

上麻。機織りをする時，上糸となる「ソ」（からむしの糸）。

〔16〕シタソ

下麻。機織りをする時，下糸となる「ソ」（からむしの糸）。

〔17〕キラ

綺羅。布地の光沢・つやのことをいう。

〔18〕アオ

脱色する前のからむしの緑色のこと。注〔13〕参照。

〔19〕アカダ

赤田。昭和村内の地名。

〔20〕オヤソビキ

親苧引き。からむしのうち，枝のある太いもののことを「オヤソ（ソはからむしの意）」といい，これを繊維にすることを「オヤソビキ」という。「ソ」には上質の「カケ゜ソ」や生産性の低い「ワタクシソ」もあったが，「オヤ

ソ」がもっとも一般的なものである。

〔21〕ノジリ

野尻。昭和村内の地名。

〔22〕マカ゜リマカ゜リ

体をかがめてお辞儀，あいさつをすることを「マカ゜ル」（曲がる）という。その連用形を重ね，何度も頭を下げることを表現したもの。

〔23〕イドゴ

イトコ。親類。

〔24〕ナガノサー

ナカノサワ。中の沢。昭和村内の地名。

〔25〕ムーゾセー

ムゾーサイ。かわいそうだ。気の毒だ。ふびんだ。

〔26〕ハナドリ

鼻取り。馬の鼻につけた竿を操り，馬を操ること。

〔27〕バグロー

バクロー。馬喰。馬や牛の仲買や鑑定をする人。

〔28〕オーシンデン

大新田。昭和村内の地名。ここでは大新田にある田のことを指して言っているようだ。

〔29〕ゴダンハッセ

ゴタンハッセ。５反８畝。「タン」（反），「セ」（畝）は尺貫法における土地の面積の単位。１反は10畝。１畝は約100㎡。

〔30〕ボーカ゜ヤ

茅。ススキが枯れたもの。昔は屋根を葺くのに使っていた。

〔31〕デーヤマ

不明。地名，あるいは，山の名前か。

〔32〕イーシケ

「イル」（いる）の連用形に「シケ」（した）が接続したもの。「ケ」は過去を示す表現。

〔33〕タガテンジョー

タカテンジョー。高天井。昔の家では茅を高天井に貯めておき，茅の葺き替えに備えていた。

〔34〕イネゴギ

イネコキ。稲こき。稲の穂から籾の粒をこき取る作業。

〔35〕アスブミ

アシブミ。足踏みの力によって稲こきをする機械のこと。

〔36〕ユイ

農作業などを互いに手伝いあってすること。

〔37〕ネリー

ネリ。稲を干すときに使う木組みのこと。

〔38〕ロクドンビョー

6斗俵。ふつうの俵の半分の大きさがある俵。

〔39〕シェズネー

セツナイ。つらい。苦しい。

〔40〕オモッテイーシタ

「思っていた」の意。「イーシタ」は「イル」（いる）の連用形に「シタ」（した）が接続したもの。「動詞の連用形＋シタ」の形はこの談話中に多く見られる。

〔41〕スルスビギ，スルスンビギ

スルスビキ。籾すり。臼で籾をひいて籾殻を除くこと。「スルス」は「すり臼」のこと。

〔42〕ナズビギ

ナツビキ。夏引き。夏の間に行うスルスビキのことか。

〔43〕モミヨーシ

籾ようし。野毛（注〔51〕参照）を籾から取り除くこと。筵に籾を広げ，丸太棒で叩く作業。唐箕（注〔45〕参照）にかける前の準備。

〔44〕チリトンバシ

ちり飛ばし。風の力で籾と籾以外のごみ・ちりを吹き分ける作業。

〔45〕トーミ

唐箕。ちり飛ばしをするための器械。唐箕の上から籾を入れて唐箕の中に風を送り込むと，細かなごみ・ちりが吹き飛ばされて籾だけが唐箕の下に落ちていくという仕組み。

〔46〕マルギ

マルキ。束を数える単位。束にすることを「マルク」という。

〔47〕ゲンベー

わら靴の一種。

〔48〕ツボハダギー

ツボハタキ。稲刈り後の稲こきなどの作業は「ツボ」（庭）で行われるが，その作業が完了し，「ツボ」を片づけることを「ツボハタキ」という。その年の農作業のいっさいを終えて，農機具をきれいに片づけること。立派な料理や酒で収穫を祝う。

〔49〕カデ

カテ。大根など，米を節約するために，米に混ぜて食べるもの。

〔50〕トーケ゜ー

トーカ゜イ。灯蓋。松明を焚くための台。

〔51〕ノケ゜

野毛。芒。籾の先端からのびる毛状の突起のこと。

〔52〕トーシ

籾をふるいに通して選別すること，またその道具。

〔53〕トーフヤ

豆腐屋。ここでは屋号として使われているように思われる。

〔54〕ヨイジェー

寄り合い。共同で物事にあたること。ものを共有すること。

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて，文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは，「全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，これを記録・保存する」目的で行われた，全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は，文化庁の要請により，この調査の計画段階から，指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は，全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は，実施時期ごとに，第１次（昭和52(1977)～54(1979)年度）から第７次(昭和58(1983)～60(1985)年度）に分けられ，それぞれ３年計画で，収録を行った。

各都道府県教育委員会は，言語学，国語学，方言学の専門家から調査員として，主任調査員２名と調査員若干名を選出し，さらに，専門家や学識経験者を交えて，調査地点，具体的な調査方法，全国共通の場面設定会話項目などについて検討し，その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

(1) 調査目的

全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し，後世に残す。

(2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって，１地点につき１年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち，自然な方言会話の部分を３時間程度選んで，文字化を行い，共通語訳をつけて，記録として残す。

(3) 調査内容

①老年層の男女各１人による対話，または，男女を含む３人の会話（２時間）

②老年層の男性１人の対話，または，老年層の男性３人の会話（１時間）

③老年層の女性２人の対話，または，老年層の女性３人の会話（１時間）
④老年層と若年層との対話，または，両者を含む３人の会話（１時間）
⑤老年層の男性２人の，目上の者と目下の者の対話（２時間）
⑥場面設定の対話（１時間，各場面につき１～３分程度）
場面に応じて，老年層の男性２人の対話，または，老年層の男女各１人による対話
⑦当該地域に伝わる民話（１時間）
民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は，
⑧老年層の女性２人の，目上の者と目下の者の会話（１時間）
または，
⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の，２人の対話（１時間）
を収録する。

①～⑤，⑧，⑨については，話題は自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は，自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ，「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各都道府県教育委員会が協議して，全国共通の数場面を設定する。

(4) 調査地点

調査地点は，各都道府県について５地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて，各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上，複数の区域に分かれる場合は，方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に，離島など，特色の認められる方言は可能な限り収録する。

(5) 話者

その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，よそ

の土地に住んだことがあっても，その期間が短い人とする。在外期間は３年以内が望ましい。

年齢は，原則として，老年層の場合は，収録時において60歳以上とし，若年層の場合は，20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

(6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため，使用する録音機の性能，マイクの種類・配置，テープの長さ，収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には，採録地点，採録年月日，話題，時間，話者，採録機種などを記入する。

録音テープは，収録したオリジナルのテープ（正）を１本，正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を２本作成する。

(7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は，原則として，カタカナ書きとし，方言の音声的特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について，場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記，表記法についての説明などを行う。各地点ごとに，収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など，収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には，話者の氏名・性・生年・経歴，録音内容などを記入する。

文字化原稿は，手書きのオリジナル原稿（正）を１部，正の複製（副）を２部作成する。

調査は，各都道府県教育委員会と連携のうえ，全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果，地域的密度，収録量，方言的内容のいずれの面からも，他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後，これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は，各教育委員会から，「各地方言収集緊急調査」報告として，文化庁に提出され，永久保存されることとなった。

なお，調査実施からかなりの時間が経過しているため，当時の関係文書の入手は困難であったが，文化庁，各都道府県教育委員会の協力により，部分的には手に入れることができた。得られたものを，資料として，この章の末尾に掲げたので，ご参照いただきたい。

「各地方言収集緊急調査」地点一覧

北海道
01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
01b 十勝支庁中川郡豊頃町
01c 渡島支庁亀田郡椴法華村(→函館市)
01d 渡島支庁松前郡松前町
青森県
02a 下北郡川内町（→むつ市）
02b 北津軽郡市浦村（→五所川原市）
02c 上北郡野辺地町
02d 三戸郡五戸町
02e 弘前市
岩手県
03a 久慈市
03b 宮古市
03c 遠野市
03d 大船渡市
03e 一関市
宮城県
04a 本吉郡本吉町・歌津町
04b 栗原郡築館町（→栗原市）
04c 仙台市
04d 亘理郡亘理町
04e 刈田郡七ケ宿町
秋田県
05a 鹿角市
05b 能代市
05c 仙北郡西木村（→仙北市）
05d 河辺郡雄和町（→秋田市）
05e 湯沢市
山形県
06a 新庄市
06b 寒河江市
06c 東田川郡櫛引町
06d 東田川郡朝日村
06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町
福島県
07a いわき市
07b 大沼郡会津高田町
07c 大沼郡昭和村
茨城県
08a 高萩市
08b 久慈郡里美村（→常陸太田市）
08c 水戸市
08d 鹿島郡大野村（→鹿嶋市）
08e 古河市
栃木県
09a 大田原市
09b 日光市
09c 宇都宮市
09d 芳賀郡益子町
09e 安蘇郡田沼町（→佐野市）
群馬県
10a 利根郡片品村
10b 吾妻郡六合村
10c 前橋市
10d 邑楽郡大泉町
10e 甘楽郡下仁田町

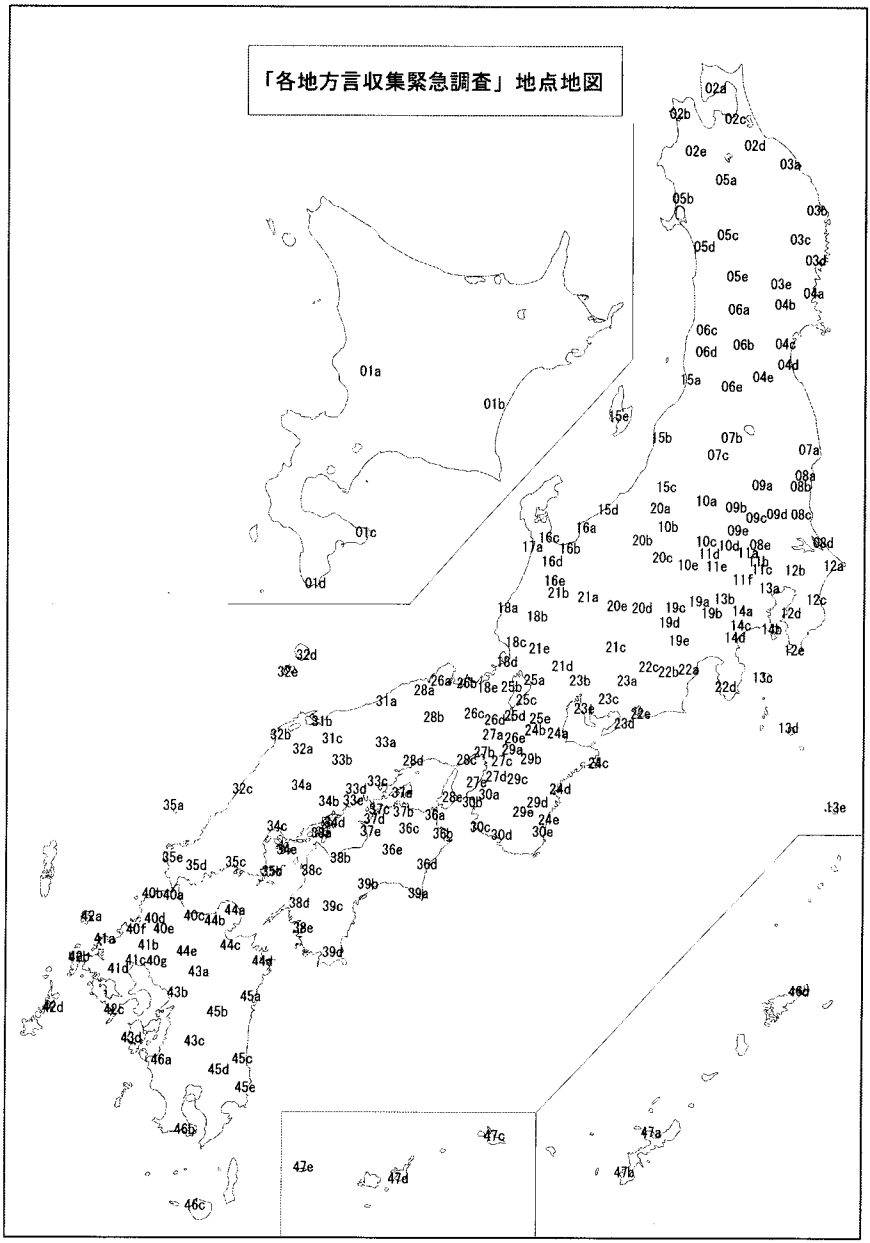
埼玉県
11a 加須市
11b 南埼玉郡宮代町
11c 春日部市
11d 児玉郡上里町
11e 秩父郡長瀞町
11f 入間郡大井町
千葉県
12a 海上郡飯岡町（→旭市）
12b 印旛郡印西町（→印西市）
12c 長生郡長生村
12d 木更津市
12e 館山市
東京都
13a 台東区
13b 西多摩郡檜原村
13c 大島町
13d 三宅村
13e 八丈町
神奈川県
14a 愛甲郡愛川町
14b 横須賀市
14c 秦野市
14d 小田原市
新潟県
15a 村上市
15b 西蒲原郡分水町
15c 十日町市
15d 糸魚川市
15e 佐渡郡佐和田町（→佐渡市）
富山県
16a 黒部市
16b 富山市
16c 氷見市
16d 砺波市
16e 東礪波郡上平村（→南砺市）
石川県
17a 羽咋郡押水町（→宝達志水町）
福井県
18a 坂井郡芦原町（→あわら市）
18b 勝山市
18c 南条郡南条町（→南越前町）
18d 敦賀市
18e 遠敷郡名田庄村
山梨県
19a 塩山市
19b 大月市
19c 韮崎市
19d 南巨摩郡早川町［奈良田］
19e 南巨摩郡身延町
長野県
20a 下水内郡栄村
20b 長野市
20c 小諸市
20d 伊那市
20e 木曽郡開田村

岐阜県
21a 高山市
21b 大野郡白川村
21c 中津川市
21d 岐阜市
21e 揖斐郡徳山村（→揖斐川町）
静岡県
22a 静岡市
22b 榛原郡本川根町（→川根本町）
22c 磐田郡水窪町（→浜松市）
22d 賀茂郡松崎町
22e 浜名郡新居町
愛知県
23a 北設楽郡設楽町
23b 西春日井郡師勝町
23c 岡崎市
23d 豊橋市
23e 常滑市
三重県
24a 安芸郡美里村
24b 阿山郡阿山町（→伊賀市）
24c 志摩郡阿児町（→志摩市）
24d 北牟婁郡海山町
24e 南牟婁郡御浜町
滋賀県
25a 長浜市
25b 高島郡安曇川町（→高島市）
25c 神崎郡能登川町
25d 大津市
25e 甲賀郡甲賀町（→甲賀市）
京都府
26a 中郡峰山町（→京丹後市）
26b 舞鶴市
26c 船井郡丹波町
26d 京都市
26e 相楽郡山城町
大阪府
27a 高槻市
27b 大阪市
27c 八尾市
27d 河内長野市
27e 泉佐野市
兵庫県
28a 豊岡市
28b 朝来郡生野町（→朝来市）
28c 神戸市
28d 相生市
28e 洲本市
奈良県
29a 大和郡山市
29b 宇陀郡榛原町
29c 五條市
29d 吉野郡下北山村
29e 吉野郡十津川村
和歌山県
30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町
30b 和歌山市
30c 御坊市
30d 田辺市
30e 新宮市

鳥取県
31a 鳥取市
31b 米子市
31c 日野郡日野町
島根県
32a 仁多郡仁多町（→奥出雲町）
32b 出雲市
32c 浜田市
32d 隠岐郡西郷町（→隠岐の島町）
32e 隠岐郡西ノ島町
岡山県
33a 勝田郡勝央町
33b 新見市
33c 岡山市
33d 小田郡矢掛町
33e 笠岡市
広島県
34a 三次市
34b 府中市
34c 広島市
34d 因島市
34e 安芸郡倉橋町（→呉市）
山口県
35a 萩市
35b 大島郡大島町（→周防大島町）
35c 徳山市（→周南市）
35d 美祢市
35e 豊浦郡豊北町（→下関市）
徳島県
36a 鳴門市
36b 阿南市
36c 美馬郡脇町（→美馬市）
36d 海部郡海南町
36e 三好郡東祖谷山村
香川県
37a 小豆郡土庄町
37b 木田郡三木町
37c 丸亀市
37d 仲多度郡多度津町
37e 観音寺市
愛媛県
38a 越智郡大三島町（→今治市）
38b 西条市
38c 松山市
38d 大洲市
38e 宇和島市
高知県
39a 室戸市
39b 高知市
39c 高岡郡檮原町
39d 幡多郡三原村
福岡県
40a 北九州市
40b 遠賀郡芦屋町
40c 築上郡新吉富村
40d 飯塚市
40e 嘉穂郡稲築町
40f 福岡市
40g 八女市

佐賀県
41a 東松浦郡鎮西町（→唐津市）
41b 鳥栖市
41c 佐賀市
41d 武雄市
長崎県
42a 壱岐郡芦辺町（→壱岐市）
42b 平戸市
42c 長崎市
42d 南松浦郡奈良尾町(→新上五島町)
熊本県
43a 阿蘇郡阿蘇町（→阿蘇市）
43b 熊本市
43c 球磨郡錦町
43d 天草郡天草町
大分県
44a 東国東郡国東町
44b 宇佐市
44c 大分郡挾間町
44d 佐伯市
44e 日田郡前津江村（→日田市）
宮崎県
45a 延岡市
45b 東臼杵郡椎葉村
45c 宮崎市
45d 北諸県郡山田町
45e 日南市
鹿児島県
46a 出水市
46b 揖宿郡頴娃町
46c 熊毛郡上屋久町
46d 大島郡龍郷町
沖縄県
47a 国頭郡今帰仁村
47b 那覇市
47c 平良市
47d 石垣市
47e 八重山郡与那国町

(2005.09.30.作成)



(2004.06.30.作成)

各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

1．年次計画

年度 計画	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
(千円) 予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

2．調査県一覧

第1次 (S.52～54)	第2次 (S.53～55)	第3次 (S.54～56)	第4次 (S.55～57)	第5次 (S.56～58)	第6次 (S.57～59)	第7次 (S.58～60)
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8県	8県	6県	8県	10県	3県	4県

各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年５月１日
文化庁長官裁定
（昭和62年６月１日廃止）

１．趣旨

全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し，必要な事項を定めるものとする。

２．補助事業者

補助事業者は，都道府県とする。

３．補助対象事業

補助対象となる事業は，当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

４．補助対象経費

補助対象となる経費は，次に掲げる経費とし，その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

５．補助金の額

補助金の額は，補助対象経費の２分の１以内の定額とし，750千円を最高限度額とする。ただし，沖縄県については，別途協議して定めるものとする。

（別紙）

名称	対象経費の区分		項	目	目の細分	説　明
各地方言収集緊急調査事業	主たる事業費	調査経費	各地方言収集調査	報償費	○○謝金	調査員，調査補助員等謝金
					○○文字化謝金	
					○○協力謝金	資料
				旅費	普通旅費	
					費用弁償	
					特別旅費	
				需用費	消耗品費	野帳等文具，録音用テープ
					印刷製本費	調査報告用紙
					会議費	企画委員会打合会
				役務費	通信運搬費	郵便，電信電話料等
				使用料及び賃借料	会場借上料	
					器具借上料	
				委託料	○○委託費	事業の一部を委託して実施する場合（特に認められた場合に限る）

各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年７月28日
文化庁次長決裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては，文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか，この実施要領によるものとする。

１．地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては，県下の方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また，離島など，特色の認められる方言は，可能な限り収録するよう努めなければならない。

２．録音内容・話者

ア　老年層話者による会話

収録内容――次の３種類の対話又は会話を収録する。

(1)　老年層の男女各１人による対話，又は，男女を含む３人の会話

(2)　老年層の男性２人の対話，又は，老年層の男性３人の会話

(3)　老年層の女性２人の対話，又は，老年層の女性３人の会話

話者の年齢など――原則として，収録時において60歳以上とし，やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけない。また，話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴――その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，その期間が短い（在外期間は３年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り，婿入りした人は採らない。ただし，女性については，他に適当な人が求められないときは，近隣地域から嫁入りした人でも，収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者――主たる話者のほかに，話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は，あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し，会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題――自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

イ　老年層と若年層との会話

収録内容――老年層の男性と若年層の男性との対話，又は，両者を含む３人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など――老年層については前項アに準ずる。若年層については，原則として

20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

話者の居住歴――老若ともアに準ずる。

ウ　目上の者と目下の者の会話

収録内容――目上，目下の関係にある老年層の男性２人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として，たとえば，僧侶対その檀家に当たる人物，その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業，漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

話者の年齢――目上，目下とも60歳以上を原則とする。

話者の居住歴――原則として前項アに準ずる。ただし，目上に当たる者については，在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので，アの条件（在外歴３年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

エ　場面設定の会話

目的と方法――自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。

場面の内容――各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の数場面を設定し，各場面の録音量は，１～３分程度とする。

話者――場面に応じて老年層の男性どうしの対話，老年層の男性対同女性の対話等を行う。

オ　民話

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

３．録音機・録音技術

必ず，ステレオで録音することとし，テープは，オープン，カセットのいずれでもよい。この調査は，自然な方言会話を良い録音で収録し，それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

録音機の操作は，録音技術に習熟した者が行い，会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお，良質の録音を得るための基本的な留意点は次のとおりである。

①　雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音，とびらの開閉音，机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など），紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

②　内蔵マイクを使用すると良質の録音が得られないので，必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

③　マイクはなるべく話者の近くに配置し，どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかなりの差があることが多いので，この点に注意してマイクを配置すべきである。

録音の際には，音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

④　テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は２台使用すること。

⑤　カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

４．文字化原稿の作成・表記

文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし，方言の音声的特徴をある程度表しうるよう工夫する。ただし，文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には，共通語訳を付けるとともに場面，文脈，特徴的音声，方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

5．収録地点の概観，話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通，地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また，話者の経歴，録音内容などについては，「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

1．調査（方言収録）の年次計画（（　）は実施要領・文字化の時間数）

○　第１年次

①　老年層の男女各１人による対話，又は，男女を含む３人の会話（アの(1)・２時間）

②　老年層の男性２人の対話，又は，老年層の男性３人の会話（アの(2)・１時間）

○　第２年次

①　目上の者と目下の者の会話（ウ・２時間）

②　老年層の女性２人の対話，又は，老年層の女性３人の会話（アの(3)・１時間）

○　第３年次

①　老年層と若年層との会話（イ・１時間）

②　場面設定の会話（エ・１時間）

③　民話（オ・１時間）

(注)　３年次の「③　民話」の収録不能のときは，２年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性２人の会話を収録

2．調査報告書の提出部数

(1)　録音テープ

・正……収録した生のテープ　　１部

・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）　２部

(2)　文字化原稿

・正……手書き原稿　　１部

・副……正のコピー　　２部

3．調査報告書の様式等

(1)　録音テープの記録票

NO. 正

○　○　県　　—○

(副)

各地方言収集緊急調査録音記録票

補助要項の記号

1　採録地点＿＿＿＿＿＿＿＿

2　採録年月日＿＿＿＿＿＿＿＿

3　話題・時間　A面＿＿＿＿＿＿＿＿（　　）分

B面＿＿＿＿＿＿＿＿（　　）分

4　話者＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿

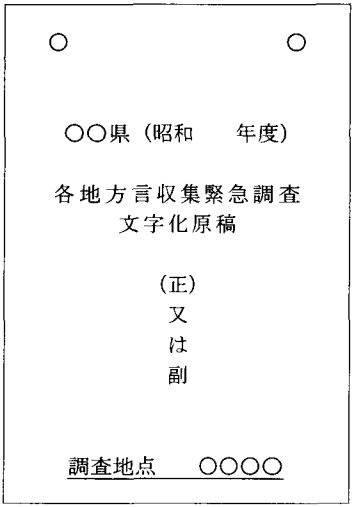
＿＿＿＿＿＿＿＿

5　採録機種＿＿＿＿＿＿＿＿

テープのケース箱に張り付けるようにしてください。

⑵　文字化原稿の表紙

文字化原稿は，各調査地点ごとに，⑴ 録音内容記録票，⑵ 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ），⑶ 録音文字化原稿の順で表紙（Ｂ４板目紙）を付けて綴ってください。



⑶　文字化原稿の用紙

① 録音内容記録票
② 方言資料割付用紙
③ 方言調査解説用紙

（別紙のとおり）

調査実施上の留意事項について

1　調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1年次	①　老年層の男女各1人による対話，又は，男女を含む3人の会話（ア一（1）） ②　老年層の男性2人の対話，又は，老年層の男性3人の会話（ア一（2））	10	2 1
2年次	①　目上の者と目下の者の会話（男性2人）（ウ） ②　老年層の女性2人の対話，又は，老年層の女性3人の会話（ア一（3））	10	2 1
3年次	①　老年層と若年層との会話（イ） ②　場面設定の会話（エ） ③　民話（オ） （民話が収録できないときは，（注）参照。））	10	1 1 1
計		30	9

（注）

民話の適当な語り手が存在しない場合などのため，収録が不可能な地点は，老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の2人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが，長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

2　調査報告書の提出部数

(1)　録音テープ

正……収録した生のテープ　1部

副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）2部

(2)　文字化原稿

正……手書き原稿　1部

副……正のコピー　2部

3　調査報告書の様式等

(1)　録音テープの記録票

NO. 正

○　○　県　　—○

(副)

各地方言収集緊急調査録音記録票

補助要項の記号

1　採録地点

2　採録年月日

3　話題・時間　A面　　(　　) 分

B面　　(　　) 分

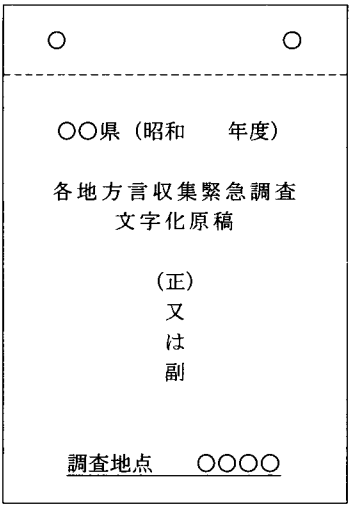
4　話者

5　採録機種

テープのケース箱に張り付けるようにしてください。

(2)　文字化原稿の表紙

文字化原稿は，各調査地点ごとに，(1) 録音内容記録票，(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ），(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B４板目紙）を付けて綴ってください。



(3) 文字化原稿の用紙

① 録音内容記録票
② 方言資料割付用紙
③ 方言調査解説用紙

} 別紙のとおり

(用紙の印刷発注については，国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

4 文字化原稿の記入について（国語研・言語変化研究部でまとめたもの）

(1) 原稿用紙には，「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の２種類があり，「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を，「解説用紙」には収録地点の概観，収録方言の特色，表記法についての説明，文字化内容についての注記などを記入する。

(2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。（青インキは不可。）

割付用紙への記入

① 割付用紙の第１ページには，タイトル（録音内容を代表するようなもの），話し手の略号・氏名・性・生年を記入し，一段あけて，録音内容の文字化・標準語訳を記入する。（記入例参照）

② 割付用紙の左端の[ ]には話し手の略号を記入する。

③ カウンターつきの録音機を使用した場合は，その番号を要所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。

④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位の分かち書きとし，各センテンスの末尾に句点「。」「，」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお，談話文における文の認定は方法論的に多くの問題があるが，あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音的カタカナ表記による。これは，利用者の便宜，文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし，対象とする方言の性格によって，カナ表記では特殊な字母を多数必要とし，かえって煩雑になると判断される場合は，国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻（音素）表記は採らない。これは，音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や，自然会話にしばしば現われる無造作な発音，また，標準語的な発音の混入などを，解釈を加えずに，音声学的に記述しようとする意図による。なお，カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから，それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については，解説（表記法の項）で説明しておいていただきたい。

エ 長音，鼻音，あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合，原則として次の方式によってほしい。

(ア) 長音には「ー」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ)ガ行鼻音は，カ゜キ゜ク゜…のように表わす。

例 カカ゜ミ [kaŋami]（鏡）

(ウ) 鼻音化には「ン」(上つき小字のン) を用いる。

例 マンド [ma~do] (窓)

カンゴ [ka~go] (籠) —高知方言など—

(エ) 合拗音の [kwa] [gwa] はクヮ，グヮのように表わす。

例 クヮジ [kwaʒi] (火事) —九州方言など—

(オ) [ʃe] [dʒe] はシェ，ジェのように表わす。

例 シェナカ [ʃenaka] (背中) —九州方言など—

(カ) [ti] [di] はティ，ディ，[tu] [du] はトゥ，ドゥのように表わす。

例 トゥキ [tuki] (月) —高知方言など—

(キ) [Φa] [Φi] [Φe] …はファ，フィ，フェのように表わす。

例 フェンビ [Φe~bi] (蛇) —奥羽方言など—

(ク) [je] の音はイェで表わす。

例 イェダ [jeda] (枝) —九州方言など—

(ケ) [æ] [kæ] [sæ] …はアェ，カェ，サェのように表す。

例 アカェー [akæ:] (赤い) —岡山方言など—

(コ) [ɛ] [kɛ] [sɛ] …はエァ，ケァ，セァのように表わす。

例 アゲァ [agɛ] (赤い) —奥羽方言など—

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか，あるいは，一般的な字母を使用しておき，そのつど注記欄で説明する。

例 キモノ(注)→注 [kçimono]

オ アクセント，文末イントネーションの記述の有無は，その表記法を含め，担当者にまかせる。

カ 発音や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には＿＿線を付けておく。

例 カステクレァー

キ 幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを＿＿線付きで記述し，他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例 カステクレァー(注)→注 「カステケロエ」または
「カステケロヤ」とも聞こえる。

ク 聴き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし，最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する (意識する) 発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない，すなわち，話者が主張するようにはどうしても聴き取れない場合もありうるが，このような場合には，文字化担当者に「聞こえる音声」を＿＿線付きで記述し，話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例 ボカー(注)→注 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ 最終的に聴き取り不能の箇所には，＿＿線のみを記しておく。

⑤ 言いよどみ，言いかさなり，言いなおし，笑い声など。

ア 言いよどみは，その末尾に…線を付ける。

例 オフロ サキカ。 タベルノ サキ…。

イ 発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には，次のように ( ) を利用し，発言

が重複する部分に＿＿線を付ける。

例　A　ヒルママデ　マズ　スコ゜トモ　オエッカラッテ

（B　ンダケンド　オレァー）　アト　スク゜イ　モッテクッカラ

ウ　重複部分が長い場合や，一人の発言が終わらないうちに他の者が話しはじめたような場合には，改行して，重複部分に＿＿線を付ける。

例　A　アー　バサマ　オチャ　ダシェ　マズ。　チョイット

ナカ゜ス　キター。

B　イヤ　イソカ゜　スィンダテ　キョーノー。

エ　言いかけて，それを言いなおした場合には，言いかけた部分に×××××を付ける。

例　アノー　ワズカナ　ゴ　ゴジュー

××　××××××

ゴジューエングラェージャッタカナー。

オ　笑い声などは文字化本文中に（　）に入れて記す。

例　ウレシーナー　（笑）

⑥　標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし，それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがたいと判断される場合には，注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが，標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え，訳しかたが問題となるような箇所については，なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

⑦　注記について

ア　「割付用紙」には注記番号のみを（　）に入れて記し，注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ　注記は，音声的特徴，基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など），方言形の意味・用法・語源，民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など），文脈のねじれ，標準語訳についての補足，話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに，方言形の意味・用法については，できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

A　収録地点とその方言について

1　地点名

2　収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）

3　収録した方言の特色

①　方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

②　音韻上の特色（モーラ表・音声的特徴）

③　文法上の特色（要点のみ。箇条書き）

4　その他（地点選定の理由，協力者の氏名，協力内容など）

B　表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲，特殊な表記についての

説明，判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C　収録内容の概説，注記など

1　タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）

2　録音年月日

3　録音場所

4　話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話し好きかどうか・早口か等）など。（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）

5　録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお，A，B，Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は，方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに，急速に失われつつある各地の伝統的方言を，文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が，この資料の一部を用いて，独自に報告書を刊行している。ただし，市販されているわけではないので，一般には入手しにくい。また，その形態は印刷物であり，電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については，未公開であった。

その後，「各地方言収集緊急調査」報告資料は，文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では，受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために，膨大な報告資料を整備して，方言談話の大規模なデータベースを作成し，公開するという計画を開始した。

平成８(1996)～12(2000)年度には，一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において，報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は，情報資料研究部第二研究室（当時），担当者は，井上文子であった。所外研究委員として，真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科，元国立国語研究所）に委嘱を行った。

平成13(2001)年度からは，「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として，全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門・領域は，情報資料部門第二領域，担当者は，井上文子（情報資料部門第一領域）である。所外研究委員として，佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所），江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所），田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部），真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科，元国立国語研究所）に委嘱を行っている。

その一方で，平成９(1997)～13(2001)年度には，作成データベース名「全国方言談話資料データベース」，作成委員会名「全国方言談話資料データベース作成委員会」として，また，平成14(2002)年度からは，作成データベース名「全国方言談話データベース」，作成委員会名「全国方言談話データベース作成委員

会」として，科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受け，音声資料，文字化資料を電子化する作業を進めている。作成委員長は，佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所）であり，「各地方言収集緊急調査」当時，国立国語研究所言語変化研究部第一研究室室長として，調査の計画段階から指導・助言にあたり，調査および報告資料の全体像を把握している。作成委員としては，江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所），田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部），井上文子（国立国語研究所情報資料部門第一領域）が担当している。平成13(2001)年度には，「全国方言談話データベース」の公開を開始した。

なお，このデータベースの作成事業で受けた，科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成９年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円
平成14年度	148034	5,200,000円
平成15年度	158043	6,100,000円
平成16年度	168037	7,000,000円
平成17年度	178036	6,500,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については，日本全国の47都道府県でそれぞれ５地点程度，計200地点あまりにおける，約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと，その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので，現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的よく残されているものであると考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが，膨大な資料を一気にデータベース化するのは困難であるので，段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では，まず，第一段階として，各都道府県につき１地点，計47地点の老年層男女の自然会話を選び，その地の伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには，次のような作業が必要であった。

①録音テープには，正が１本，副が２本ある。正は収録したオリジナルのテープ，副は正より文字化部分のみを編集したもので，いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し，複製を作成する。

②文字化原稿には，正が１部，副が２部ある。正は，文化庁指定のＢ４判の用紙を使用した手書き，副は正のコピーである。正の文字化，共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では，できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。

③文字化原稿の収録地点，話者，収録内容，状況記録などの確認をし，その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。

④今回刊行するものでは，老年層男女の自然談話のうち，各都道府県につき１地点30～50分をめやすとして，データベース化部分に選定する。

⑤データベース化する部分の，文字化テキストと，それに対応するデジタル化した録音音声を抽出する。

⑥音声データをもとに，文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては，原資料の文字化原稿に従って行うが，見やすさを優先させたり，全体の統一を図ったりするため，必要に応じて変更を加える。この作業は，その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。

⑦記号の種類と使い方，句読点，分かち書きなどについて，凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は，見やすさや全体の統一のため，必要に応じて変更を加えているので，「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。

⑧文字化データに沿う形で，注記を整える。原則としては原資料に従って行うが，場合に応じて最低限の変更を加える。

⑨収録地点の概観，方言の特色などの解説については，原則としては原資料に従って行うが，全体の統一を図るため，表記・章立てなどについて，最低限の変更を加える。

⑩調査の概要，収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報，話者の性別・年齢・職業などの情報をまとめる。

⑪校正を行った文字データをもとに，文字化と共通語訳を２段組に対照させたファイルを作成する。さらに，それを pdf ファイルにする。

⑫文字化と共通語訳を２段組に対照させたファイルを用いて，文字化の text ファイル，共通語訳の text ファイルを作成する。

⑬音声データは，サンプリング周波数22.050 kHz，量子化ビット数16 bit でデジタル化して，音声ファイル（wave形式）を作成する。そして，それを文字化と共通語訳を２段組に対照させたページに従って，ページ単位に切り，文字化・共通語訳の pdf ファイルにリンクさせる。

⑭CD-ROM は，データベースソフトを利用して，文字化・共通語訳の文字列による検索，話者による検索などができるようにする。

⑮CD には，トラックに区切った談話全体の音声を収録する。

⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については，必要に応じて，現地に赴き，収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら，入手に努める。

⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには，可能な限り，文書でデータ公開の通知と確認を行う。

⑱作成過程において，ある程度のデータが蓄積された段階で，CD-ROM，または，音声はカセットテープ・MD，文字は FD を媒体とした試作版を作成し，モニターに依頼して意見・要望を求め，データベースに反映させる。

⑲検索情報の整備，検索マニュアル，利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は，冊子，CD-ROM，CD から成り，方言談話の音声（wave ファイル），文字化（カタカナ表記，text ファイル），共通語訳（漢字かなまじり表記，text ファイル），文字化・共通語訳を２段組に対照させたもの（冊子，pdf）などを収録している。従来にはあまりなかった，

音声，文字化，共通語訳の電子化データを備えているので，研究や教育のために加工して，自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては，国立国語研究所における『全国方言談話データベース』刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として，熊谷康雄（情報資料部門），委員として，熊谷智子（研究開発部門第二領域），三井はるみ（研究開発部門第二領域），井上優（日本語教育部門第一領域），井上文子（情報資料部門第一領域）が担当した。

刊行計画は下記のとおりとなっている。

書名：『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』 全20巻

各巻：冊子１冊 Ａ５判 約250ページ，CD-ROM１枚，CD１枚

巻数	巻名	ISBN
第１巻	北海道・青森	4-336-04361-2
第２巻	岩手・秋田	4-336-04362-0
第３巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9
第４巻	茨城・栃木	4-336-04364-7
第５巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5
第６巻	東京・神奈川	4-336-04366-3
第７巻	群馬・新潟	4-336-04367-1
第８巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X
第９巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6
第14巻	鳥取・島根・岡山	4-336-04374-4
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9
第18巻	福岡・佐賀・大分	4-336-04378-7
第19巻	長崎・熊本・宮崎	4-336-04379-5
第20巻	鹿児島・沖縄	4-336-04380-9

国立国語研究所資料集13-3

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第３巻 宮城・山形・福島

2005年９月30日 発行

編集：独立行政法人国立国語研究所
〒190-8561
東京都立川市緑町3591-2
TEL：042-540-4300（代表）
FAX：042-540-4339
URL：http://www.kokken.go.jp

本書の市販品発行所

発行：国書刊行会
〒174-0056
東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421（代表）
FAX：03-5970-7427（営業）
URL：http://www.kokusho.co.jp

（平17-17）